

思考整理単語集

思考を深め、整合性を整え、確信の枠を広げる

300単語で仕事を、表現する言葉を確認にする
単語群は考えるための積み木である

一つ一つの言葉に負の力があってはならない。仕事をするために、自らの生活のために負を表現してはならない。もし、負の言葉が避けられないのであれば、負を打ち負かしてしまう言葉で覆わなければならない。考える力は、前を向いて強くなる。

- ・ 講演、研修準備に
 - ・ 目的設定のために
 - ・ 課題を明らかにするために
 - ・ 部下育成に
 - ・ 論文、レポート作成に
 - ・ 論理の過不足をなくすために
- e t c.

作成意図

◆大切な単語を300語抽出

たくさんの種類の仕事があるが、すべての仕事に共通している基本となり、大切な単語はごく僅かである。

単語は考えるための積み木である。

子どもたちが遊ぶ積み木には、5つ6つの種類の立体が何個かずつある。その立体を使って、形を作る。ただ、高く、高く、積み上げていく時もある。世の中にあるものの形を真似る。いろいろと作っている間に、独創的な形を作りだす。子どもたちが遊ぶ積み木の立体数は多くても100ブロック程度だ。100ブロックほどの積み木で様々な形を作りだす。

単語の積み木の数には限度がないかもしれない。辞書に載っている数は20万語程度である。日常に知らない単語はほとんど出てこないから、私たちが知っている単語数は10万語程度だろうか。その中で、自らが日常に使っている単語数は、おそらく2000語から3000語だろう。3000語の周辺を含めても1万単語には至らないはずだ。

単語を積み木に置き換えたとしたら、同じ形になるブロックは何一つとしてない。一つの単語でも、人によっては解釈が微妙に違うから、形も重さも違う。それぞれが持っている単語の積み木を集めれば、無限だろう。

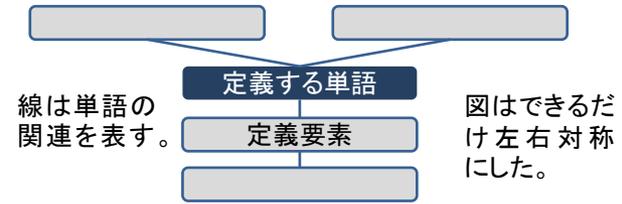
100ブロックほどの積み木で子どもたちは新たな形を作り出している。私たちは、単語の積み木を使って、新たな積み木も作りながら、新思潮を生み出している。

一人が2000語から3000語を使っていたとして、多くの人の共通部分で大切なところを絞り出してみると50単語から100単語ほどになる。共通部分を少し広げてみると、300語ほどになった。その単語群を本書に挙げた。仕事、マネジメント、マーケティング、市場、社会などについて書かれている文章を中心に単語群を引き出している。2ページと3ページに挙げた単語群である。科学・技術の専門分野となる単語群は除外している。

◆考えるための単語として

単語の意味を知りたければ、辞書を引けば良い。単語を自分の語として使うために、仕事の思考に、意思決定に矛盾やギャップを作り出さないために、思考、行動を積み上げていくために、単語の機能性を表せるように作ってみた。文ではなく、単語のつながりを表そうとした。表した単語はその単語を定義するための要素となるはずである。

単語群を眺めて、意味を自身で自由に展開できるようにした。もちろん、意味を外さないようにした。右上の図のように、単語をつないで表現している。一つの単語には正と負の意味がある。正を表していても負に向かうときがある。その逆もある。立場と考え方によって、正が負に、負が正になるときもある。



単語一つの意味を定めるためには、必ず別の単語が2、3語必要になる。単語一つの意味を固定しないで放っておくと、時と事情によって意味の方向が変わる。仕事をするとき、目的を設定するとき、方向が変わっては成果を効果的にあげられない。そのための1単語に対する語群である。

◆本書の構成

本書は、上に挙げた図の方法で300単語を表した。300単語が絡み合っており、仕事が成立し、目的にブレがないようになる。

300単語への視点を短い文でp.58から表した。図を見て、考えるときの参考、または叩き台になるようにした。

上図で表したページ数は53ページ(p.6~p.57)あるが、ここで使われる単語を集計して一覧にした。基本となる単語の周辺単語である。全体で2000語ほどあった。たぶん、2000語が仕事を支え、発展させていく単語群ではないだろうか。

これら以外に、前提として考えなければならない項目を挙げた。これらは如何なる仕事も、発展のために外してはならない事柄である。

もう一つ、社会が機能するための4つの原則を表している。

◆目次について

目次の●印のついている単語はページタイトルになっている。1ページはタイトルにできるだけ関連のある単語を集めた。ページの構成の順番は、ページタイトルの50音順である。

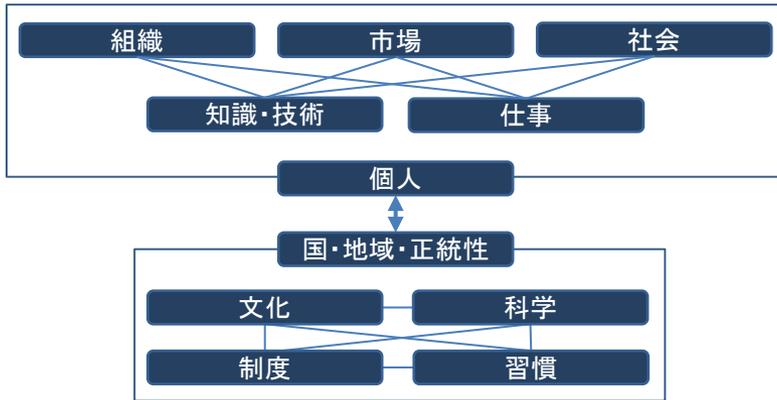
目次 1

本書作成意図.....	1	基盤.....	16	交通.....	42	指導.....	15
常に考えるべき前提	4	基本.....	16	公平.....	27	使命.....	23
4つの原則.....	5	お金.....	25	公理.....	16	視野.....	55
人材の能力資産...	35	オペレーション.....	35	合理性.....	39	●社会.....	25
各単語への視点...	58	-か-		効率.....	8	●社会観察.....	37
使用単語一覧.....	69	●教育.....	13	顧客.....	24	●社会基盤.....	26
		共生.....	6	個人.....	30	尺度.....	32
		競争.....	28	●コスト.....	18	●自由.....	27
		協働.....	57	●言葉.....	19	習慣(慣習).....	34
		教養.....	55	コミュニケーション.....	23	宗教.....	52
		●緊張.....	14	コミュニティ.....	42	充実.....	06
		金利.....	15	コラボレーション.....	54	●集中.....	28
		-く-		根源.....	16	主観.....	30
		偶像.....	34	混合.....	42	●主張(意見).....	29
		区別.....	50	-さ-		順位(評価).....	7
		グローバル化.....	9	サービス.....	24	仕様.....	24
		-け-		最適.....	39	条件.....	10
		経営(マネジメント).....	23	材料.....	17	●常識.....	30
		経験.....	55	策定.....	38	状態.....	7
		●経済.....	15	差別.....	52	●焦点.....	28
		計算.....	32	●産業.....	20	情熱.....	28
		継続.....	39	-し-		消費.....	49
		結論.....	10	時間.....	25	障壁.....	20
		原因.....	10	●事業.....	21	情報.....	25
		研究.....	17	軸.....	36	情報流.....	41
		言語.....	19	刺激.....	53	自立.....	44
		検索.....	49	資源.....	21	進化.....	8
		検証.....	10	思考.....	45	人格.....	44
		現状.....	47	●自己実現.....	22	人材.....	44
		原則.....	16	●仕事(ビジネス).....	23	人工.....	31
		検討.....	35	施策.....	54	真実.....	50
		●原理.....	16	資産.....	20	心情.....	56
		-こ-		●市場.....	24	人生.....	44
		行為.....	31	時制.....	50	診断.....	38
		効果.....	53	自然.....	12	●信頼.....	31
		貢献.....	24	思想.....	27	真理.....	50
		交渉.....	53	実現.....	49	-す-	
		向上.....	42	●構造.....	17	水準.....	7
		●構造.....	17				
		-お-					
		応用.....	45				
		-あ-					
		相手.....	57				
		アイデア.....	15				
		アプローチ.....	29				
		安全.....	25				
		●安定.....	6				
		-い-					
		●育成.....	7				
		意見(主張).....	29				
		意向.....	31				
		維持.....	42				
		意識.....	56				
		意思決定.....	46				
		依存.....	30				
		一般.....	30				
		異動.....	15				
		移動.....	42				
		●イノベーション.....	8				
		意味.....	29				
		意欲.....	28				
		●インターネット.....	9				
		インターフェイス.....	41				
		インフラ.....	26				
		-う-					
		運動.....	33				
		-え-					
		影響.....	43				
		エネルギー.....	26				
		-お-					
		基盤.....	16				
		基本.....	16				
		客観.....	30				
		ギャップ.....	40				
		●教育.....	13				
		共生.....	6				
		競争.....	28				
		協働.....	57				
		教養.....	55				
		●緊張.....	14				
		金利.....	15				
		-く-					
		偶像.....	34				
		区別.....	50				
		グローバル化.....	9				
		-け-					
		経営(マネジメント).....	23				
		経験.....	55				
		●経済.....	15				
		計算.....	32				
		継続.....	39				
		結論.....	10				
		原因.....	10				
		研究.....	17				
		言語.....	19				
		検索.....	49				
		検証.....	10				
		現状.....	47				
		原則.....	16				
		検討.....	35				
		●原理.....	16				
		-こ-					
		行為.....	31				
		効果.....	53				
		貢献.....	24				
		交渉.....	53				
		向上.....	42				
		●構造.....	17				
		-お-					
		応用.....	45				
		-あ-					
		相手.....	57				
		アイデア.....	15				
		アプローチ.....	29				
		安全.....	25				
		●安定.....	6				
		-い-					
		●育成.....	7				
		意見(主張).....	29				
		意向.....	31				
		維持.....	42				
		意識.....	56				
		意思決定.....	46				
		依存.....	30				
		一般.....	30				
		異動.....	15				
		移動.....	42				
		●イノベーション.....	8				
		意味.....	29				
		意欲.....	28				
		●インターネット.....	9				
		インターフェイス.....	41				
		インフラ.....	26				
		-う-					
		運動.....	33				
		-え-					
		影響.....	43				
		エネルギー.....	26				
		-お-					
		基盤.....	16				
		基本.....	16				
		客観.....	30				
		ギャップ.....	40				
		●教育.....	13				
		共生.....	6				
		競争.....	28				
		協働.....	57				
		教養.....	55				
		●緊張.....	14				
		金利.....	15				
		-く-					
		偶像.....	34				
		区別.....	50				
		グローバル化.....	9				
		-け-					
		経営(マネジメント).....	23				
		経験.....	55				
		●経済.....	15				
		計算.....	32				
		継続.....	39				
		結論.....	10				
		原因.....	10				
		研究.....	17				
		言語.....	19				
		検索.....	49				
		検証.....	10				
		現状.....	47				
		原則.....	16				
		検討.....	35				
		●原理.....	16				
		-こ-					
		行為.....	31				
		効果.....	53				
		貢献.....	24				
		交渉.....	53				
		向上.....	42				
		●構造.....	17				
		-お-					
		応用.....	45				
		-あ-					
		相手.....	57				
		アイデア.....	15				
		アプローチ.....	29				
		安全.....	25				
		●安定.....	6				
		-い-					
		●育成.....	7				
		意見(主張).....	29				
		意向.....	31				
		維持.....	42				
		意識.....	56				
		意思決定.....	46				
		依存.....	30				
		一般.....	30				
		異動.....	15				
		移動.....	42				
		●イノベーション.....	8				
		意味.....	29				
		意欲.....	28				
		●インターネット.....	9				
		インターフェイス.....	41				
		インフラ.....	26				
		-う-					
		運動.....	33				
		-え-					
		影響.....	43				
		エネルギー.....	26				
		-お-					
		基盤.....	16				
		基本.....	16				
		客観.....	30				
		ギャップ.....	40				
		●教育.....	13				
		共生.....	6				
		競争.....	28				
		協働.....	57				
		教養.....	55				
		●緊張.....	14				
		金利.....	15				
		-く-					
		偶像.....	34				
		区別.....	50				
		グローバル化.....	9				

目次 2

● 推理	45	断絶	39	-ね-		傍観	43	リスク	18
● 数	32	-ち-		ネットワーク	41	方向	50	● 理性	56
● ストレス	53	チーム	54	-の-		報連相	47	● 理想	56
-せ-		知覚	51	● 能力	45	● -ま-		● 流通	48
成果	57	知識	13	ノルマ	54	マーケティング	48	倫理	49
生活	25	● 秩序	36	-は-		● マイニング	49	-る-	
● 制御	39	中心	36	場	22	● マネジメント(経営)	23	-れ-	
生産	21	抽象	9	バーチャル	9	満足	53	歴史	12
生産性	21	● 挑戦	28	パターン	9	-み-		-ろ-	
政治	26	潮流	14	発見	55	未来	50	● 労働	57
性質	17	調和	39	発展	11	● 見る	51	● 論理	49
成長	6	-つ-		バランス	39	● 観る	51	-わ-	
● 精度	33	追求	11	判断	47	● 見る	51	和	6
● 制度	52	-て-		販売	48	視る	51		
● 正当	34	提案	40	-ひ-		診る	51		
● 正統	34	定義	19	比較	33	民族	52		
● 整備	35	● データ	37	ビジネス(仕事)	23	● -む-			
● 正負	29	● 適応	38	ビジョン	40	矛盾	38		
● 制約	39	● 適正	39	ビッグデータ	37	無駄	31		
責任	11	● デザイン(設計)	40	人	44	-め-			
世代	50	● 転換	41	評価(順位)	7	-も-			
設計(デザイン)	40	● 伝承	13	標準	16	目的	53		
● 全体	49	-と-		平等	27	● 目標	53		
● 選択	41	統一	41	-ふ-		モチベーション	22		
● 前提	36	道具	33	ファッション	43	問題	10		
● 戦略	18	統計	32	風土	52	-や-			
-そ-		闘争	52	ブランド	48	役割	57		
● 相関	10	特異	22	プロフェッショナル	22	-ゆ-			
● 創造	45	● 都市	42	プロジェクト	54	有効	33		
● 想定	38	● トренд	43	文化	52	-よ-			
● 相反	10	-な-		分解	46	抑圧	14		
● 組織	23	仲間	31	● 分析(解析)	46	欲求	53		
● 存在	36	-に-		-へ-		世論	26		
-た-		二一ズ	24	平均	32	-ら-			
● 体系	16	日常	6	平和	6	-り-			
● 卓越	22	● 人間	44	変化	8	リーダー	54		
● 達成	11	認識	56	変革	8	● 利益	18		
		-ぬ-		-ほ-		● 理解	55		

常に考えるべき前提



個人が置かれている環境、状況は改善できても変えるのは難しい。むしろ変えられないとした方が良好だろう。改善もすぐには難しい。

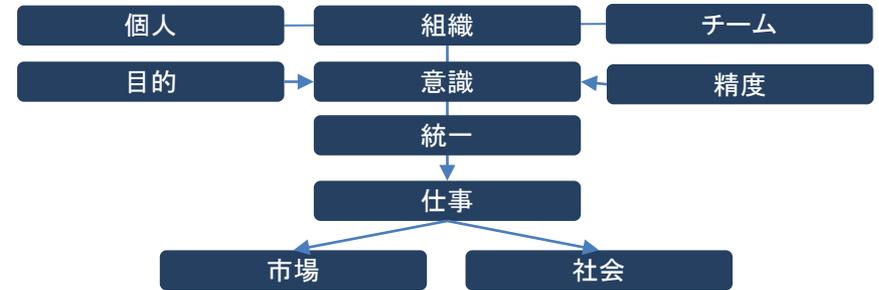
まず、個人がいる社会があり、仕事での市場があり、自身が所属している組織がある。個人が仕事を請け負い進められるだけの知識・技術を持っている。これらは、自身に直接に関わっている事柄である。

所属している社会と、仕事の対象としている地域には、文化、習慣がある。文化と習慣は、革命でも起こさない限り、変えられない。過去から積み上げてしまったものは、変えようがない。

何をするにしても、常にこれらを忘れてはならない。

自身が身を置く社会とは、市場とは、組織とは何かを確認しておく。そして、社会を形成している文化などを自らの言葉で、簡単ではあっても説明できるようにしていなければ、判断の根拠を見失ってしまう。慣習を忘れてしまうと、取り返しのつかない失敗もありえる。

これらが前提である。常に念頭に置いておかねばならない。今、現在を語られるようにしていなければならない。



仕事は決して一人では完結しない。まったくの一人企業であっても、顧客がいる。市場がある。物を作っているなら材料の仕入れ先がある。知識の仕入れ先がある。伝達する手段とインフラがある。

仲間がいるとき、目的を共有しなければならない。精度を意識しなければ、市場から忘れられてしまう。

これらは仕事をするため、仕事で成果を上げるための前提である。

身を置いている環境と、自らの仕事に関わる事柄は、如何なるもの考えるにしても前提となる。上の図にあがった単語群で、国と地域以外は、300単語の中に含まれている。仕事を考えるとすれば、右上の単語群のそれぞれについて、環境を考えるとすれば、左上の単語群の解を待たねばならない。

4つの原則

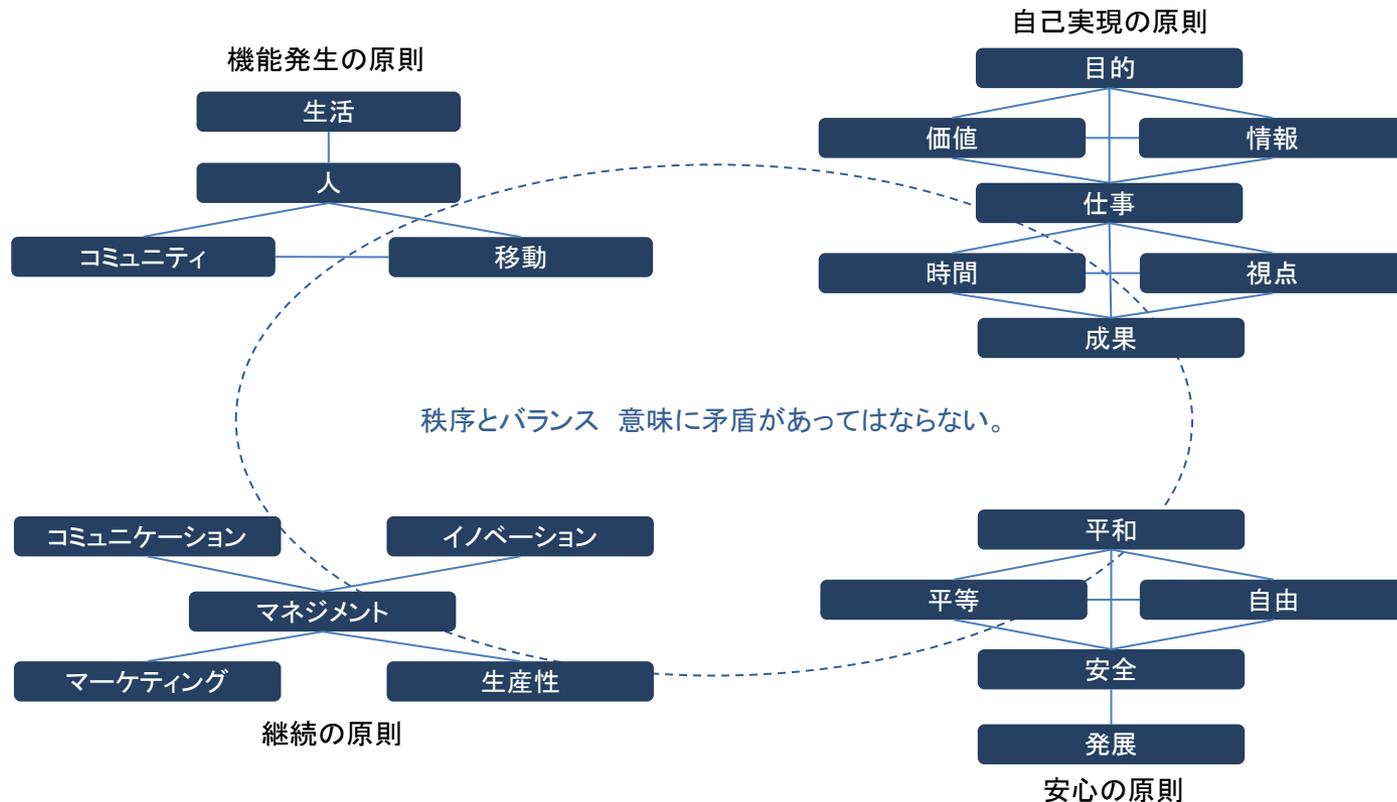
社会を維持・発展させていくためには、欠かしてはならない最低、4つの原則がある。

少なくとも、歴史が物語っている興亡は、4つのどれかの原則を失ったときに起こっている。「人々は安心して生活」できなければならない。自由と平等を得るために、どれほどの国が入り替わってきたか。自由と言う思想を実現するために、どれほどの闘争が起きたか。平和で安全になると文化が発展する。経済が活発化する。社会機能が充実する時も、安心が確保された時である。

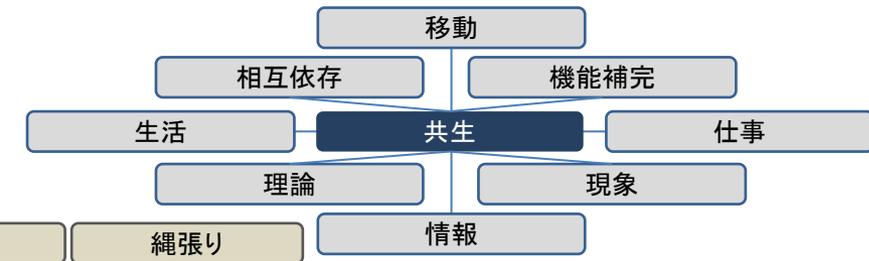
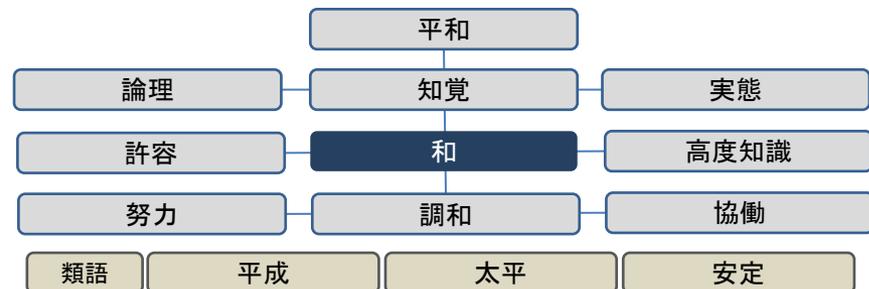
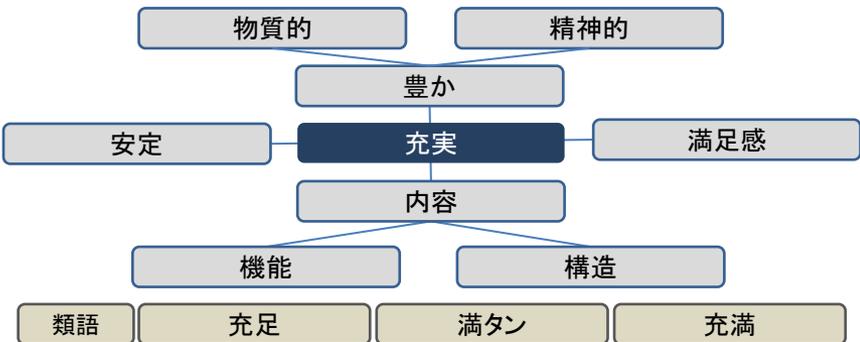
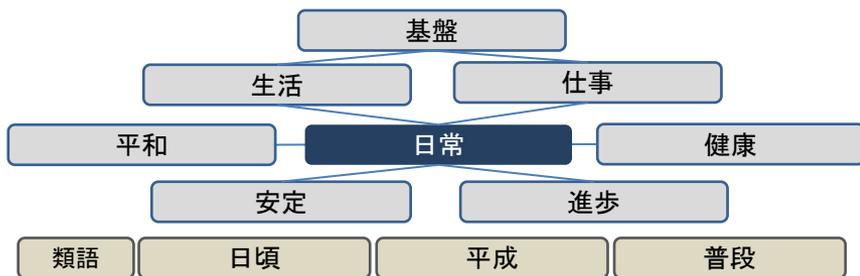
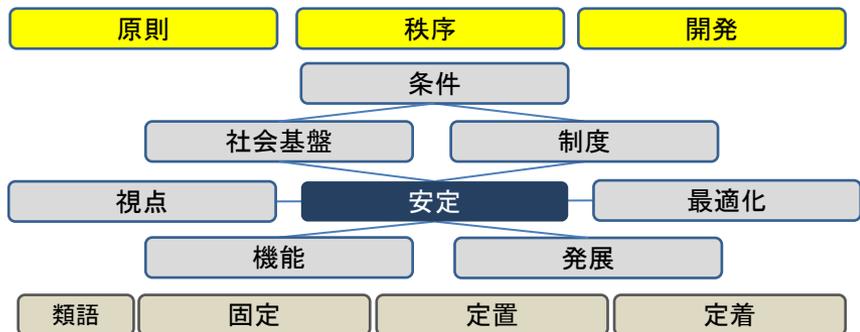
社会が安定し発展するには、社会機能が発達しなければならない。機能を維持し、進化させるのは人である。社会の秩序が守られるのは人々の生活が安定している。人が互いに刺激し合っている。

個人が成長するには自己実現を果たされなければ、個々が目標を失う。強制された仕事は発展しない。自らの意志で、自らの目的を持って、社会に参加して、初めて社会の秩序が得られ、発展する。

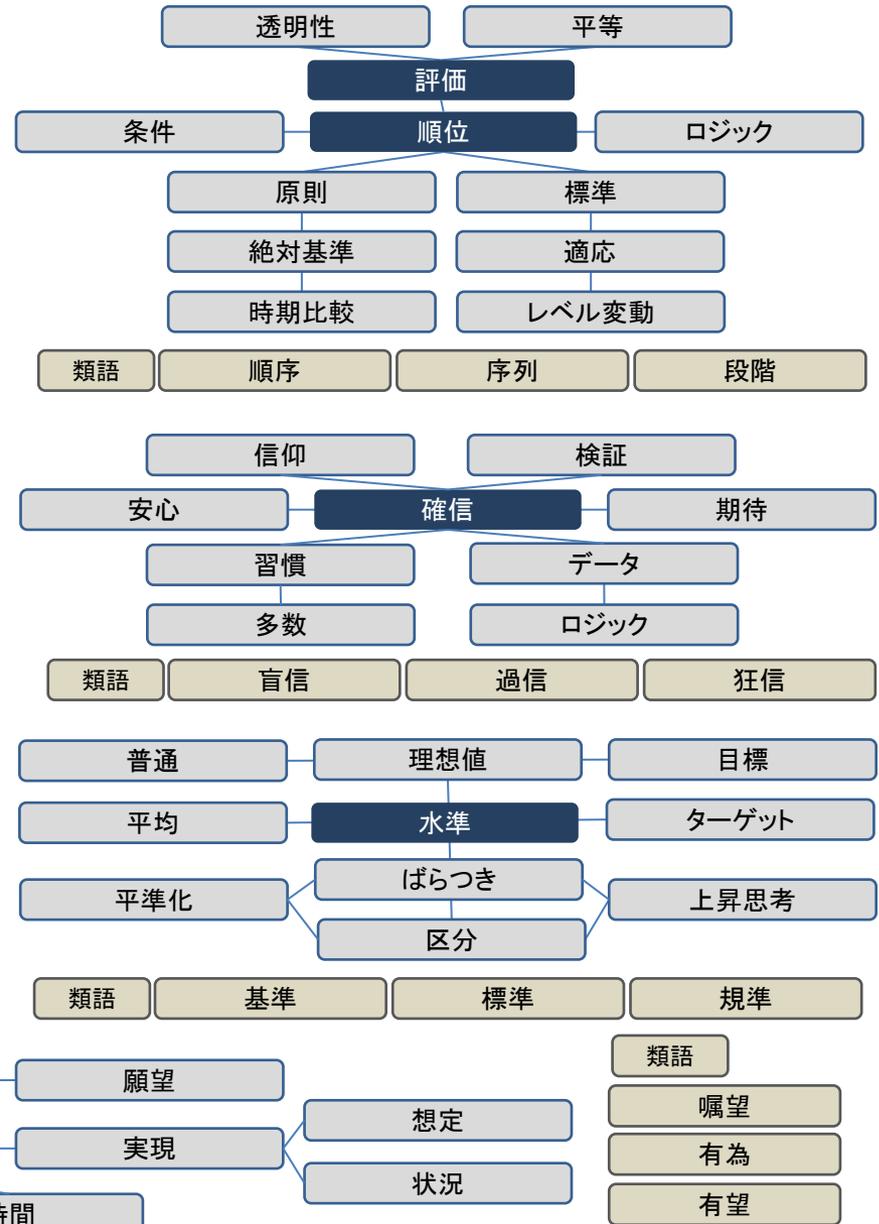
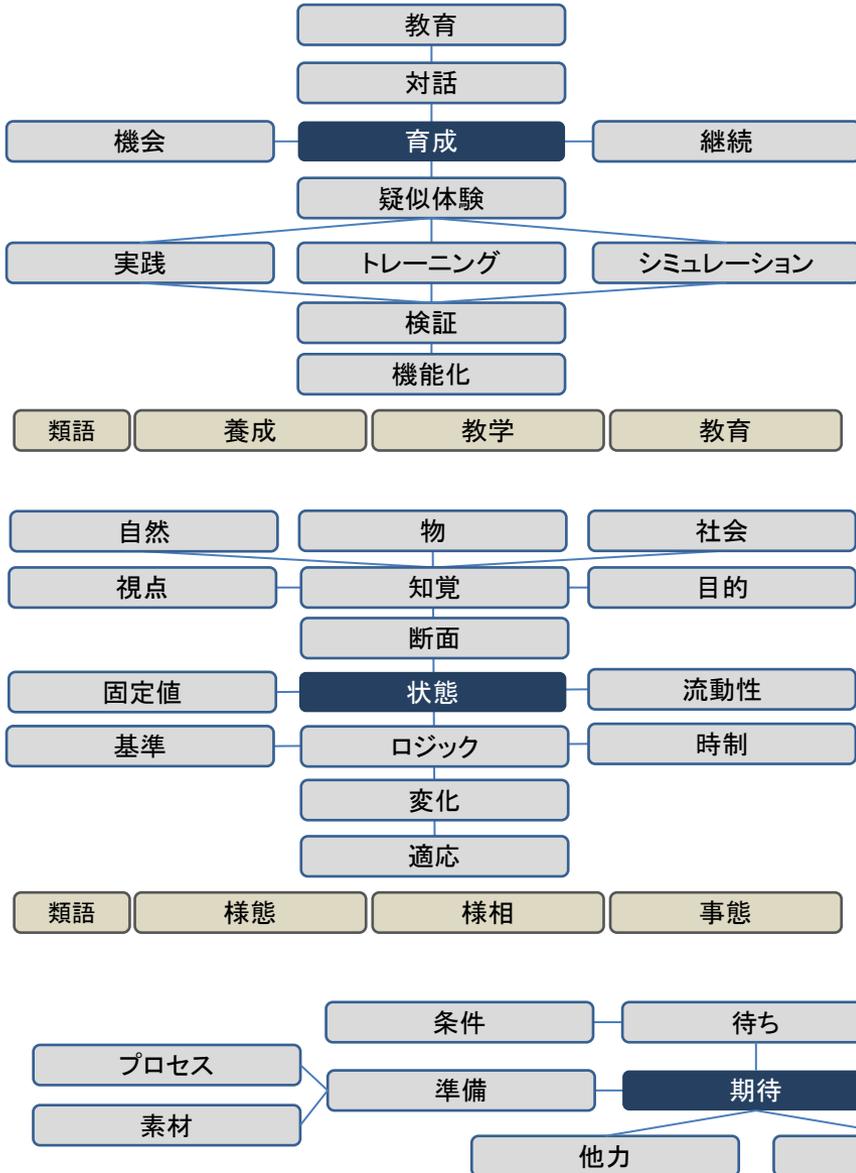
社会機能が継続し、発展するためには、継続の原則がなければならない。明日の分からない社会を望む者はいない。



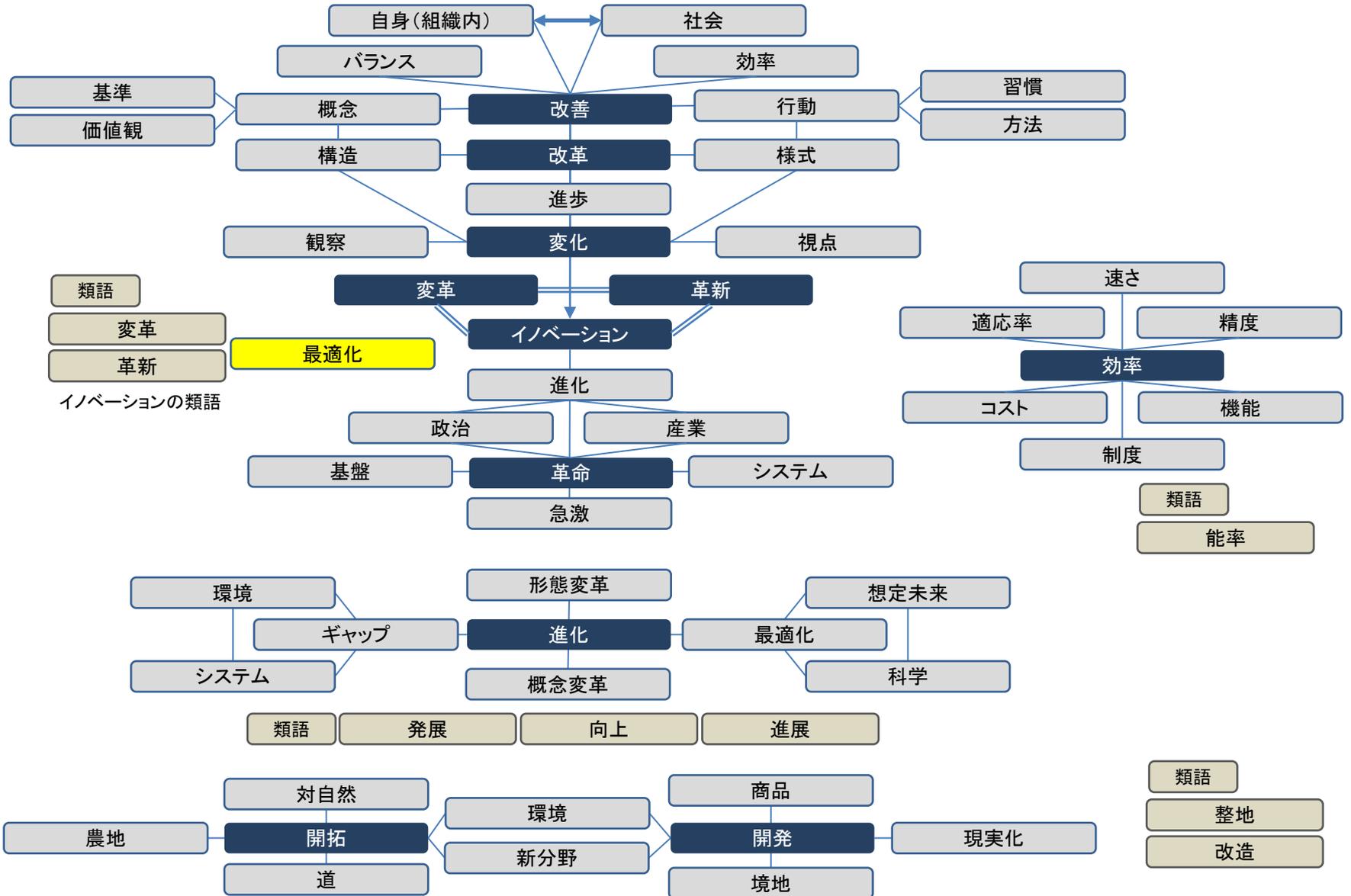
安定



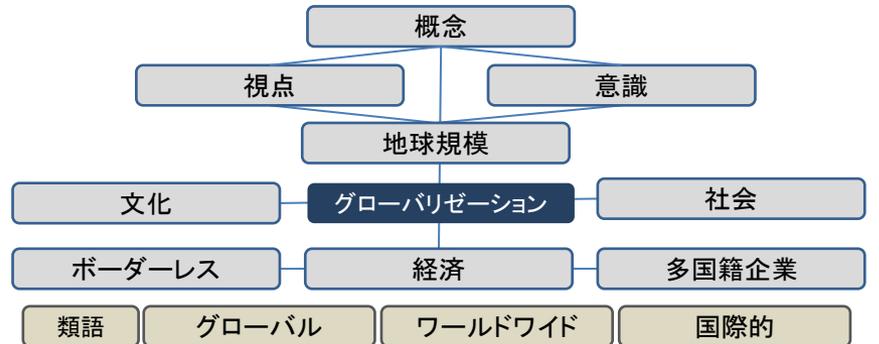
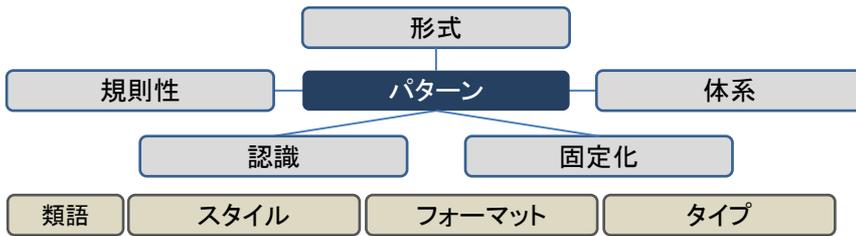
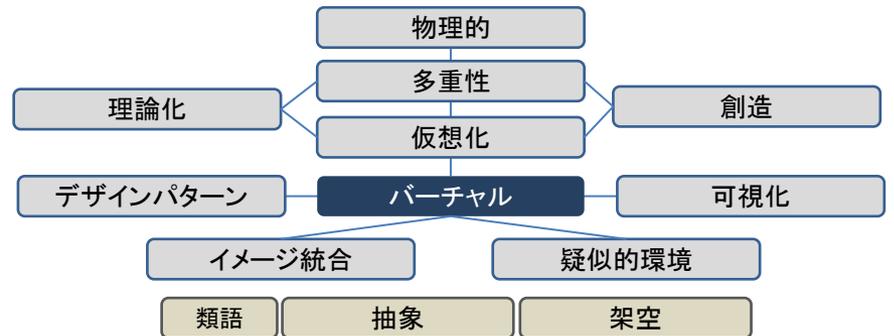
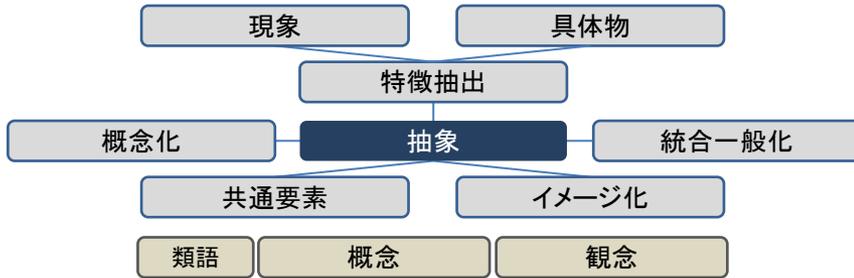
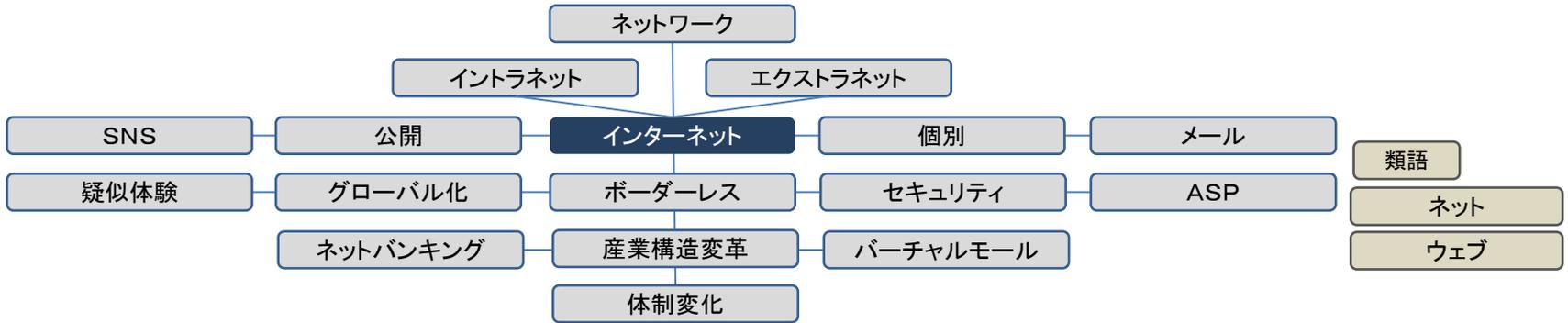
育成



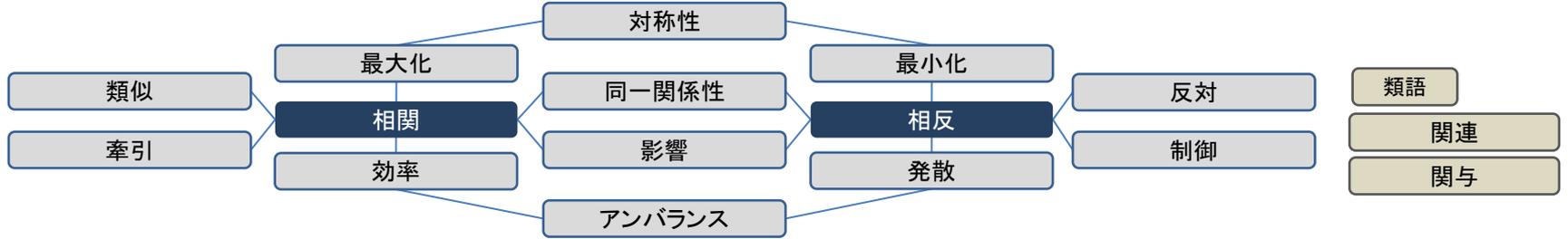
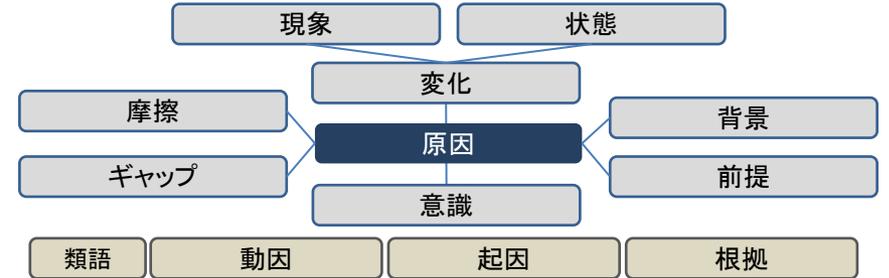
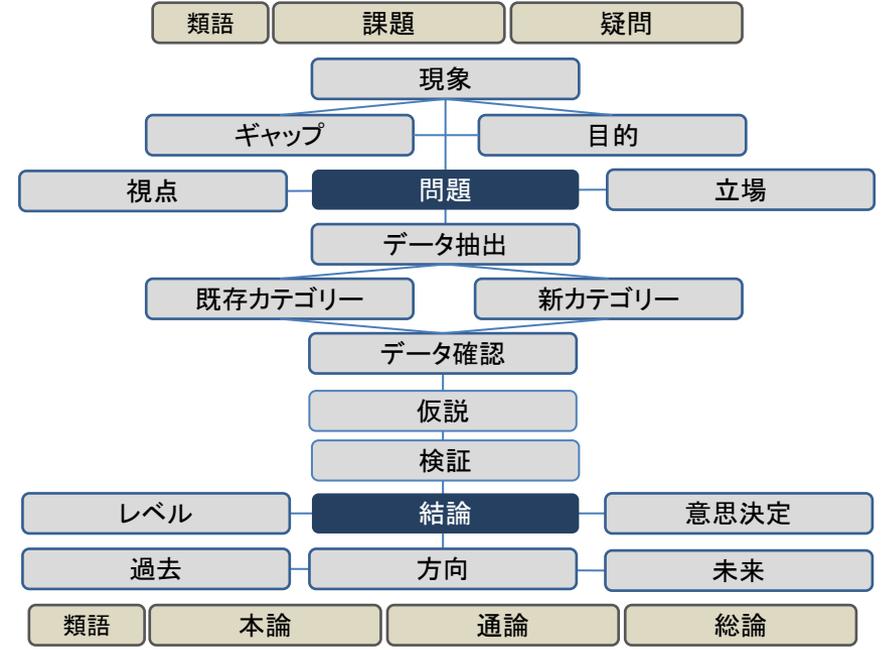
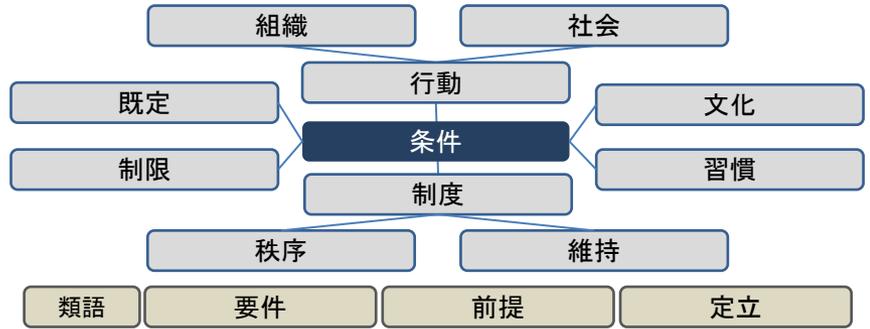
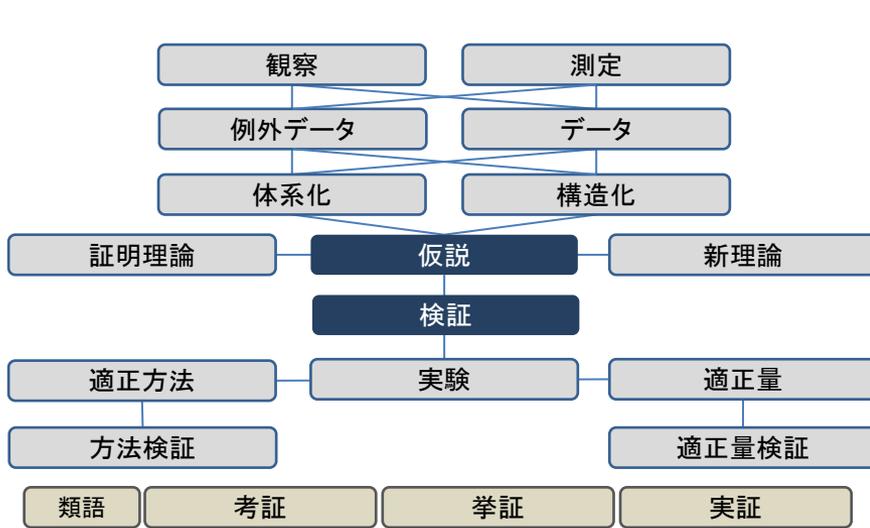
イノベーション



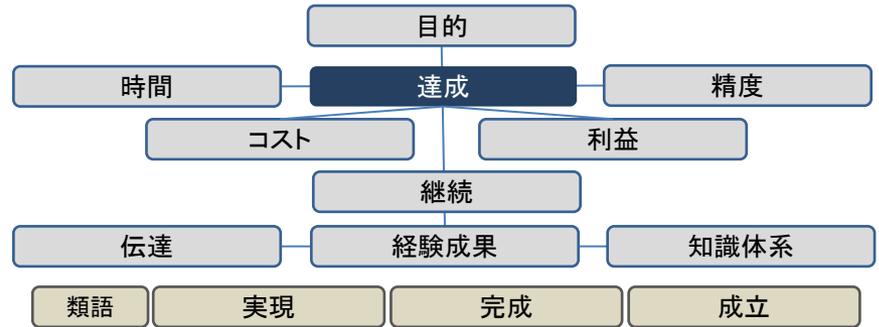
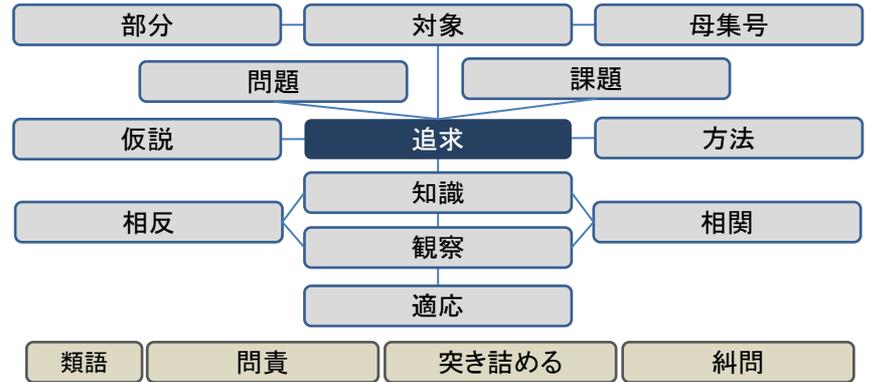
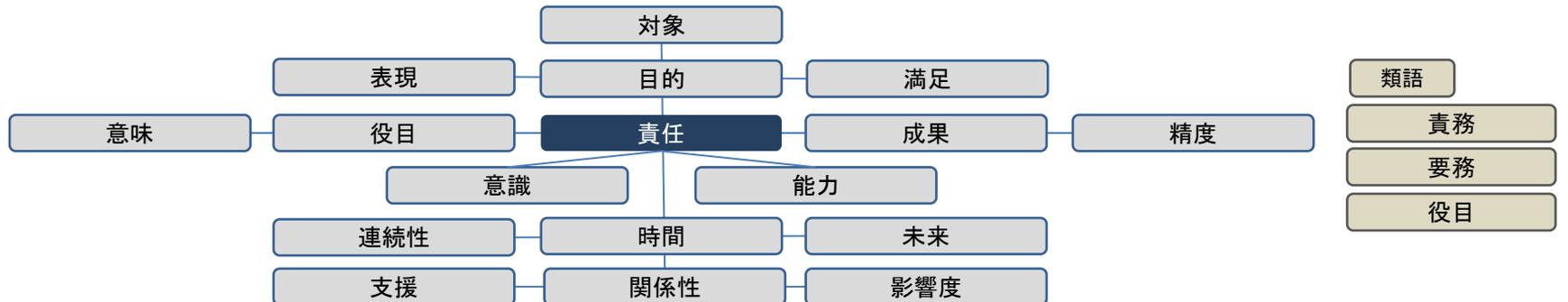
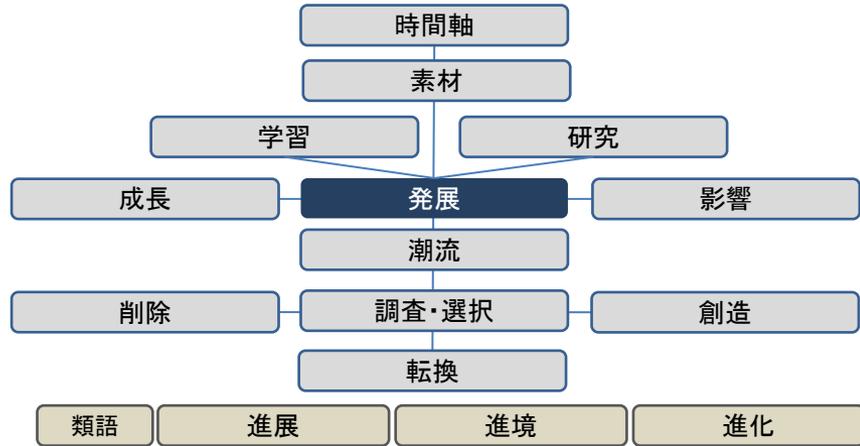
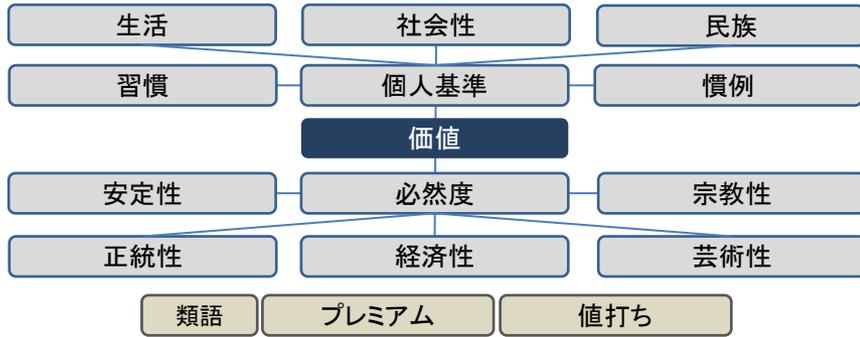
インターネット



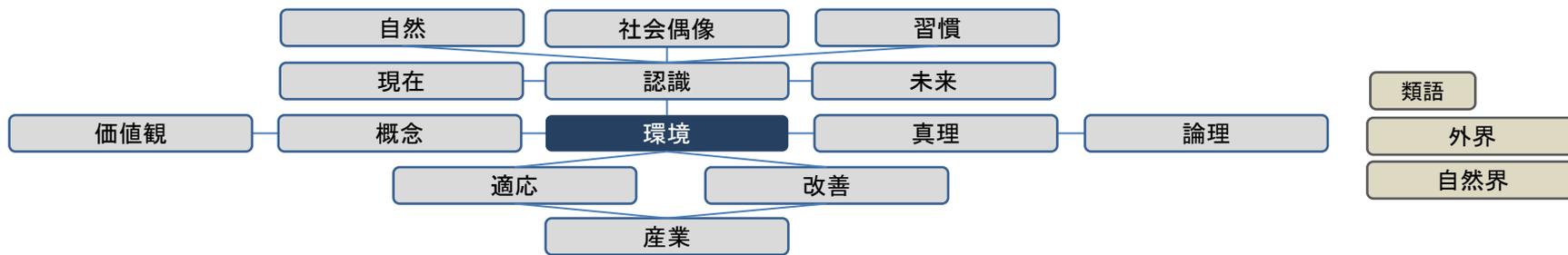
仮説



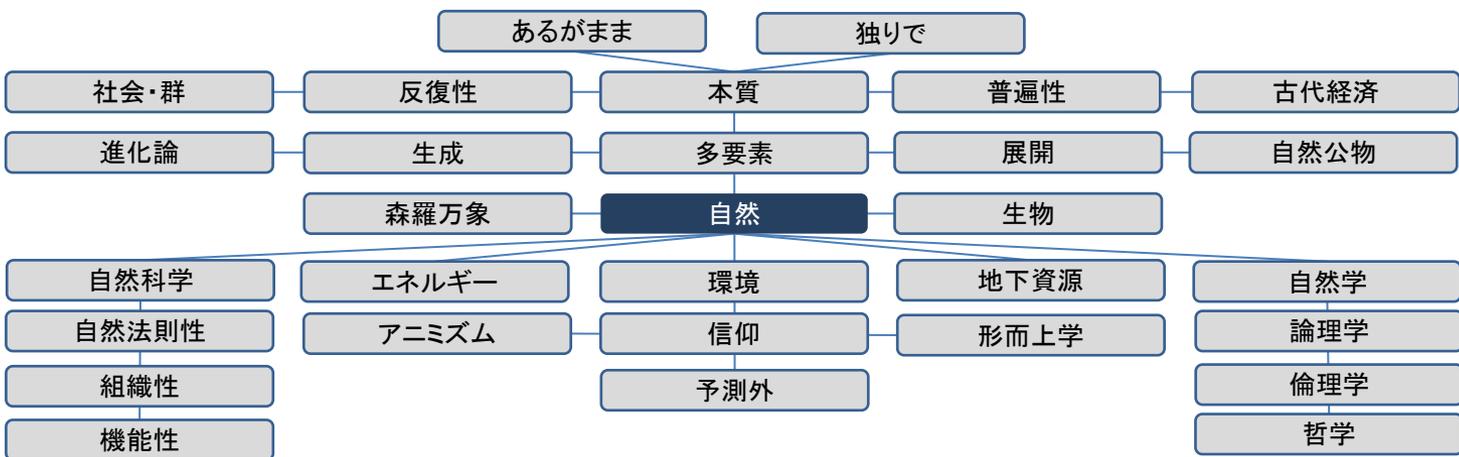
価値



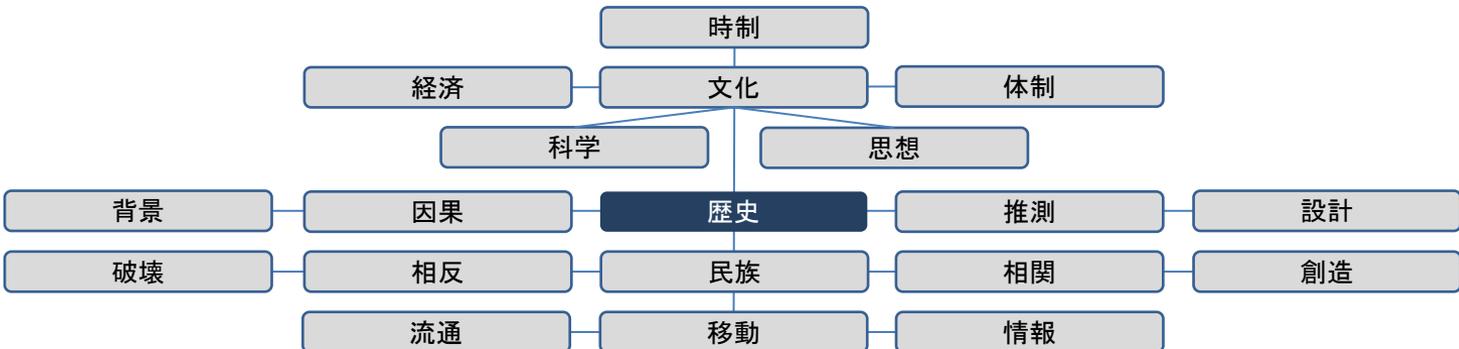
環境



- 類語
- 外界
- 自然界

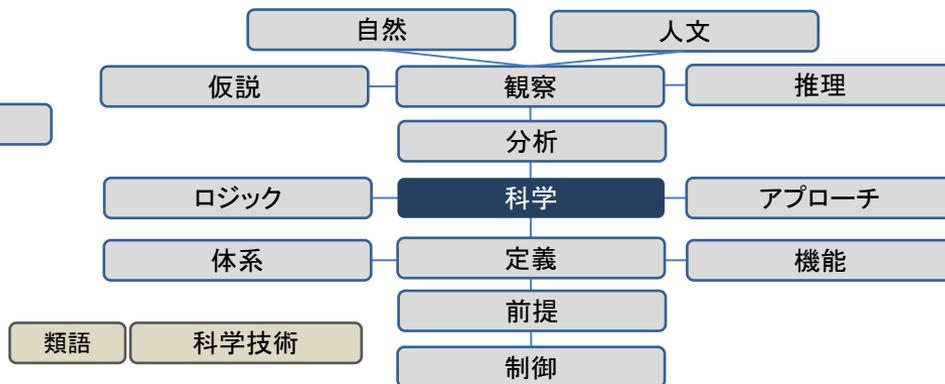
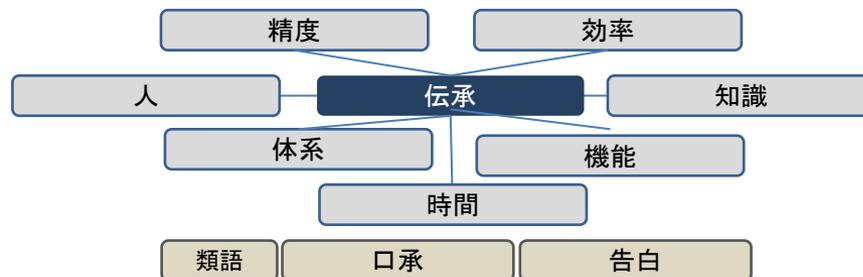
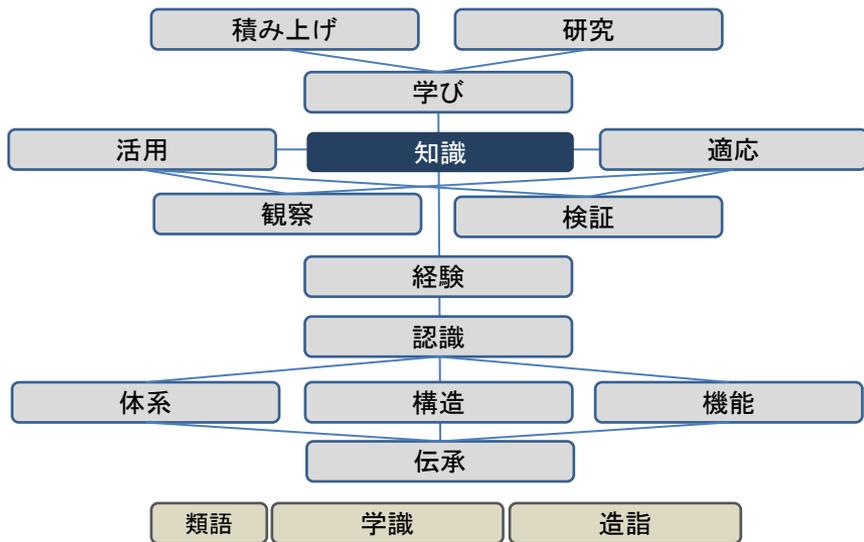


- 類語
- 万物
- 天然



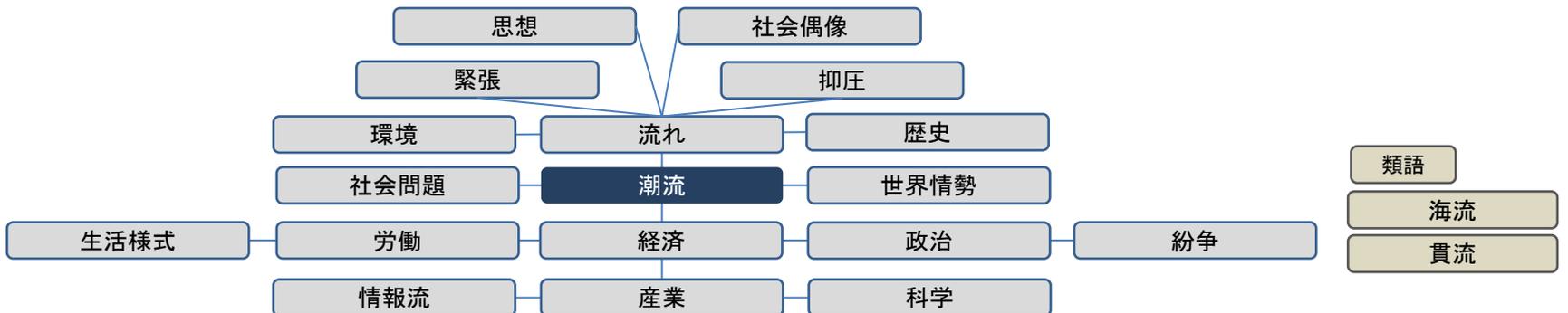
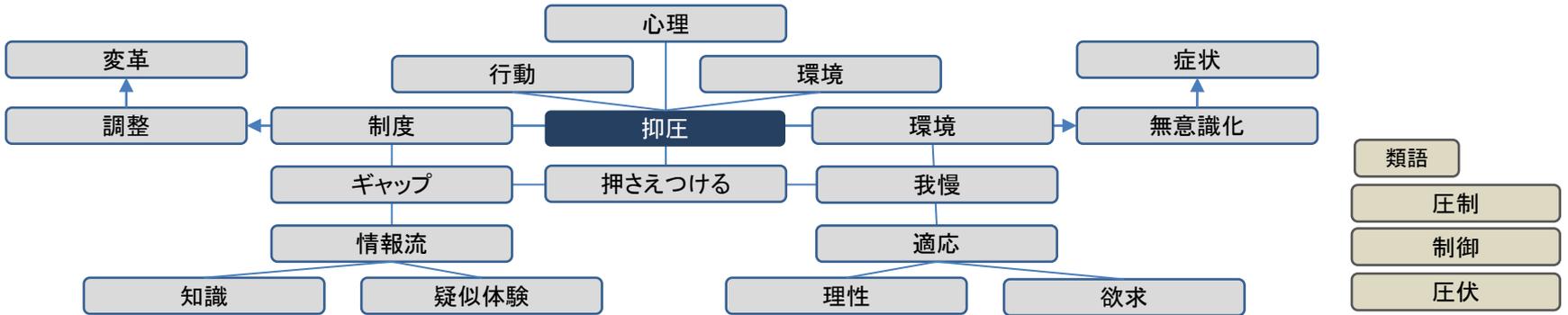
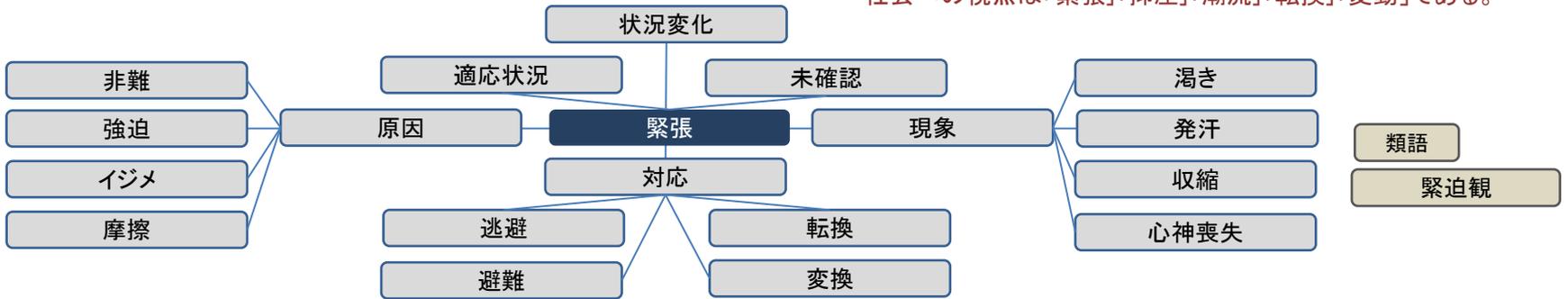
- 類語
- 通史
- 史上

教育

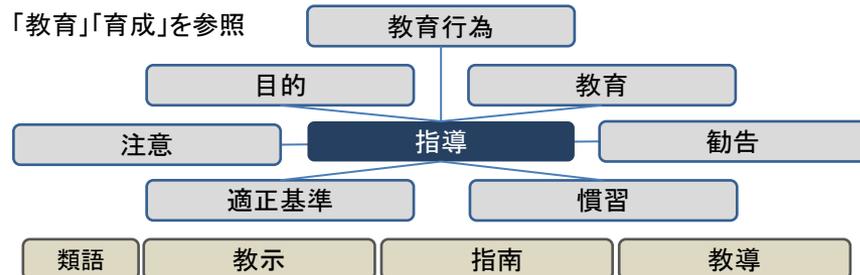
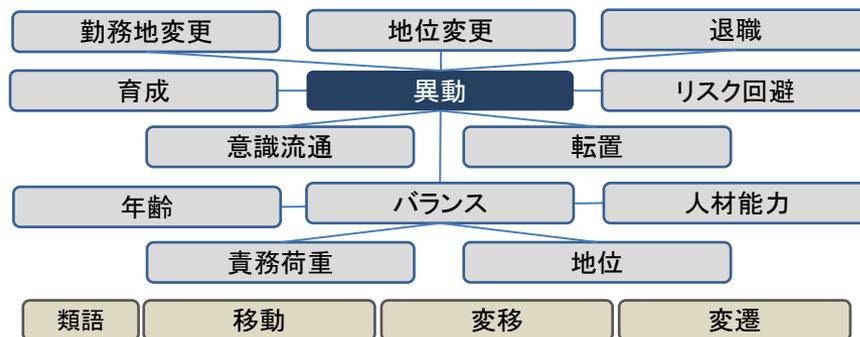
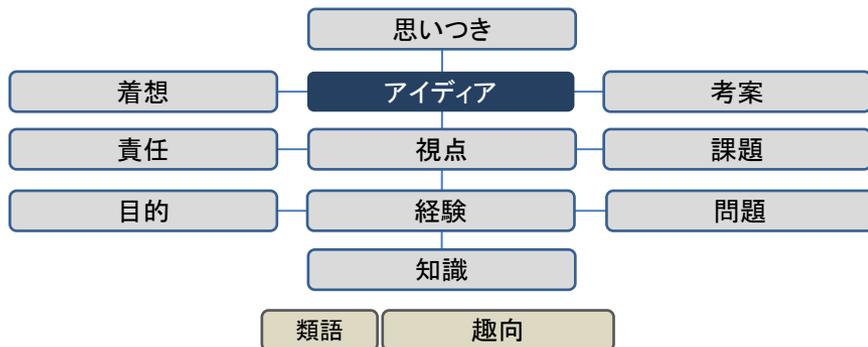
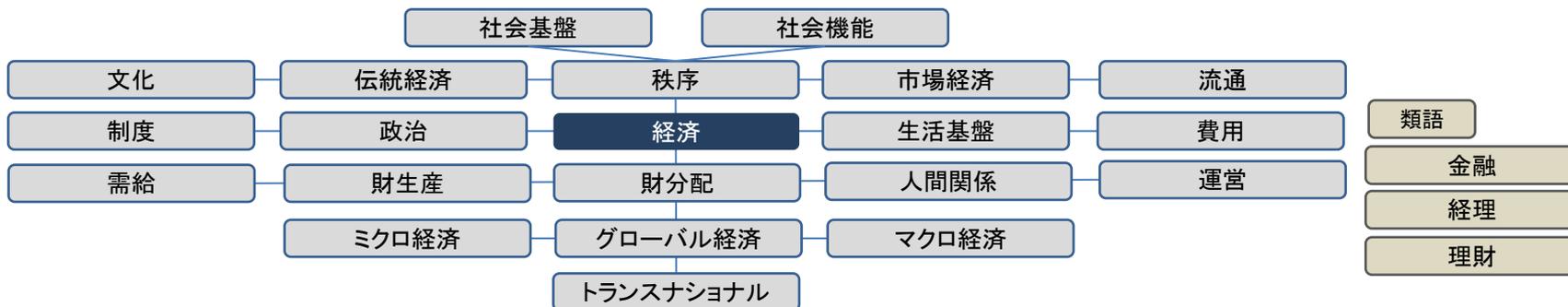


緊張

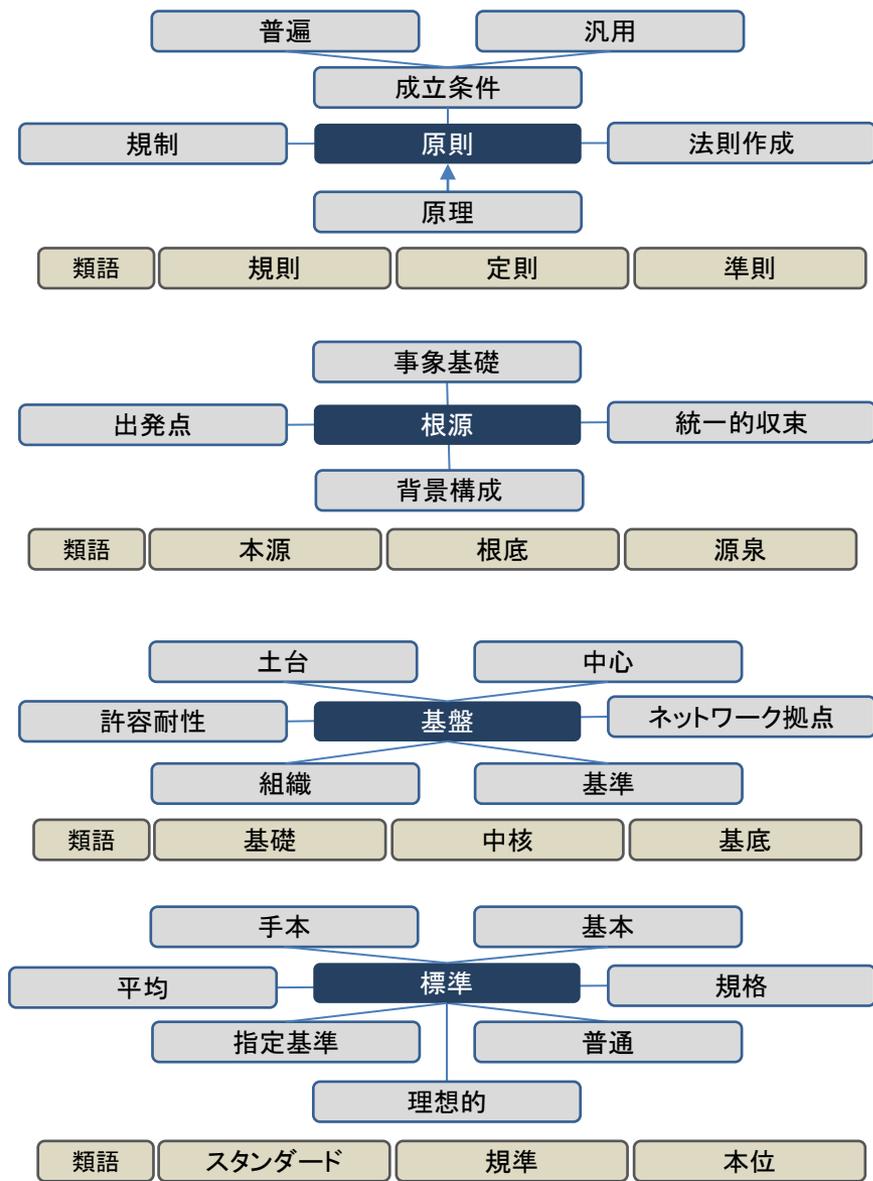
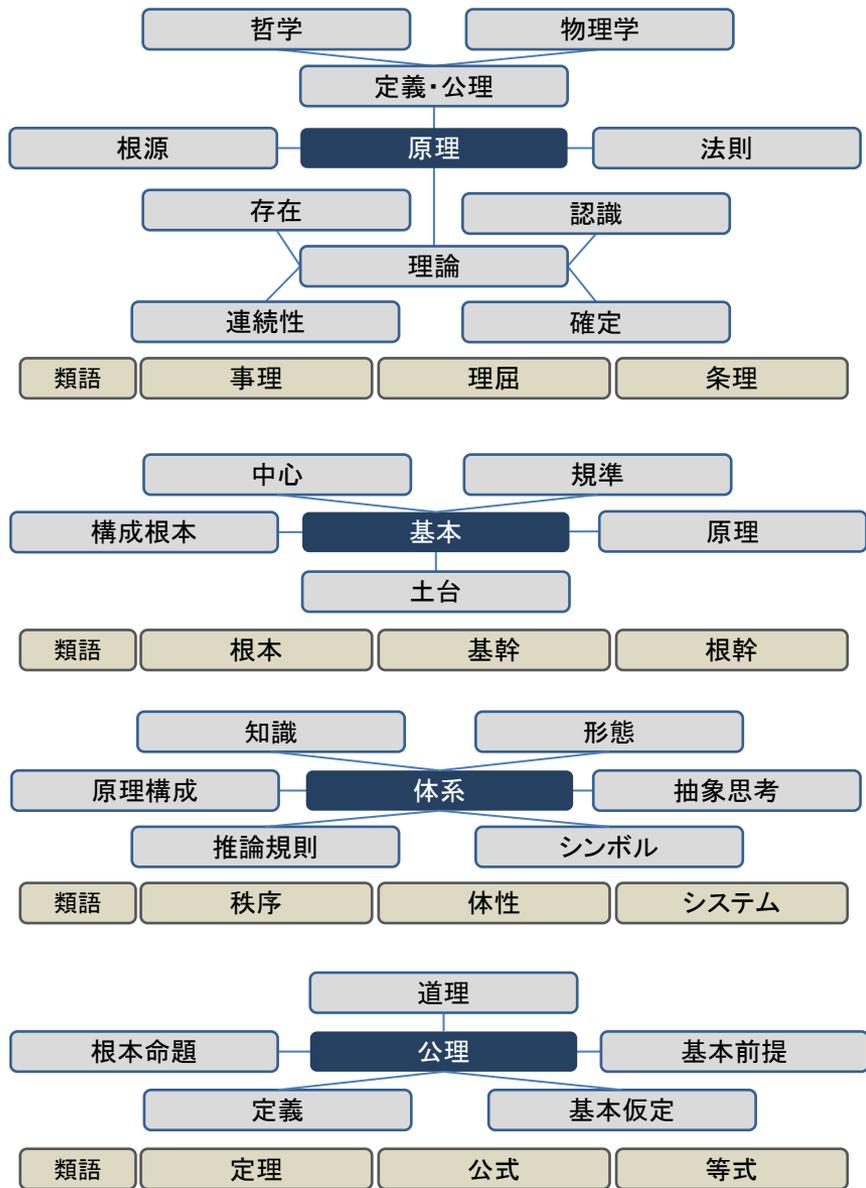
社会への視点は「緊張」「抑圧」「潮流」「転換」「変動」である。



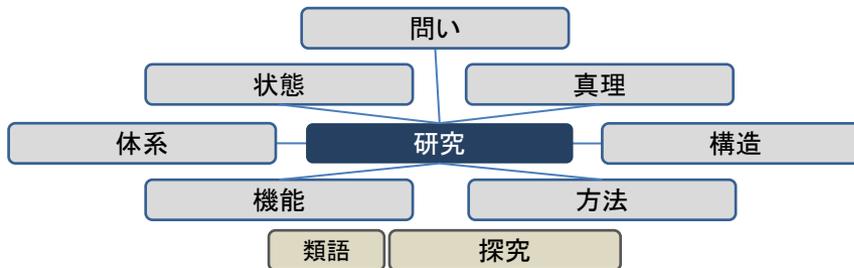
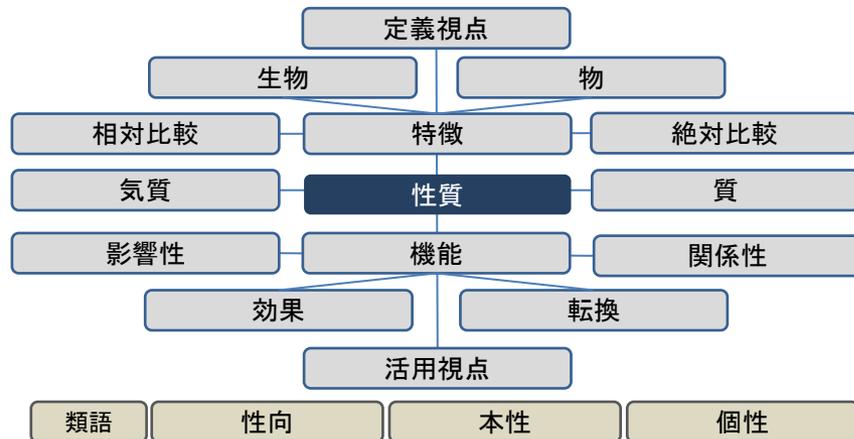
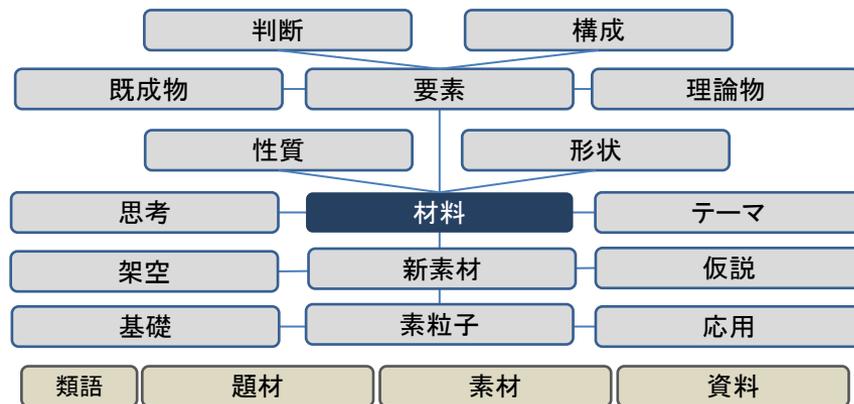
経済



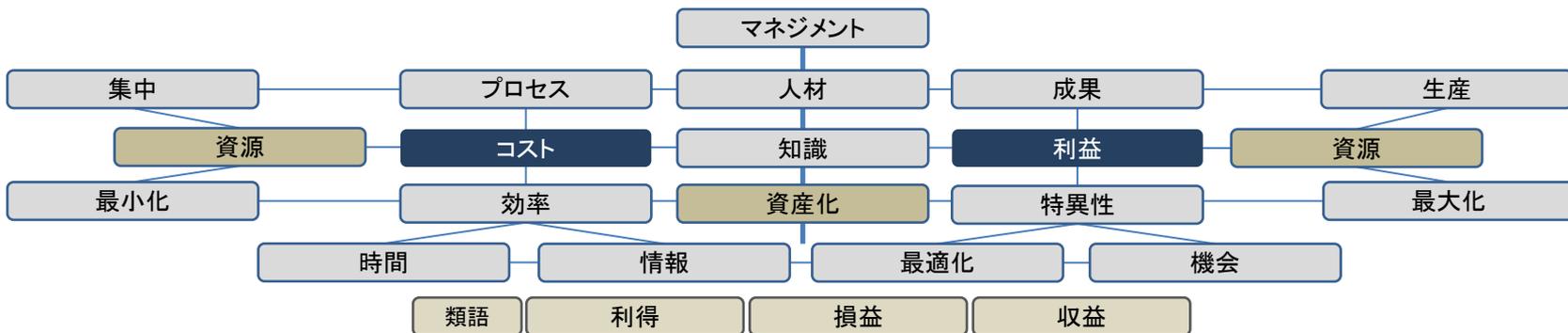
原理



構造



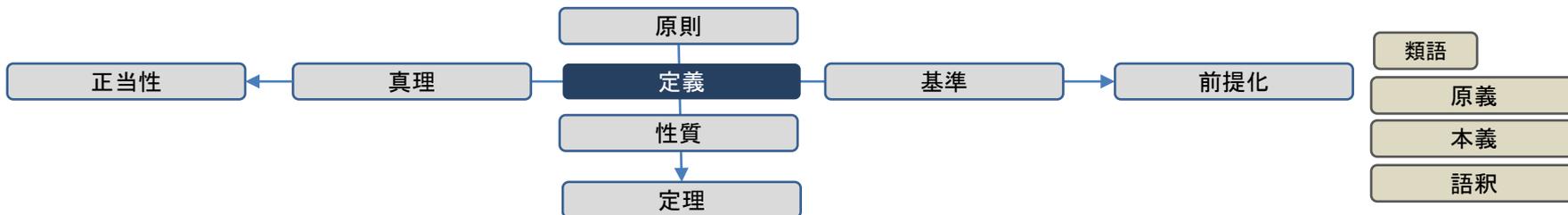
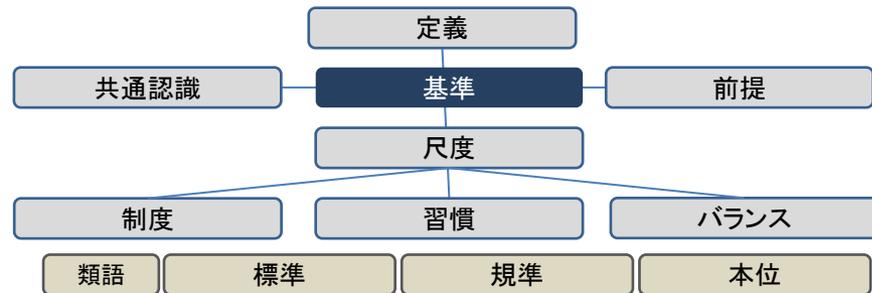
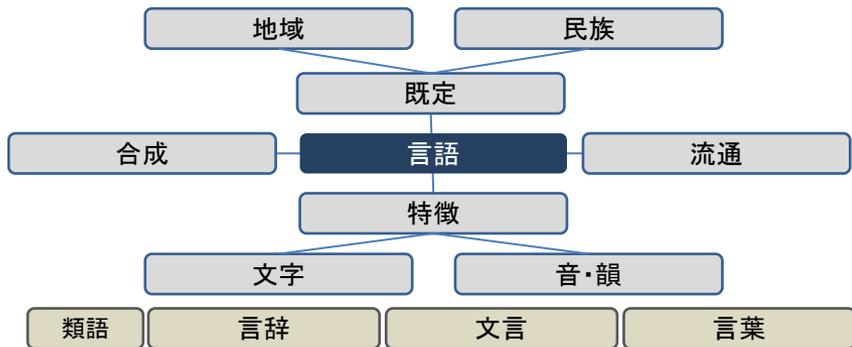
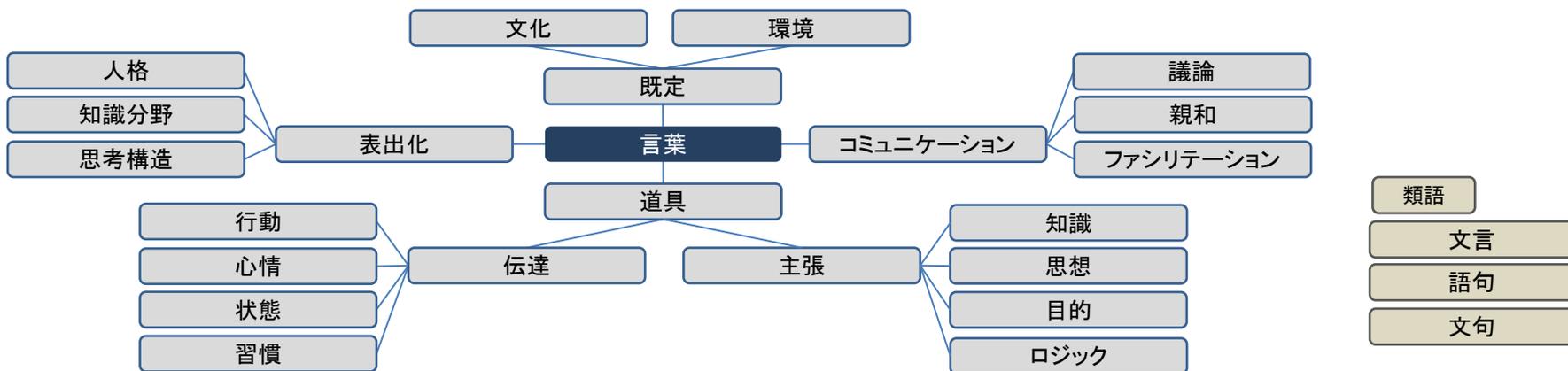
コストと利益



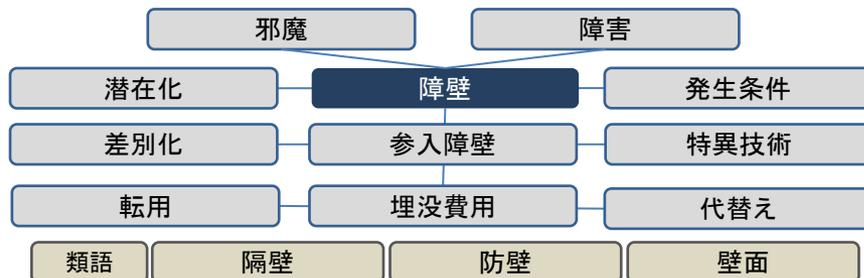
自分だけで、自部署だけで行うものを戦略とは言わない。戦術または戦闘である。業務の中で、もし、戦略に類似するものであれば、計画と言う。戦略は組織全体の統一した行動である。戦略は、行動のチェック機能となる。



言葉



産業

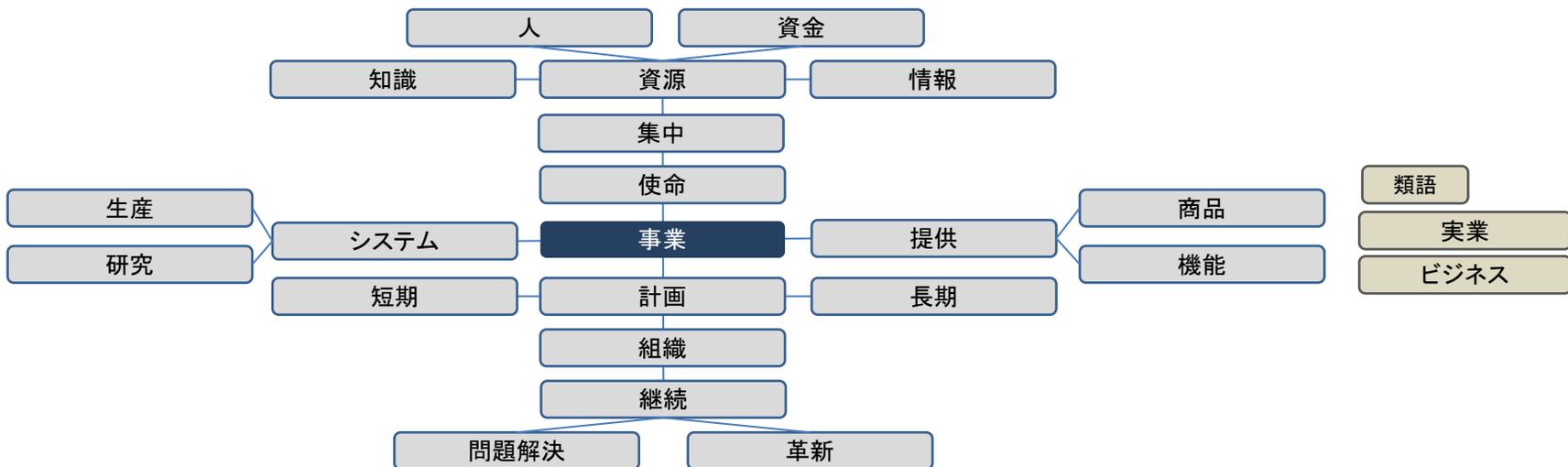


「情報流」参照

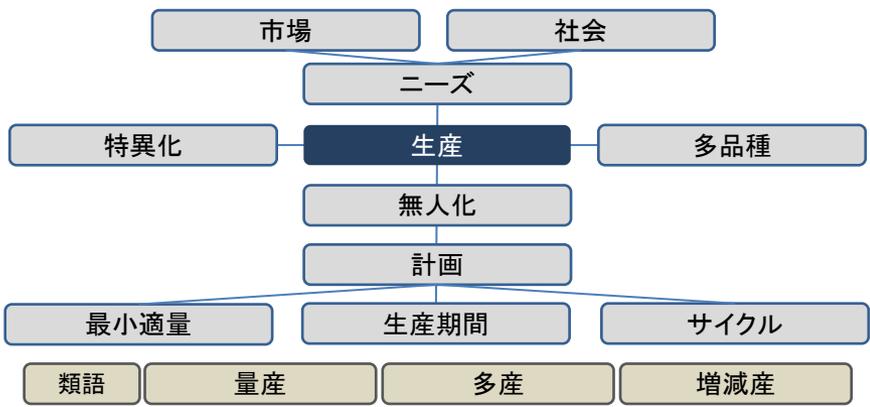


- 類語
- 興業

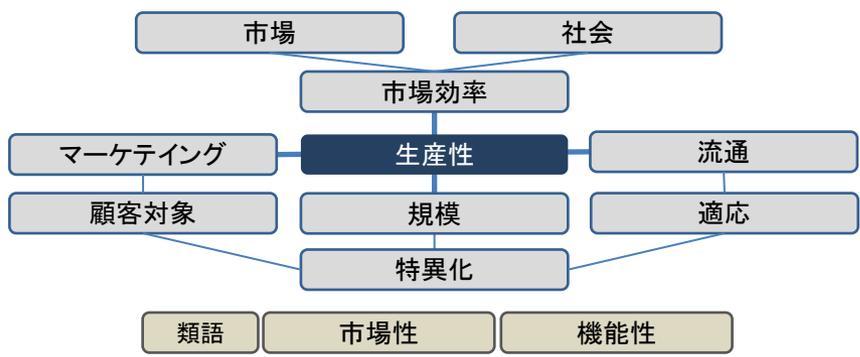
事業



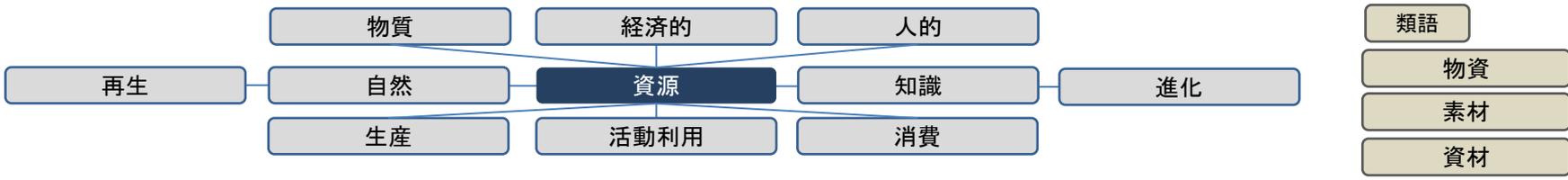
- 類語
- 実業
- ビジネス



- 類語
- 量産
- 多産
- 増減産

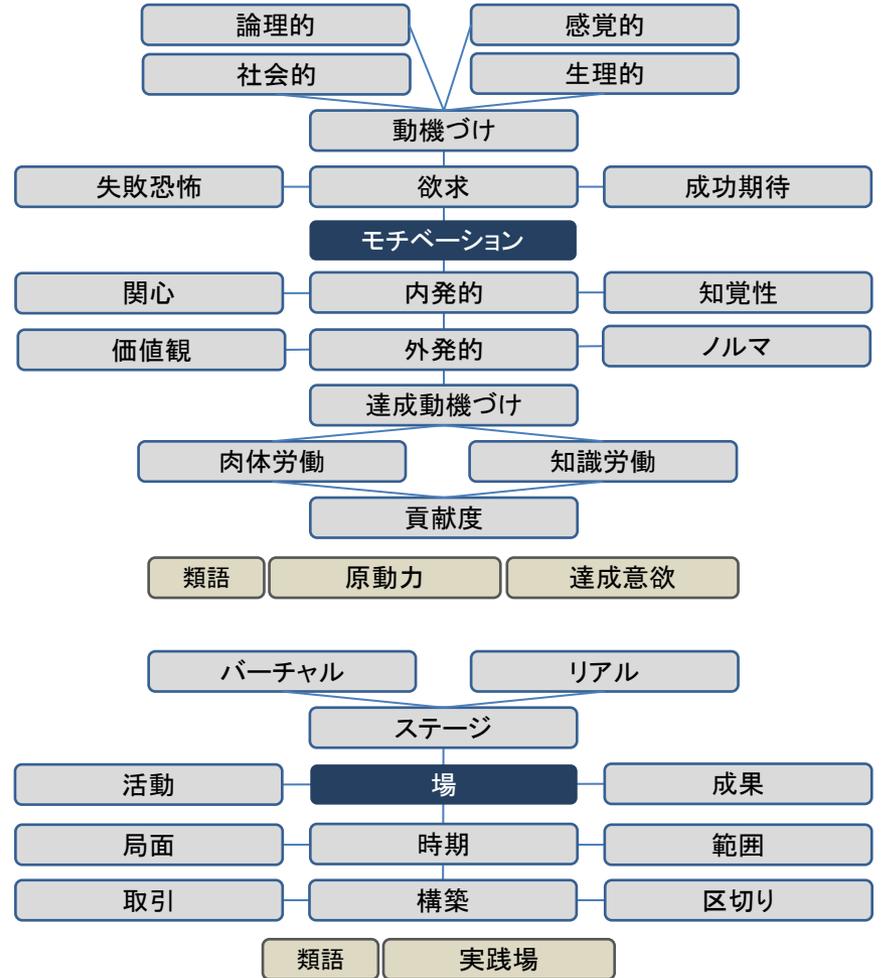
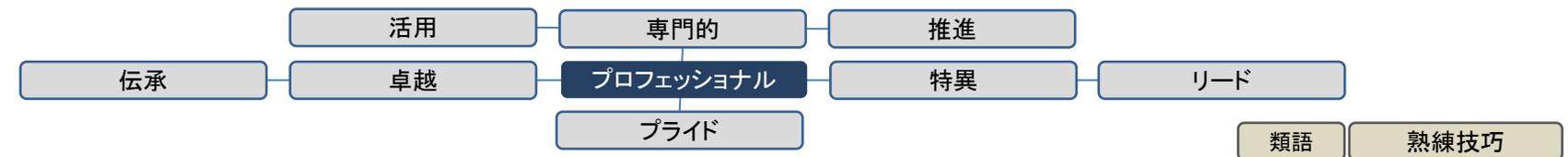


- 類語
- 市場性
- 機能性

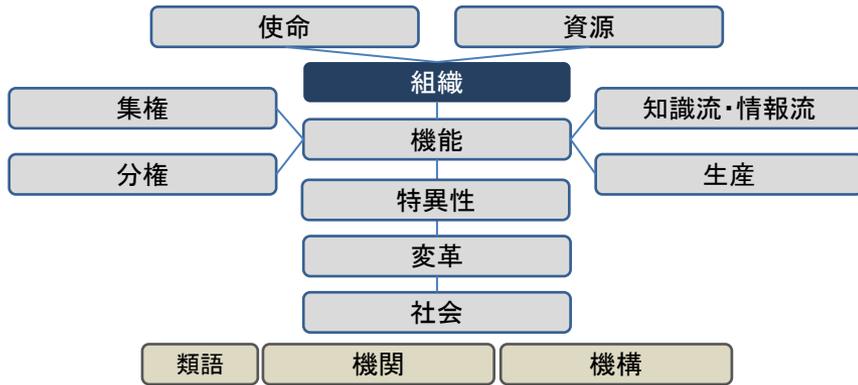
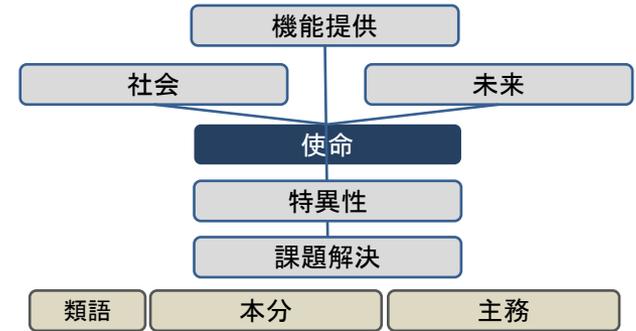
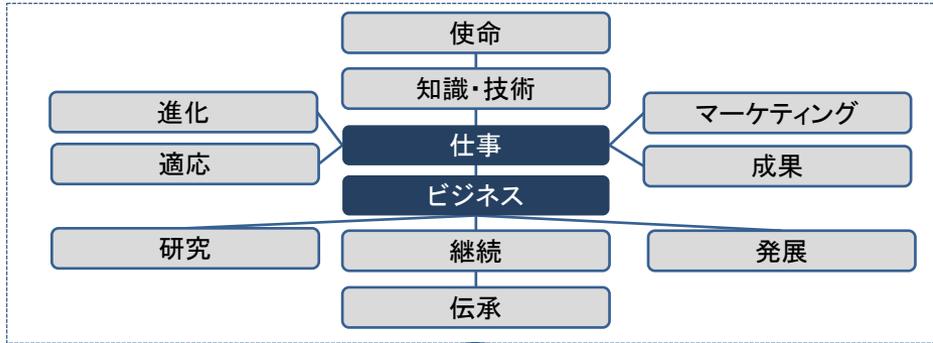


- 類語
- 物資
- 素材
- 資材

自己実現



仕事



挙げられている単語群はコミュニケーションの原則である。

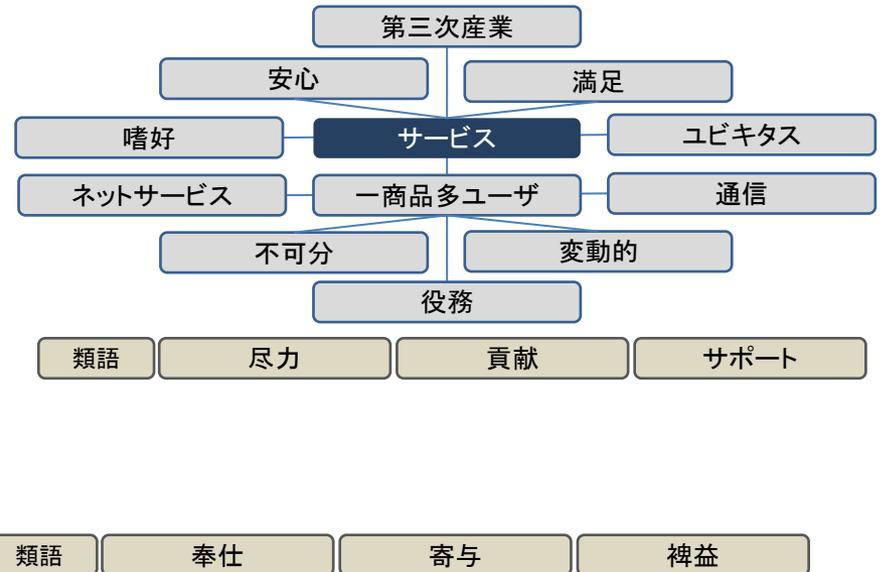
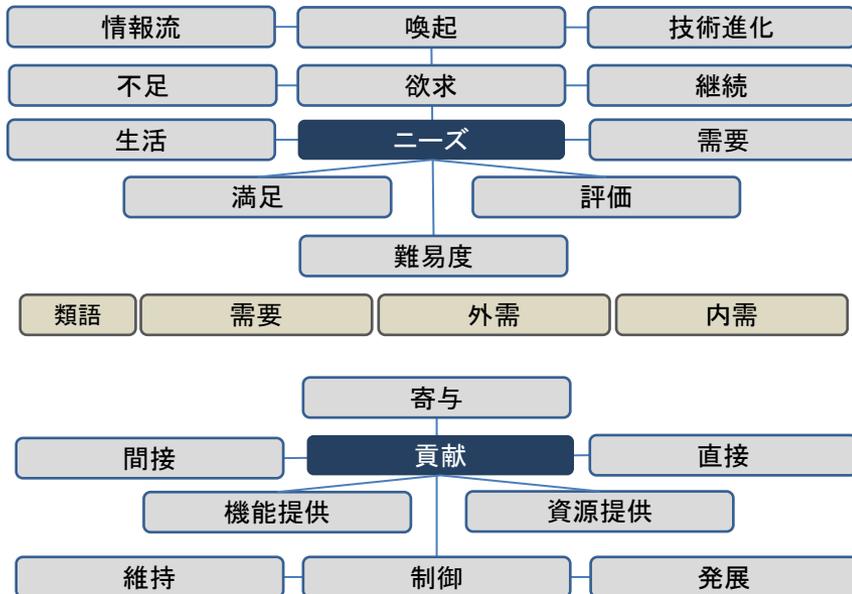


マネジメントの原理原則ではなく、守備範囲を示した。

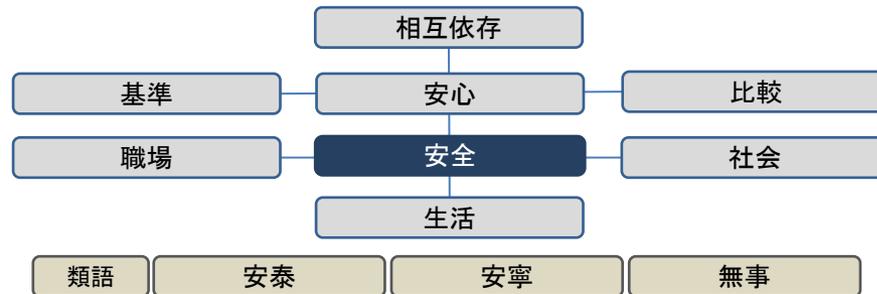
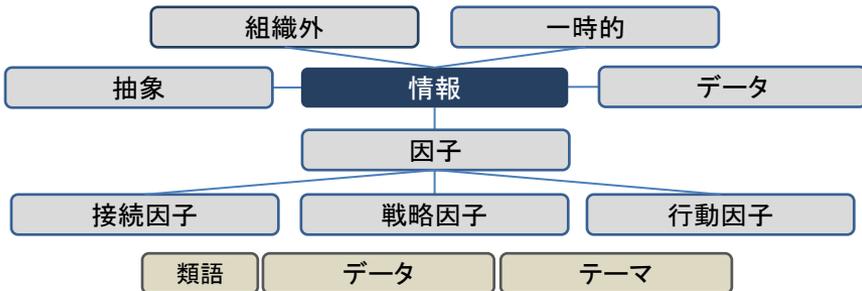
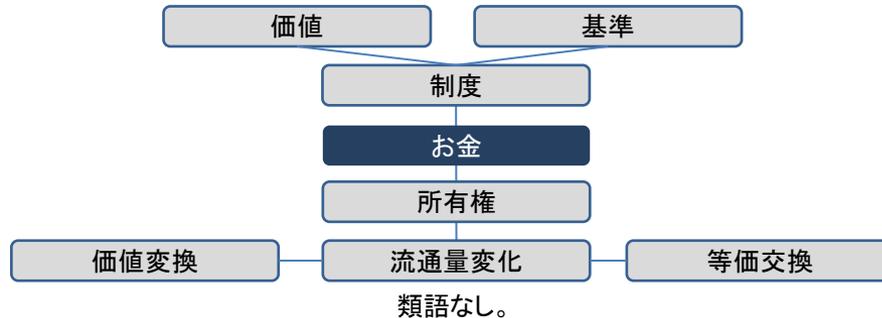
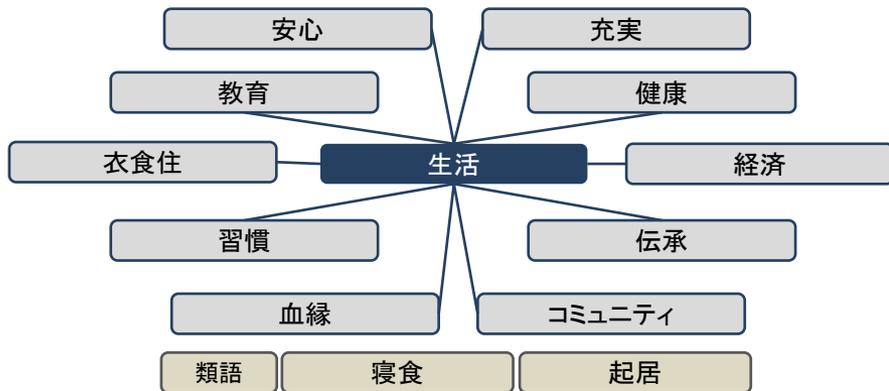
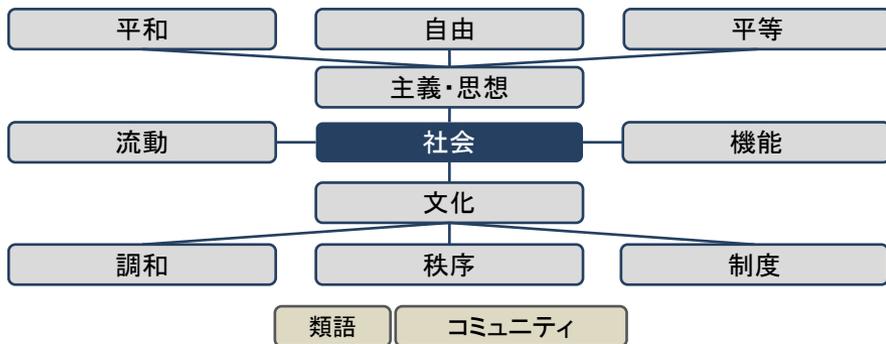


類語なし。

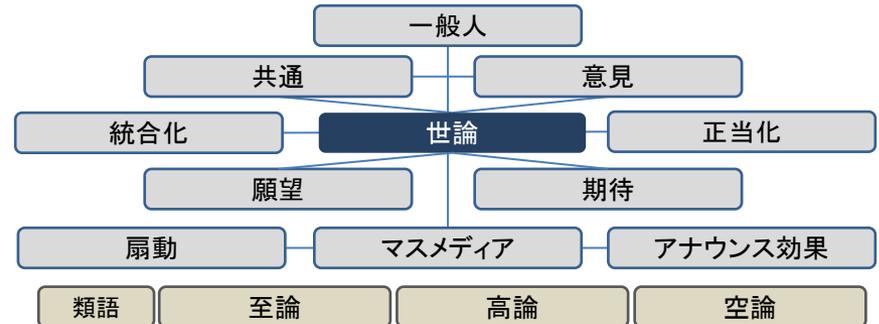
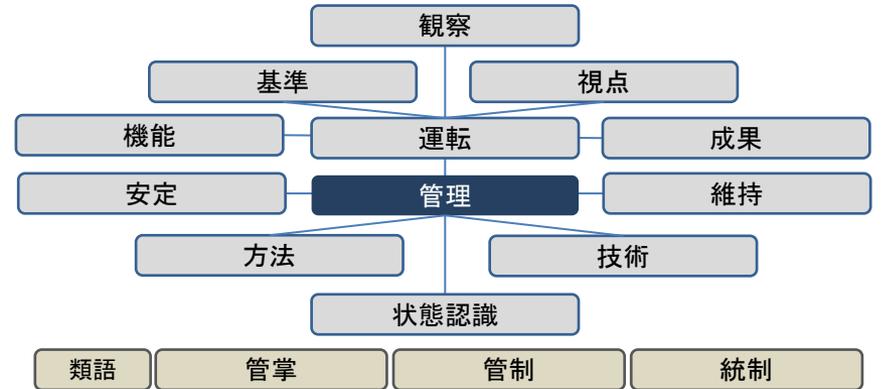
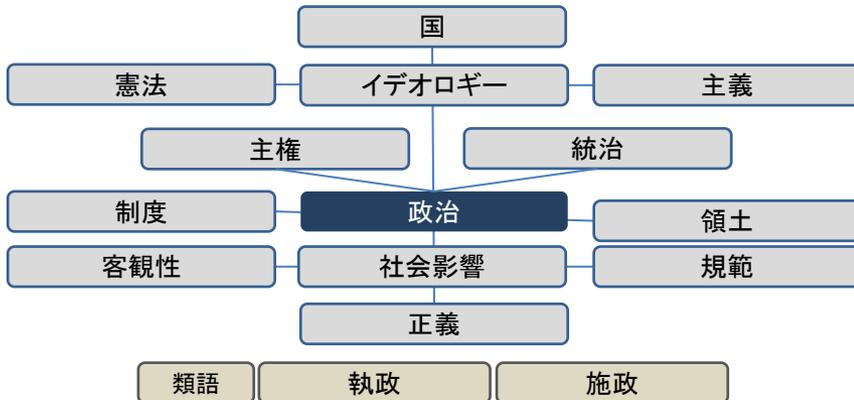
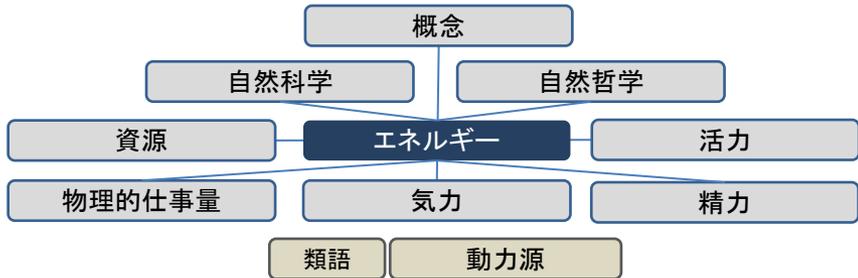
市場



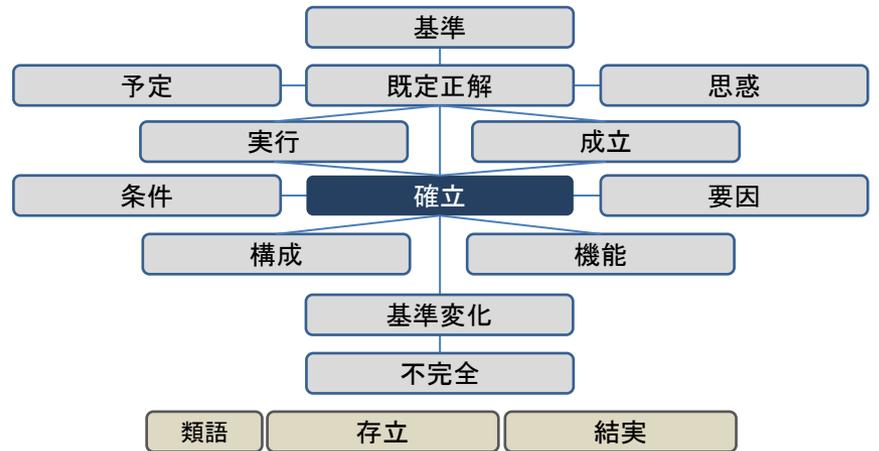
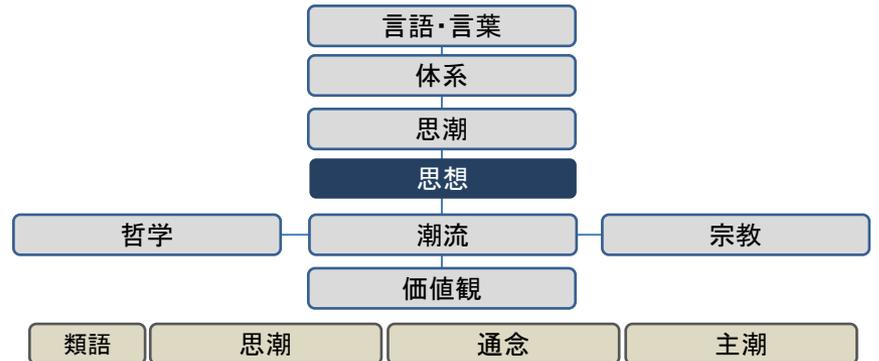
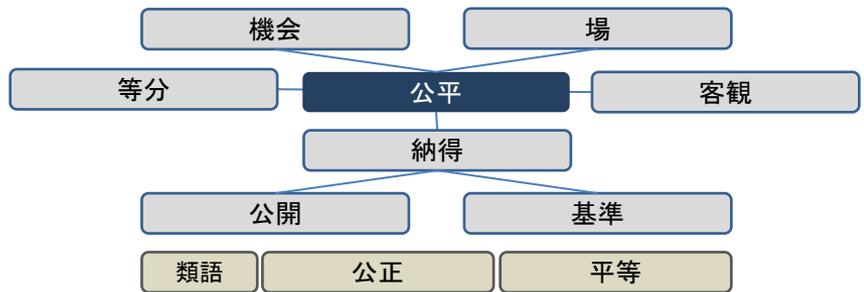
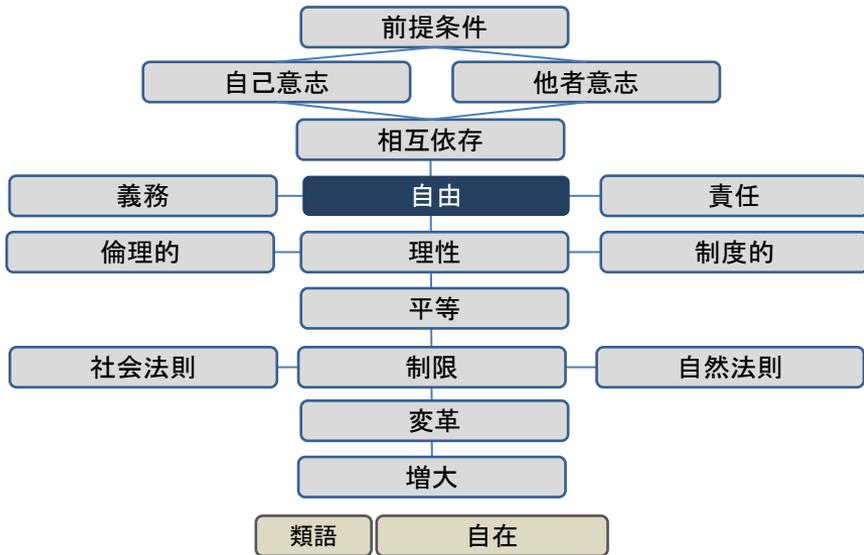
社会



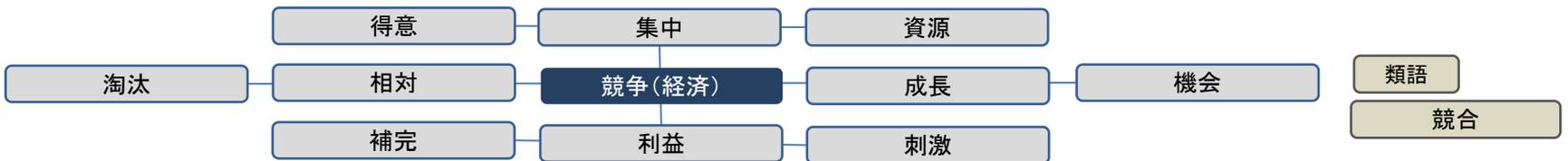
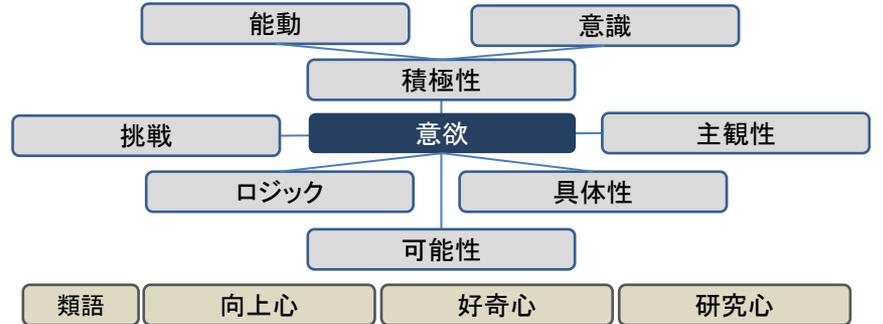
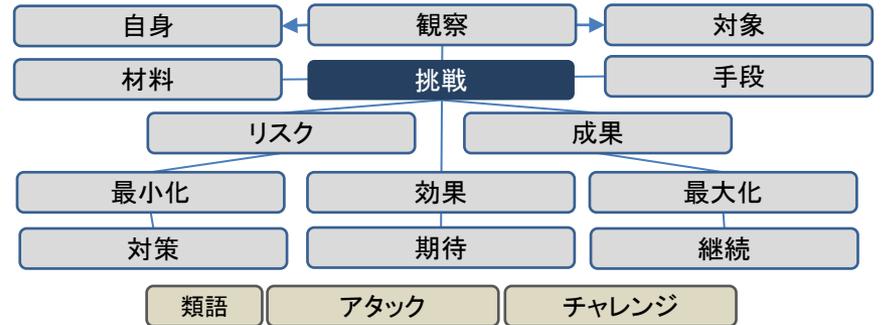
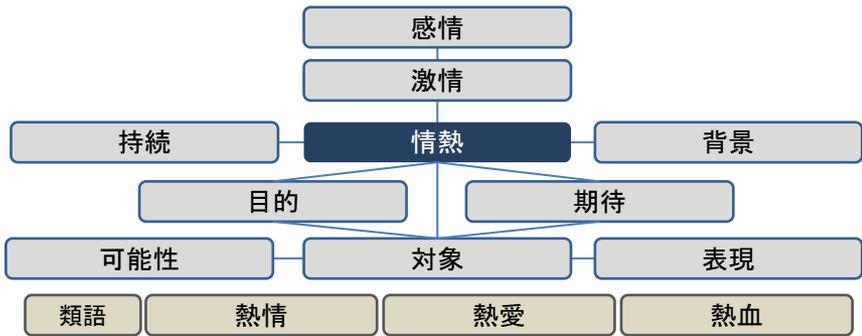
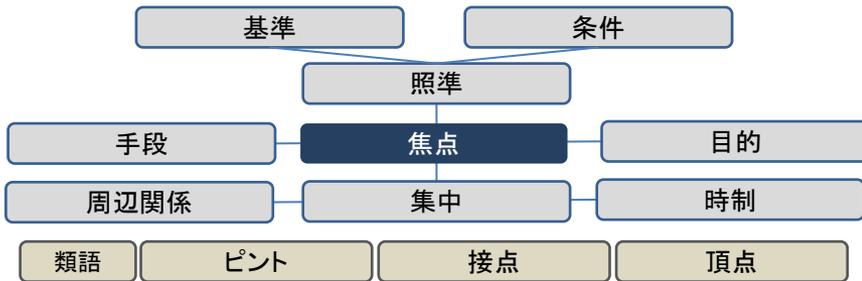
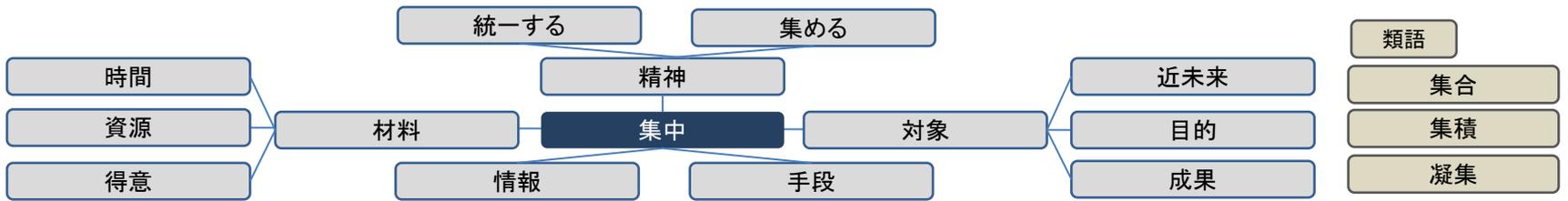
社会基盤



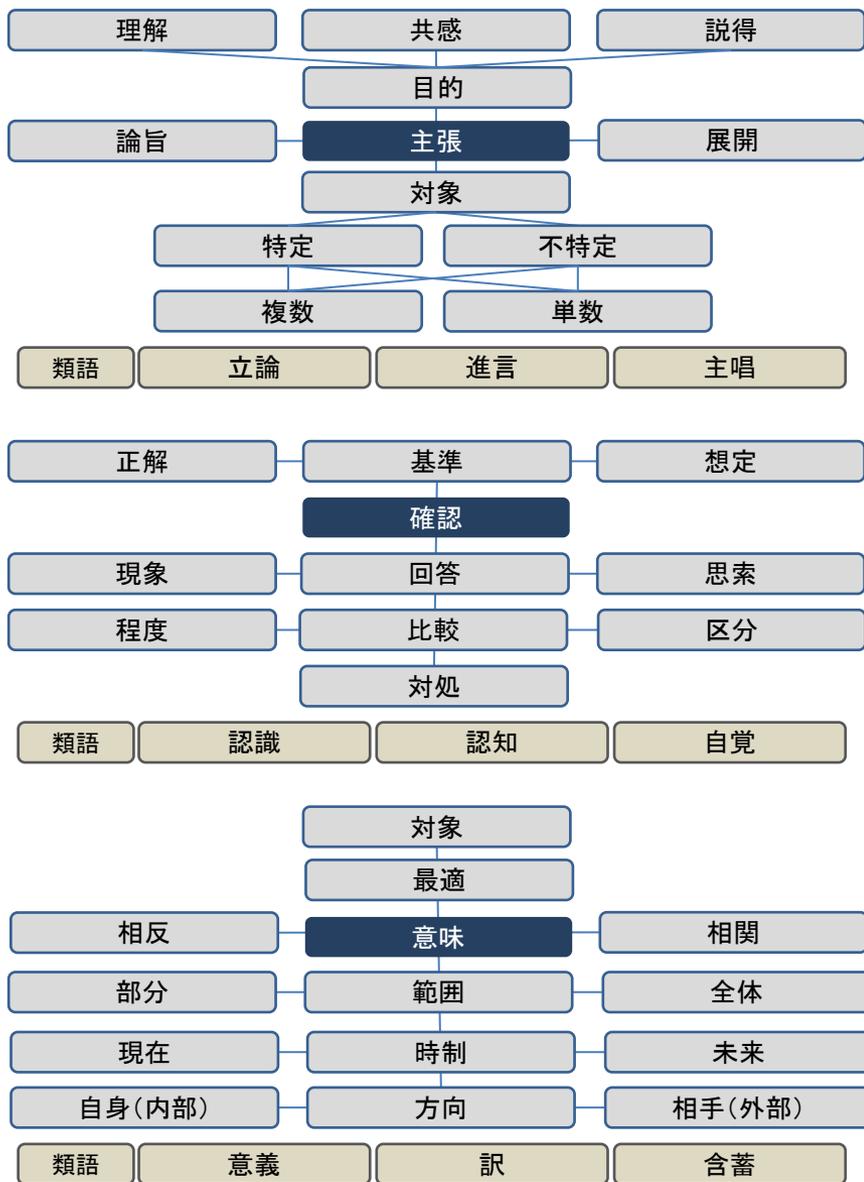
自由



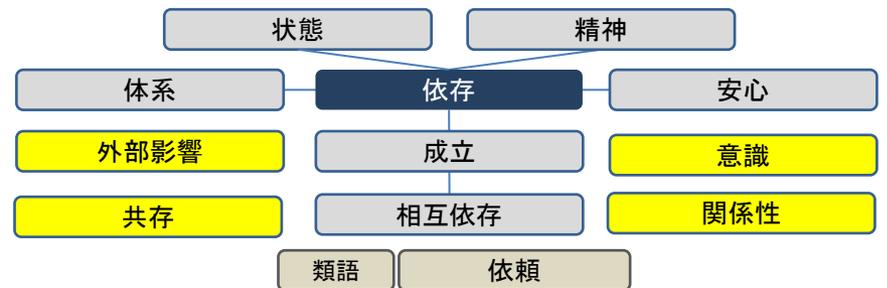
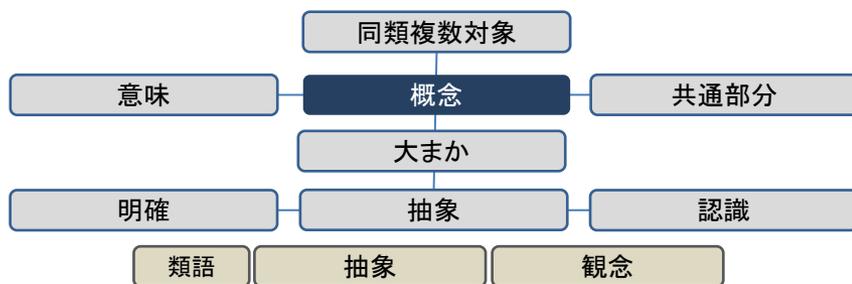
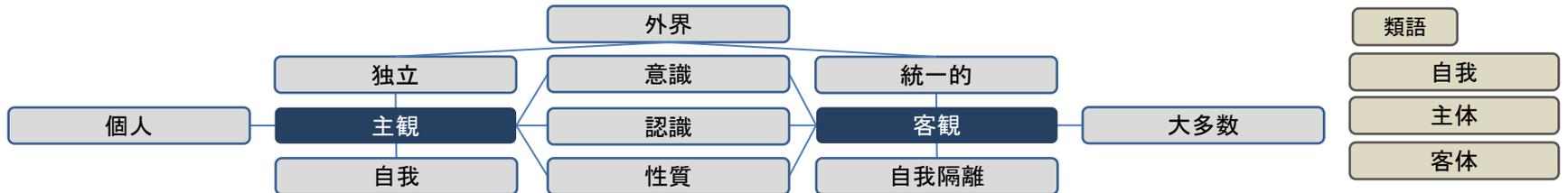
集中



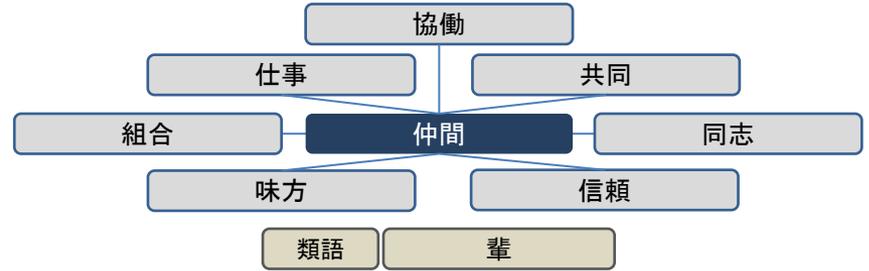
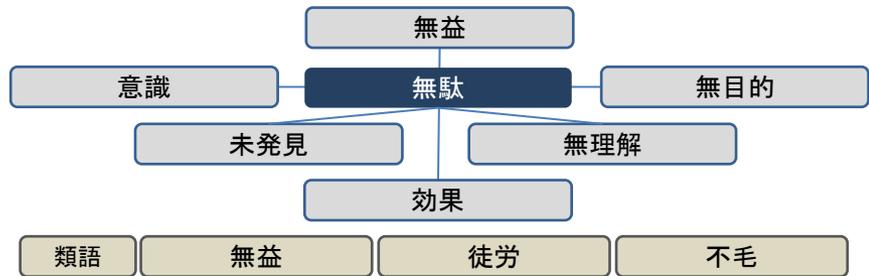
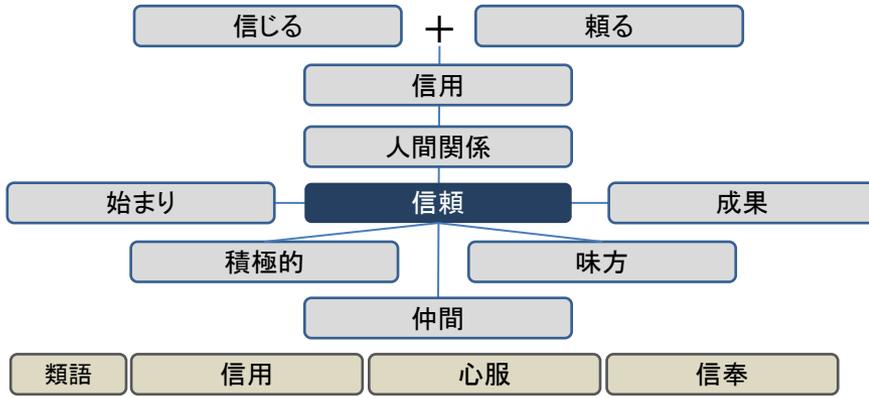
主張



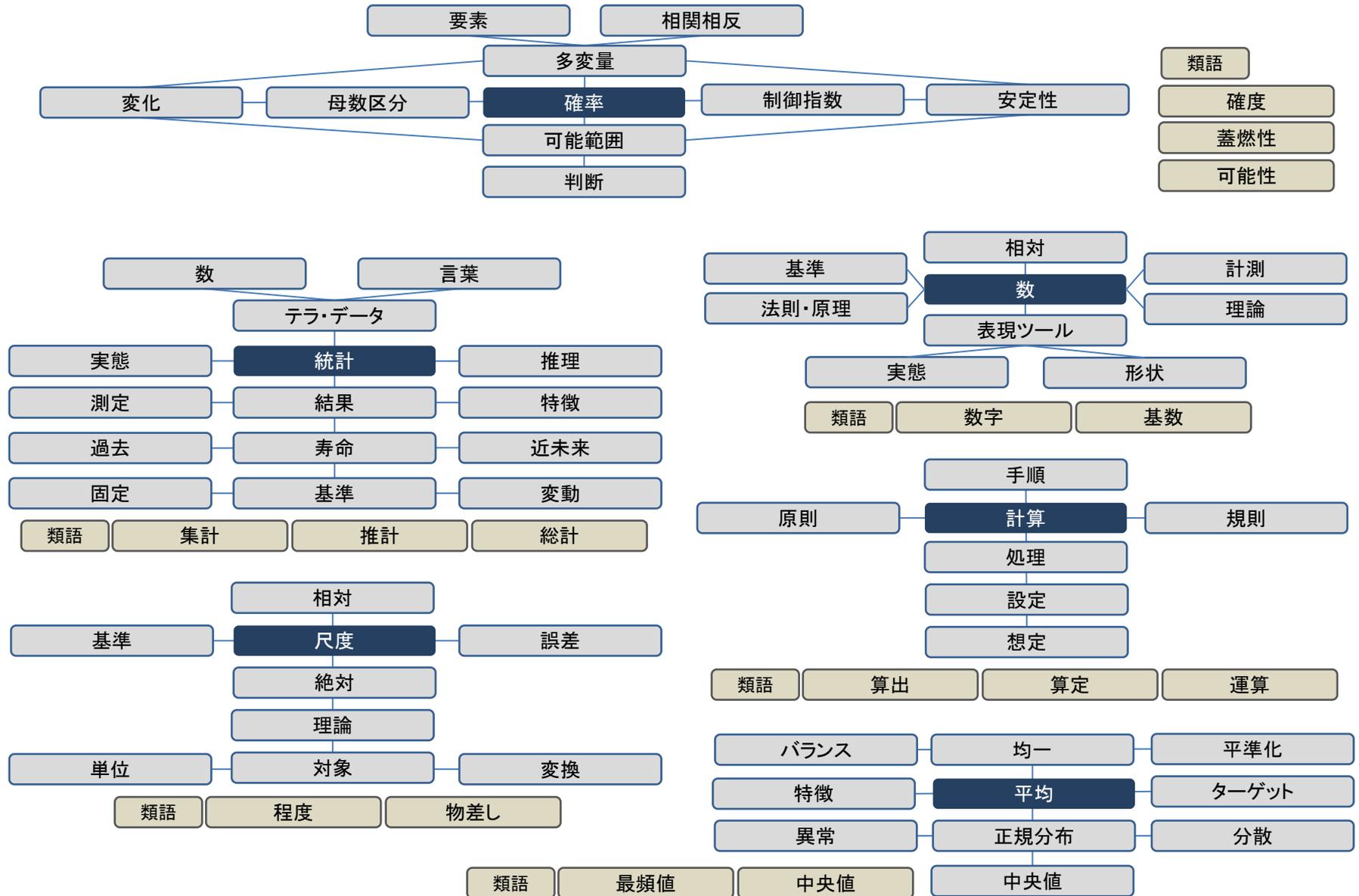
常識



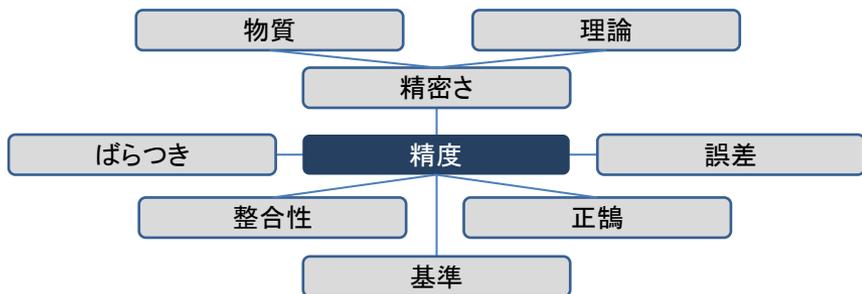
信賴



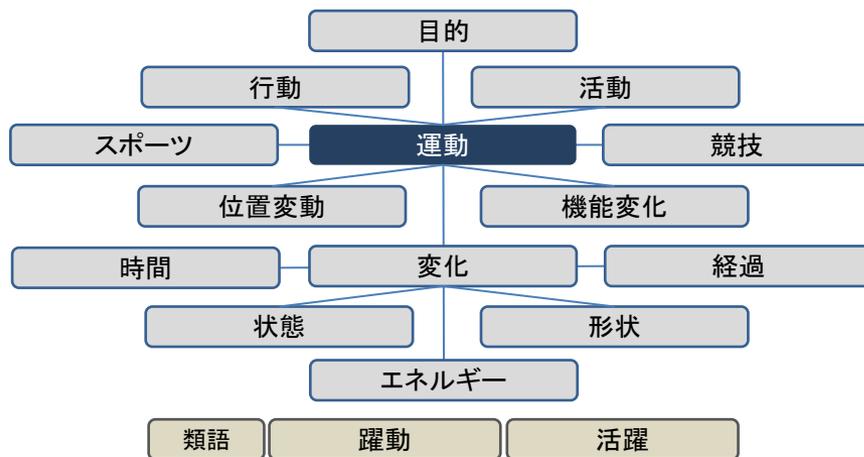
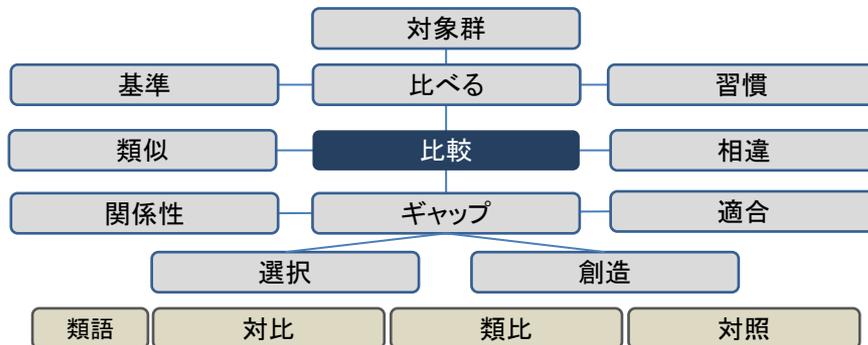
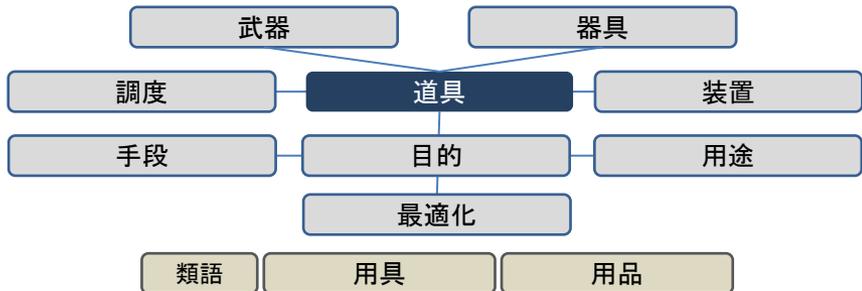
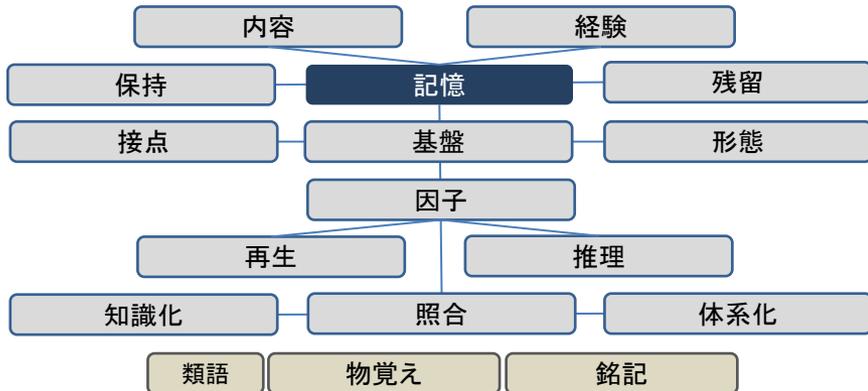
数



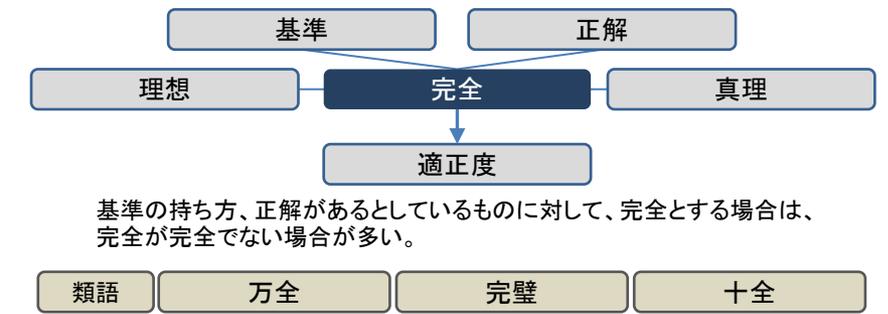
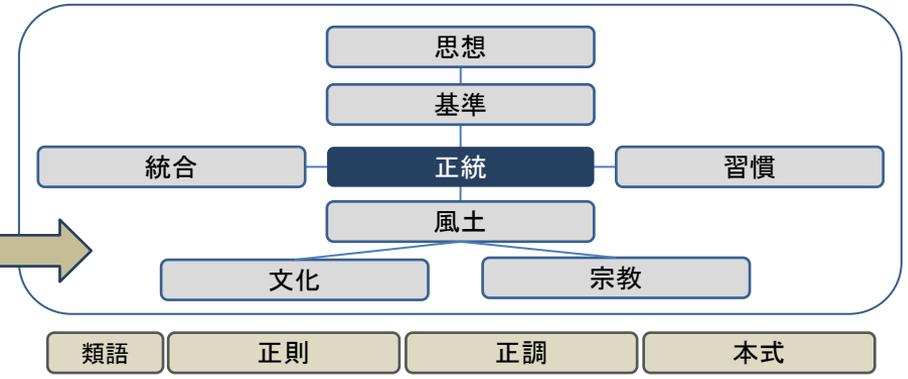
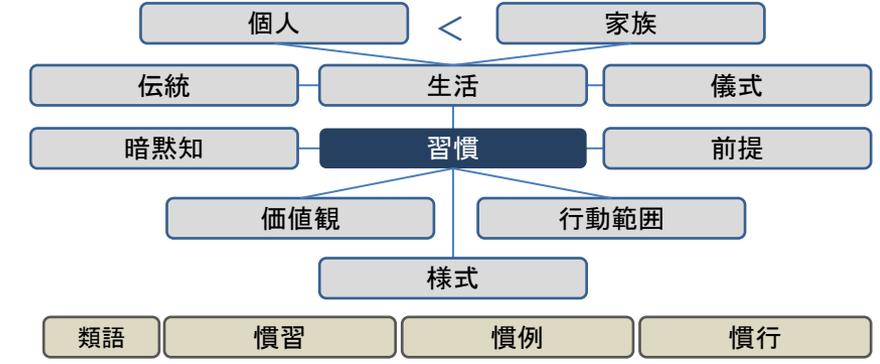
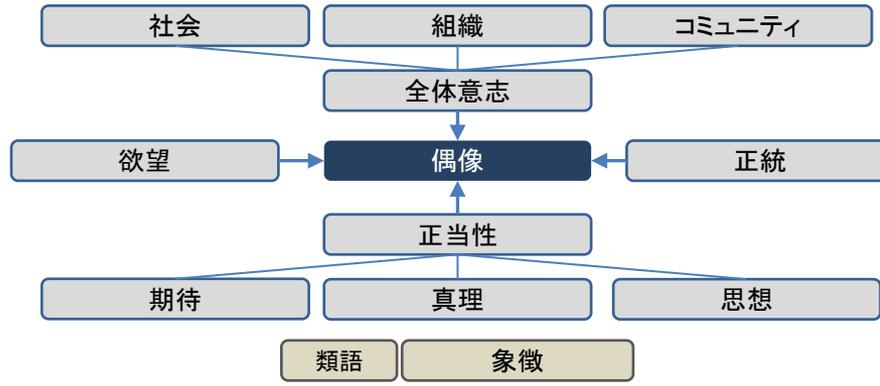
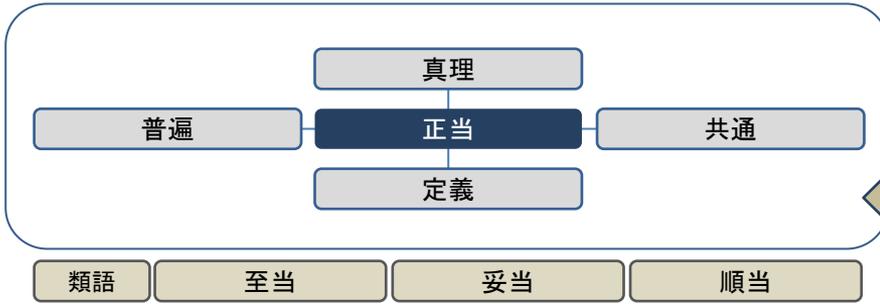
精度



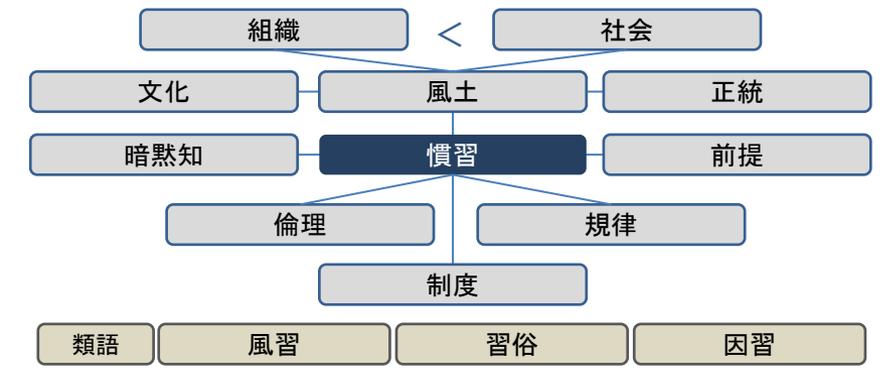
類語なし。



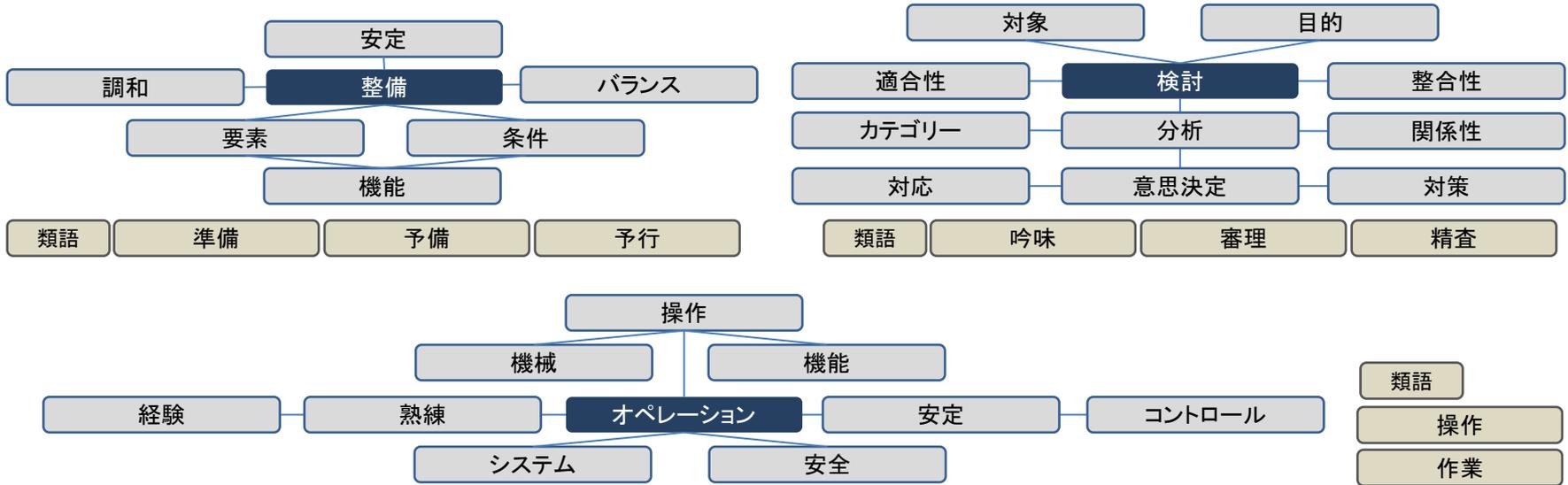
正当 — 正統



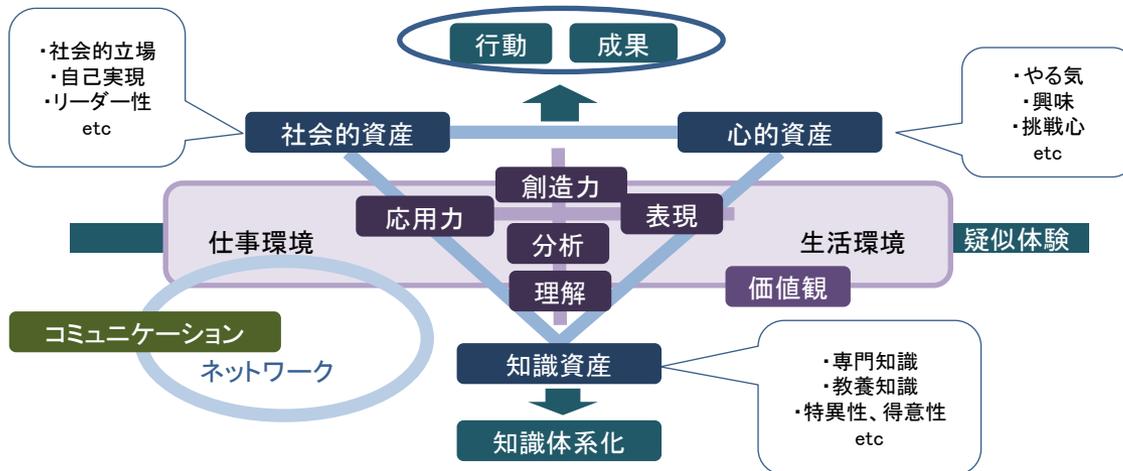
基準の持ち方、正解があるとしているものに対して、完全とする場合は、完全が完全でない場合が多い。



整備

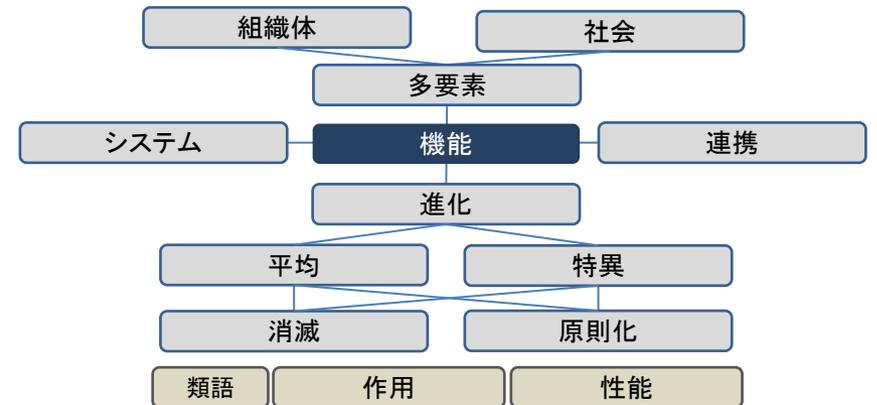
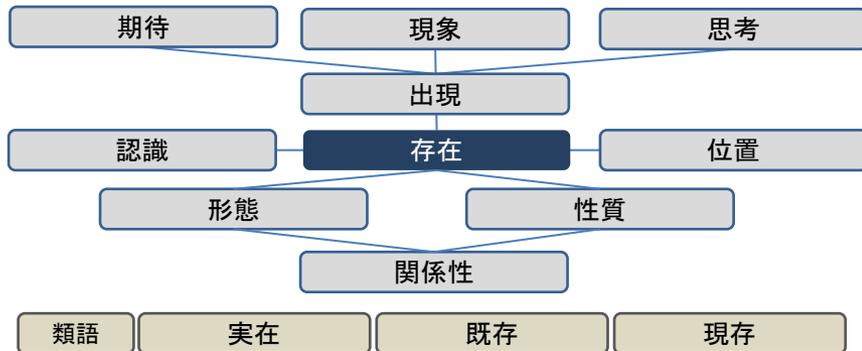
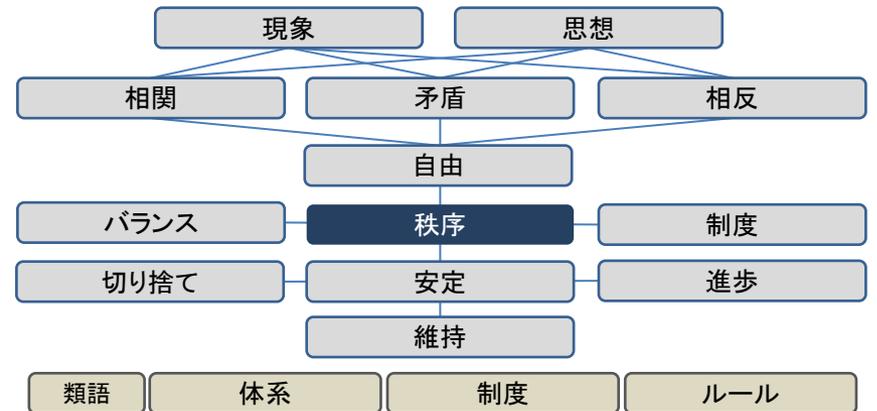
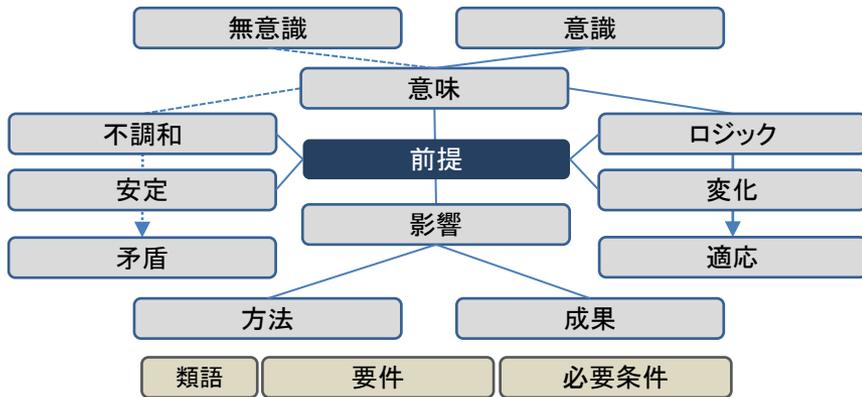
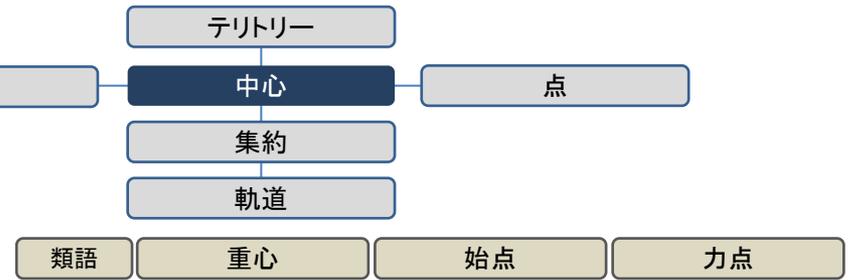
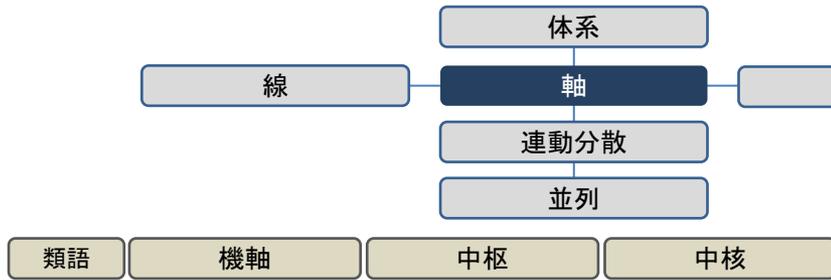


人材の能力資産

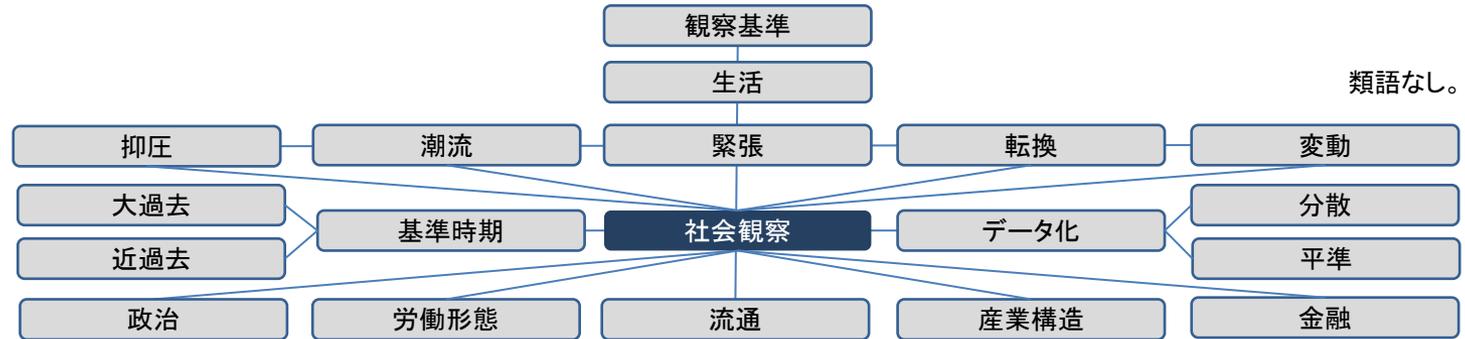


人は3つの資産をもっている。知識資産、心的資産、社会的資産である。3つが互いに刺激し合っているとき、人は急激に成長する。同時に、一般に言われている能力に磨きかけられる。創造力、応用力、分析力、理解力、表現力は人の基本能力である。これらは必要に迫られて発達する。誰もが同じように持っている資産であり能力である。

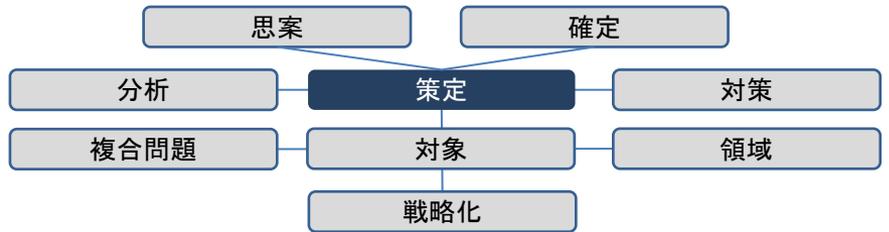
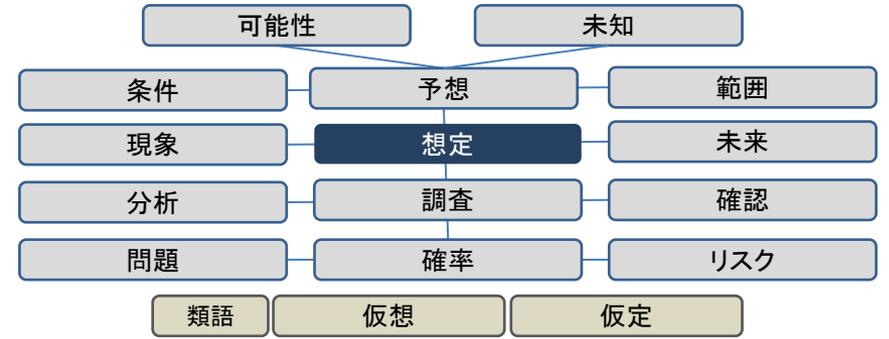
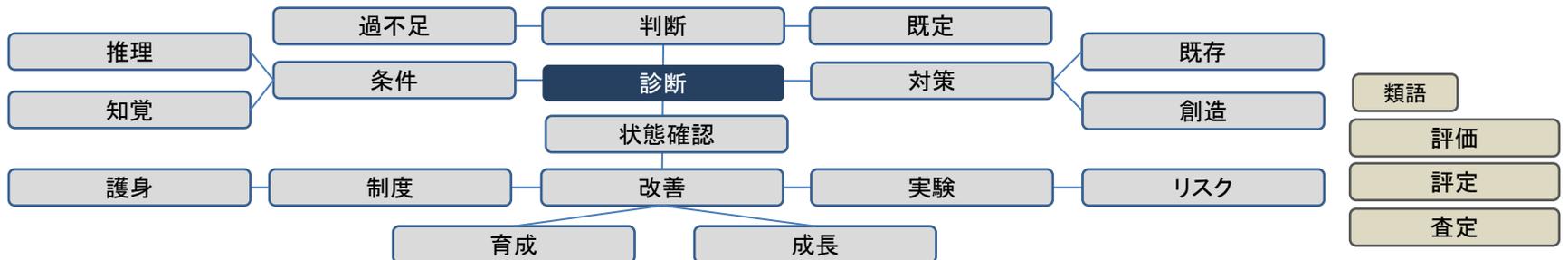
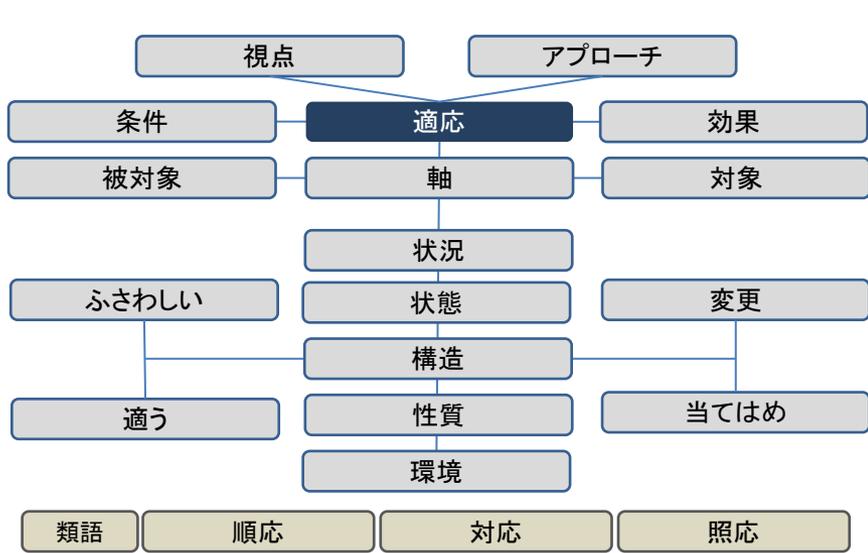
中心 — 軸



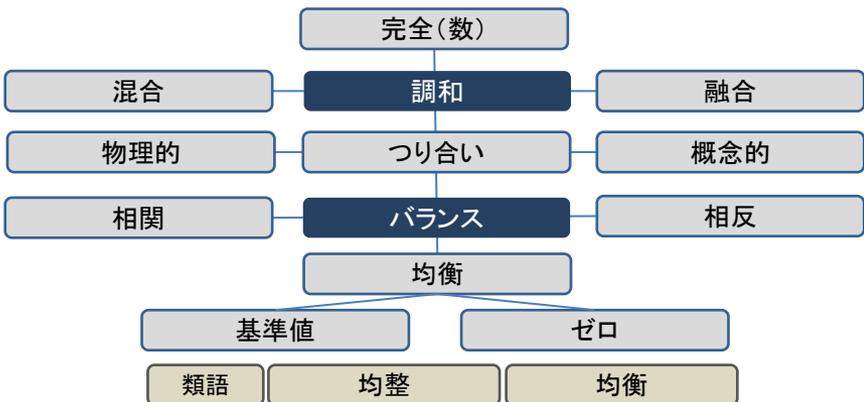
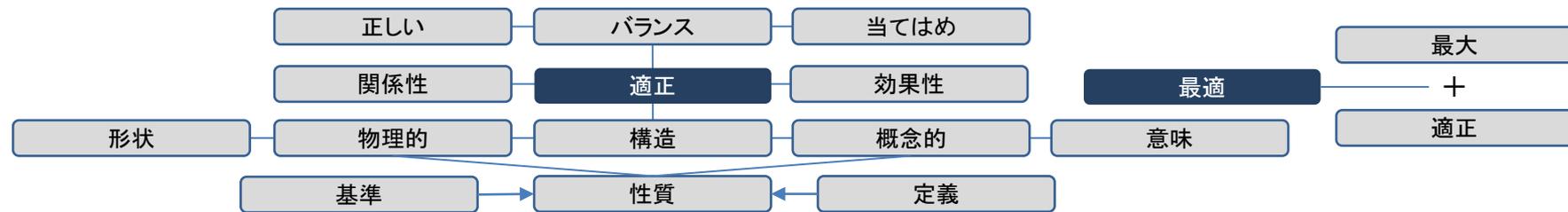
データ



適応



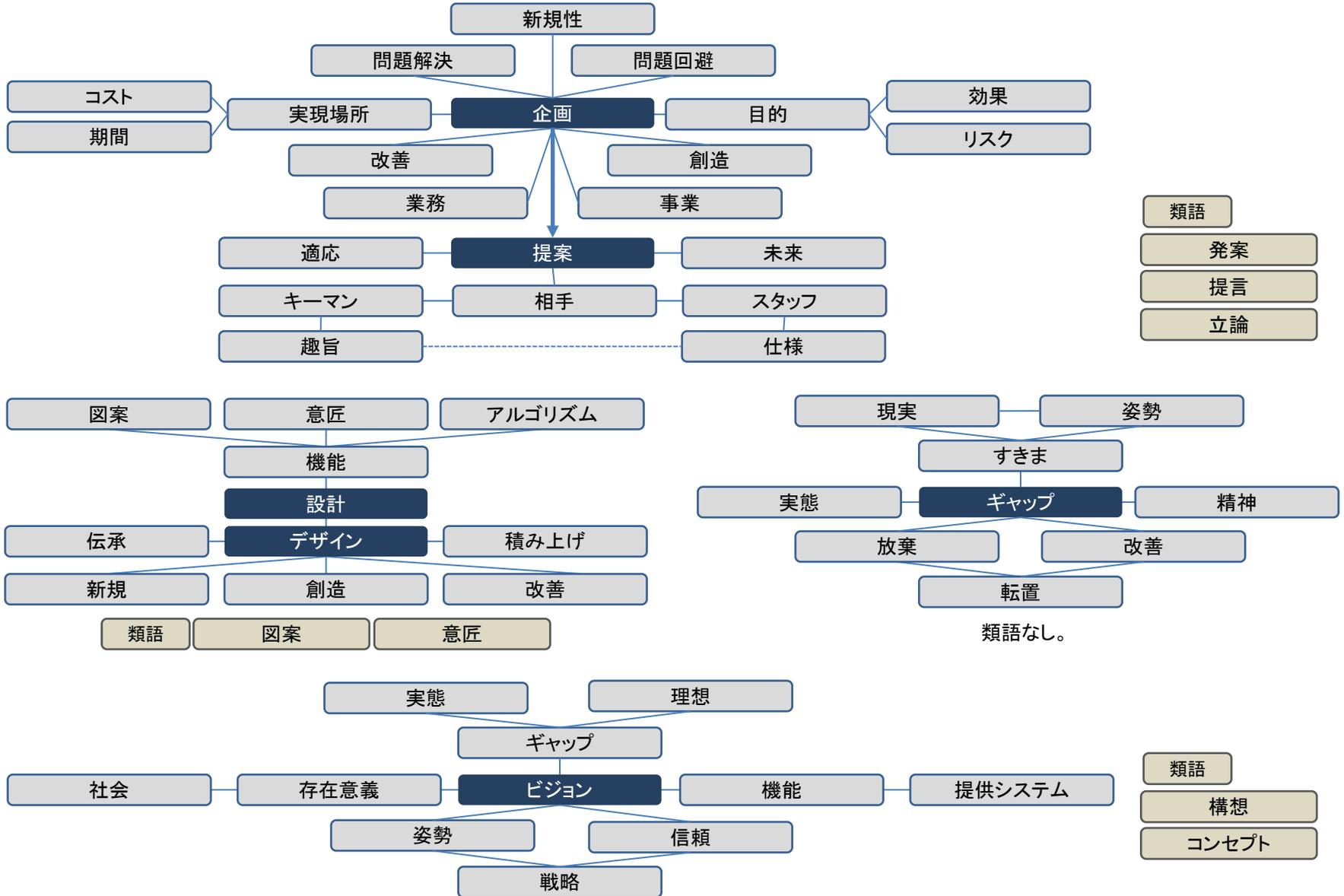
適正



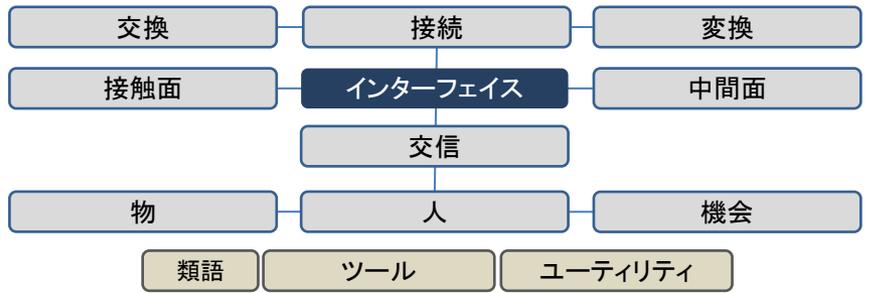
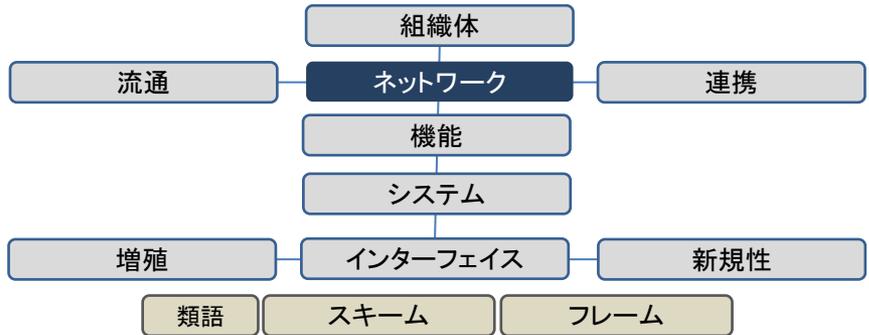
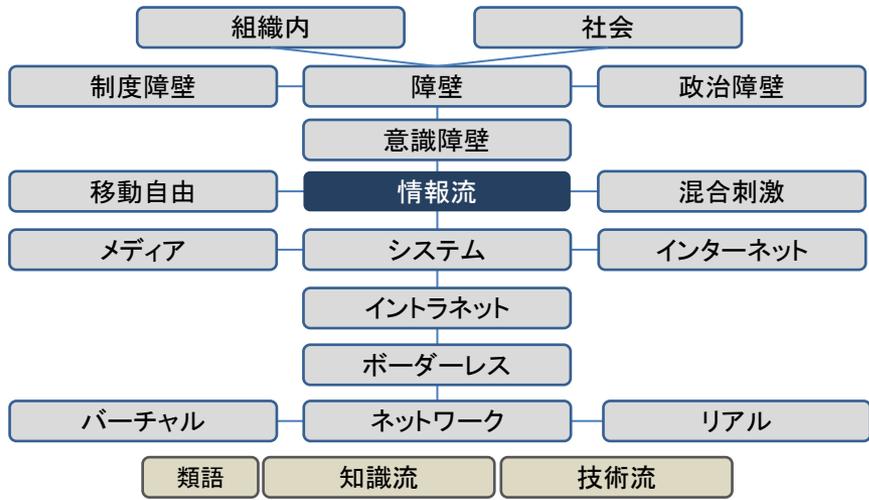
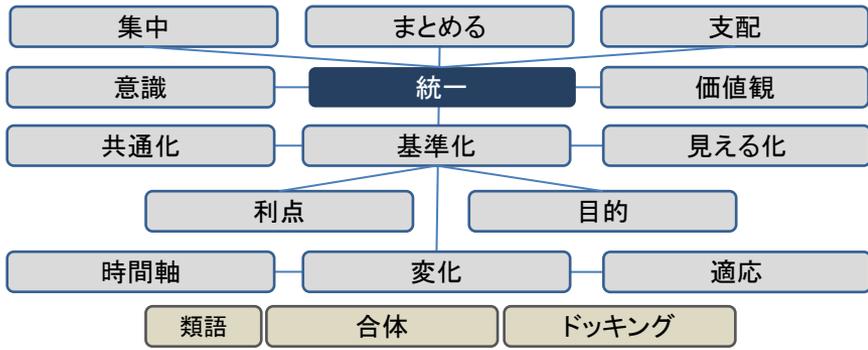
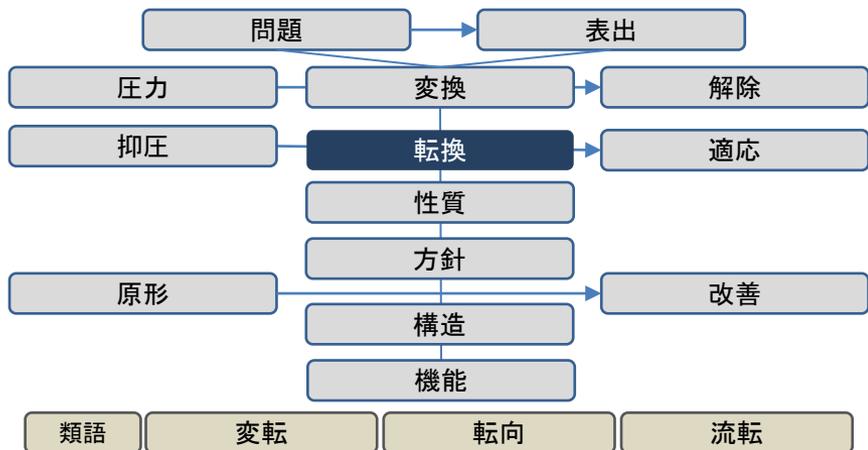
三無ダラリ:無駄、ムラ、無理がないこと。

類語なし。

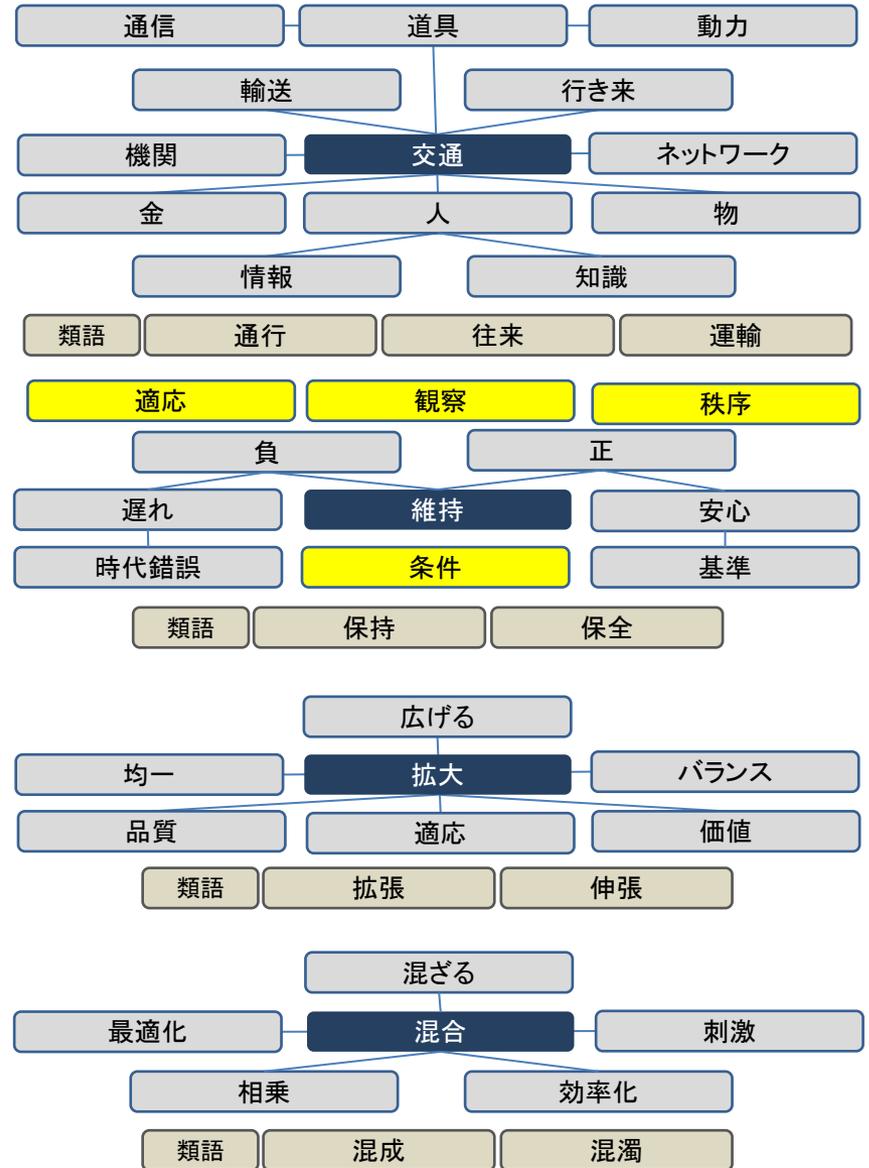
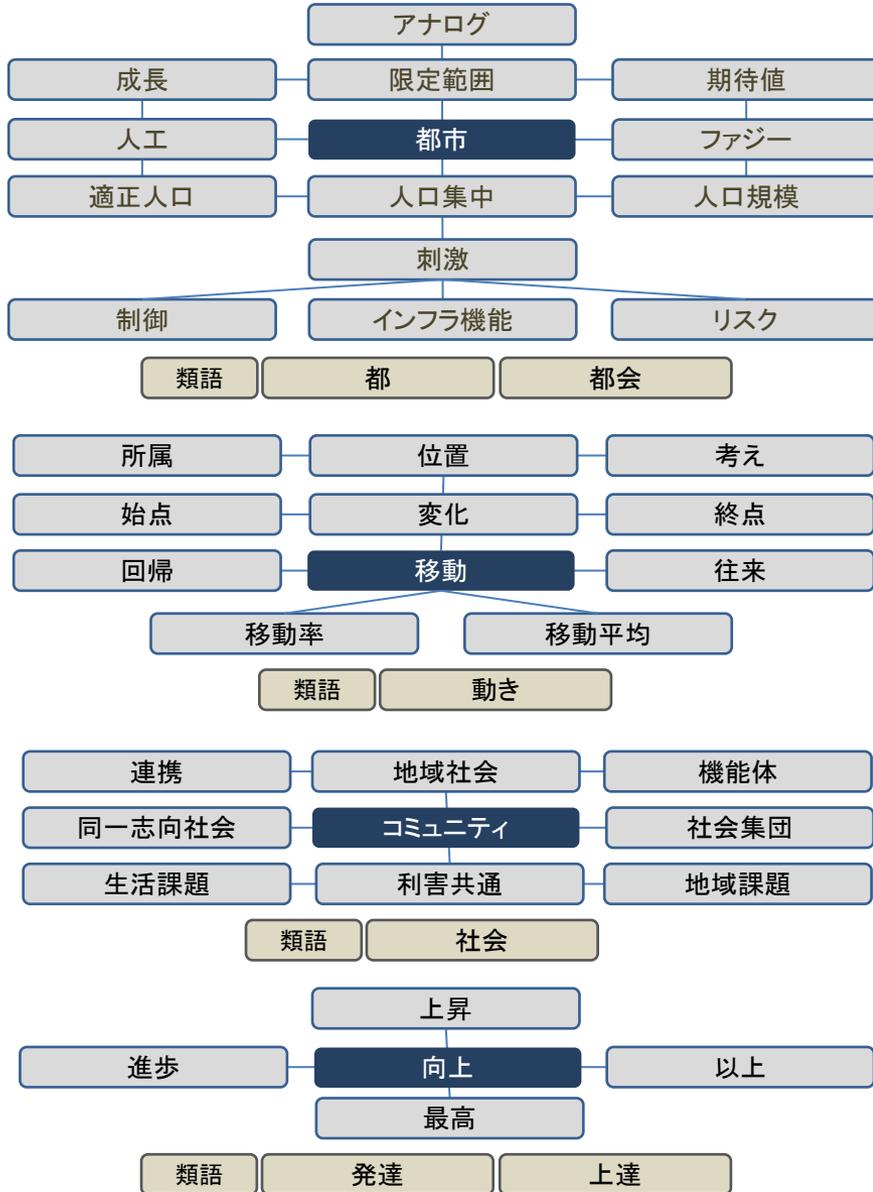
デザイン



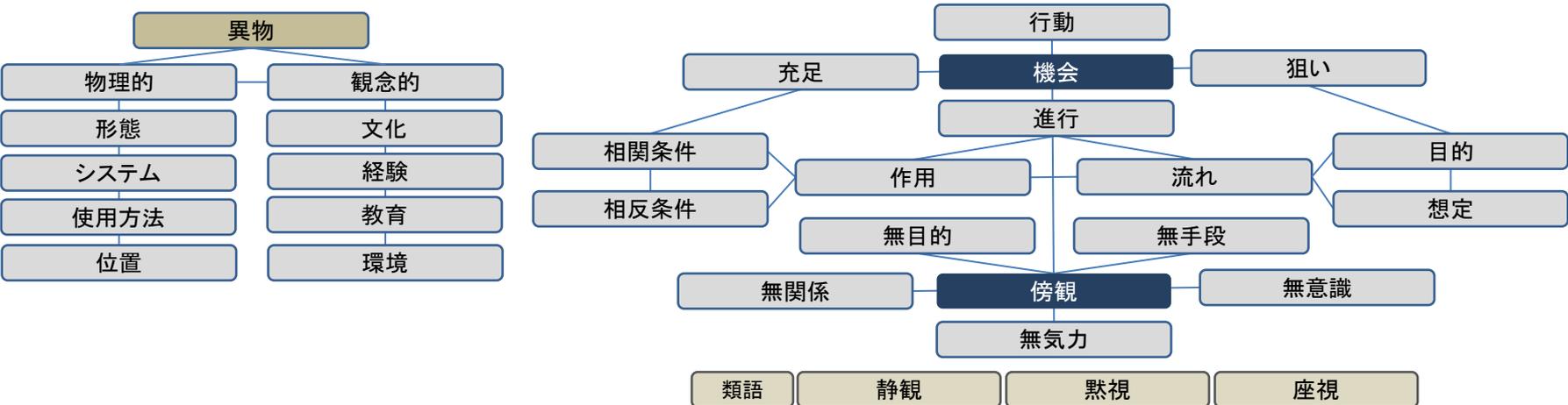
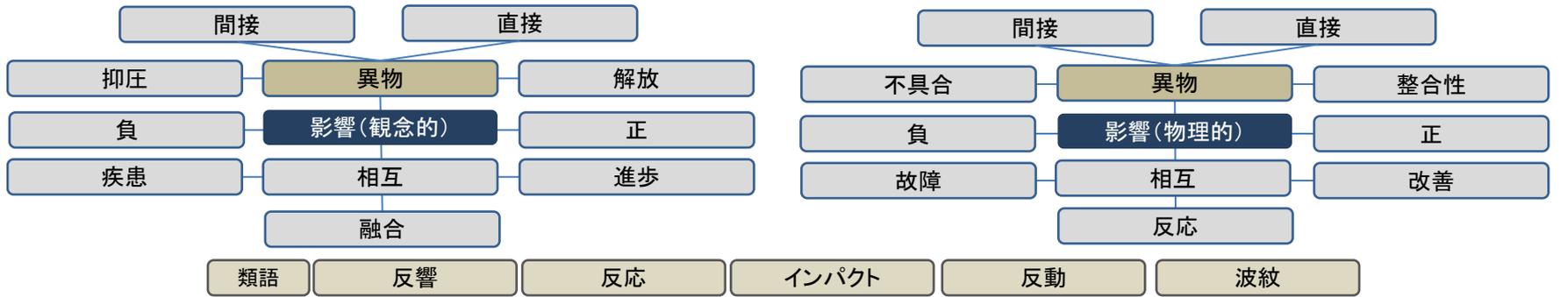
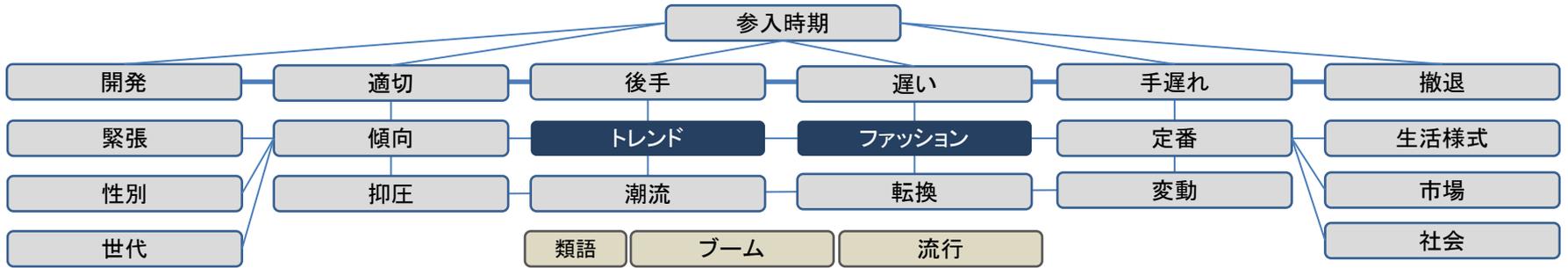
転換



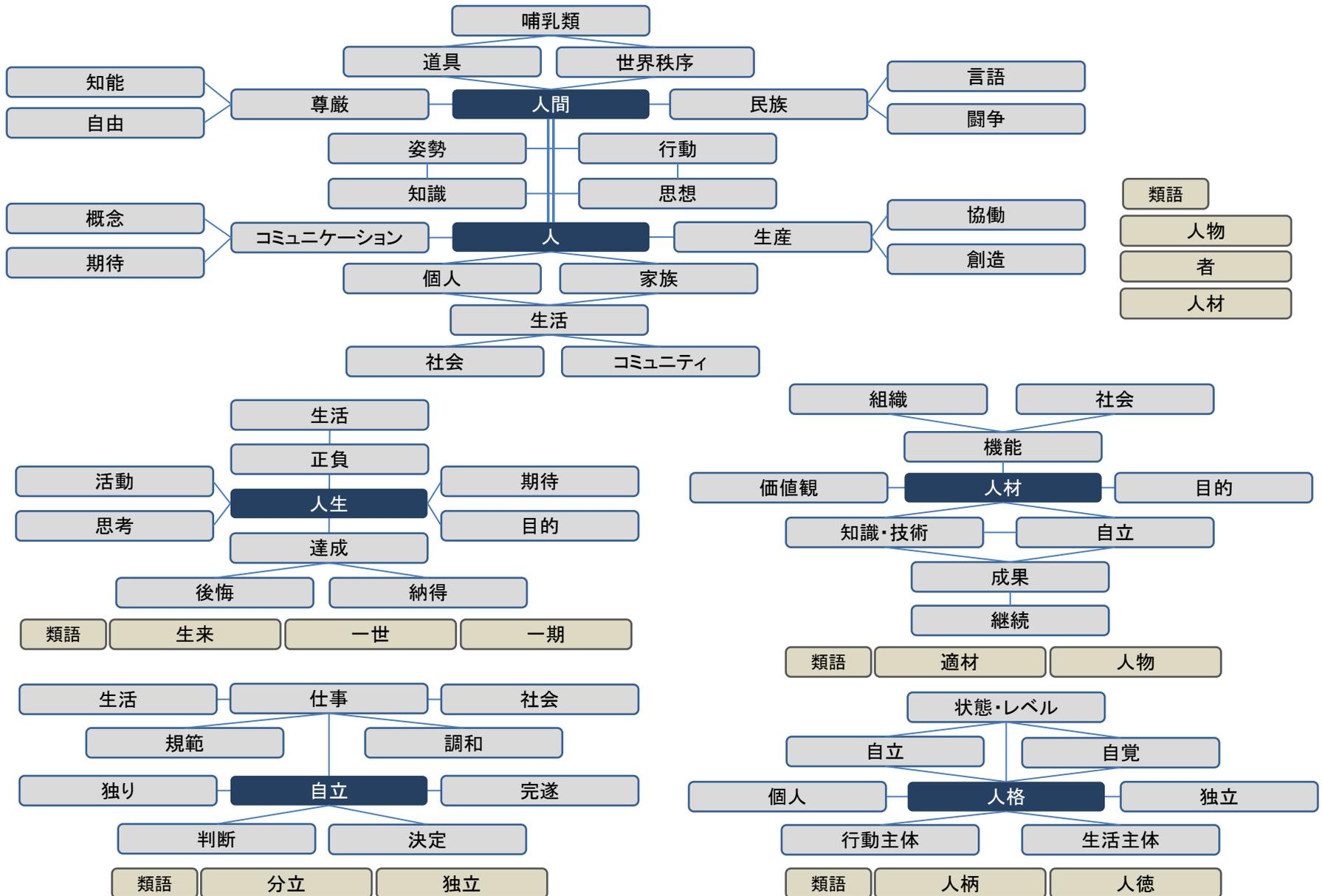
都市



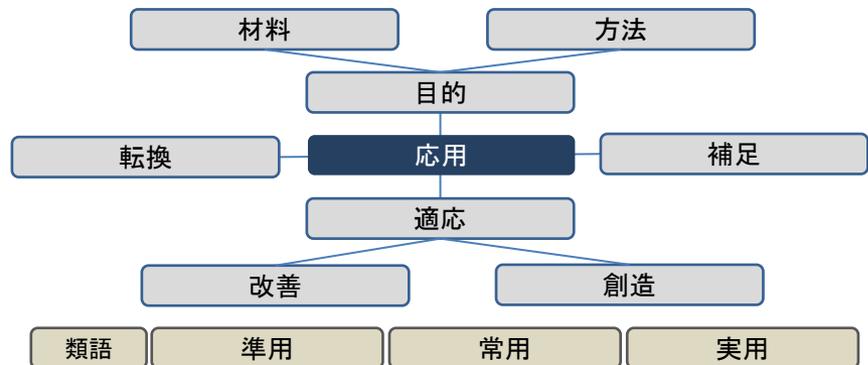
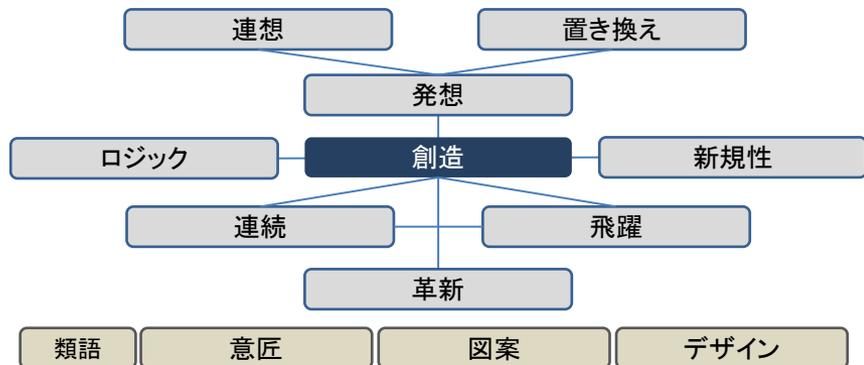
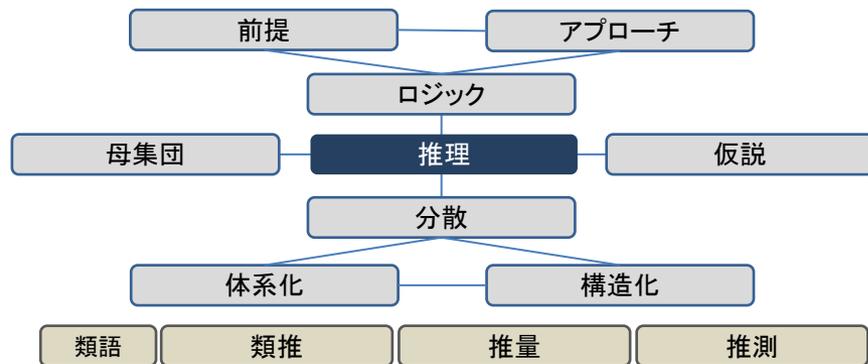
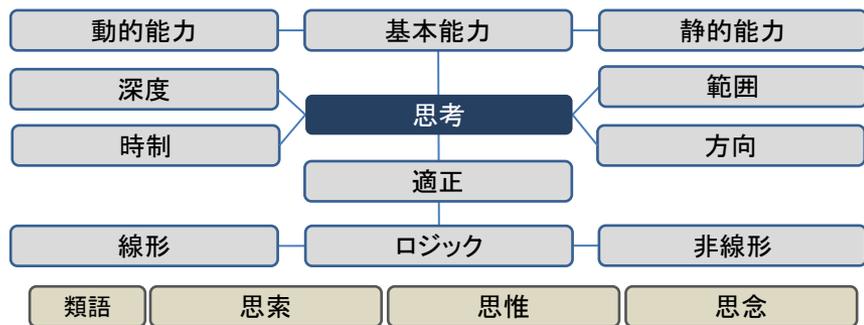
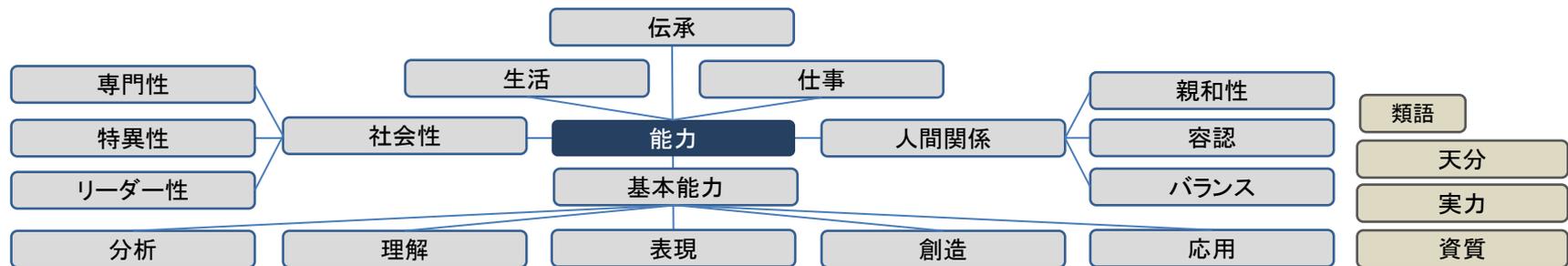
トレンド



人間



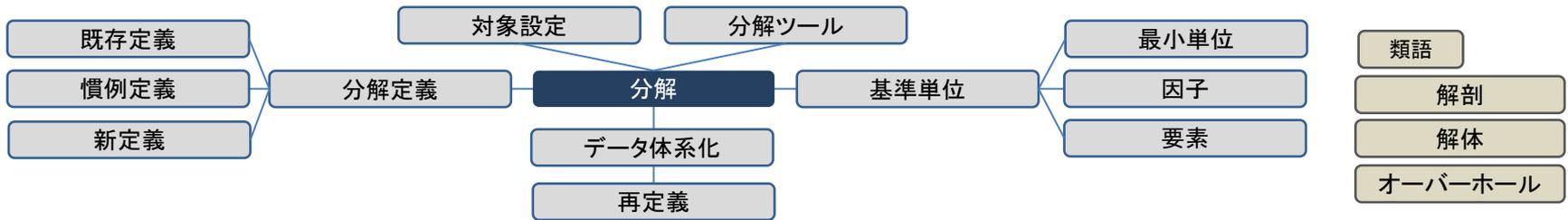
能力



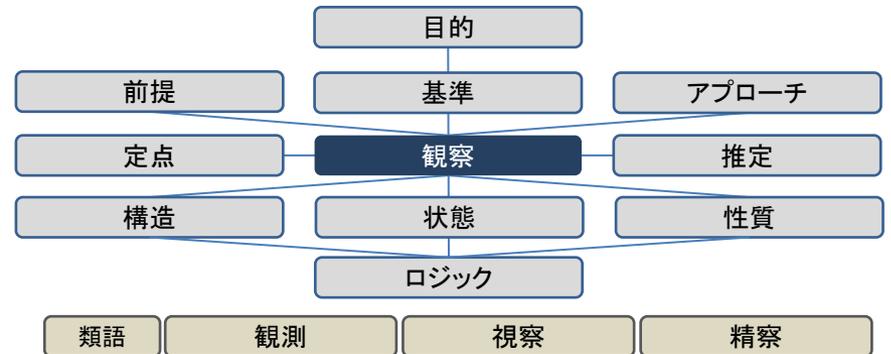
分析



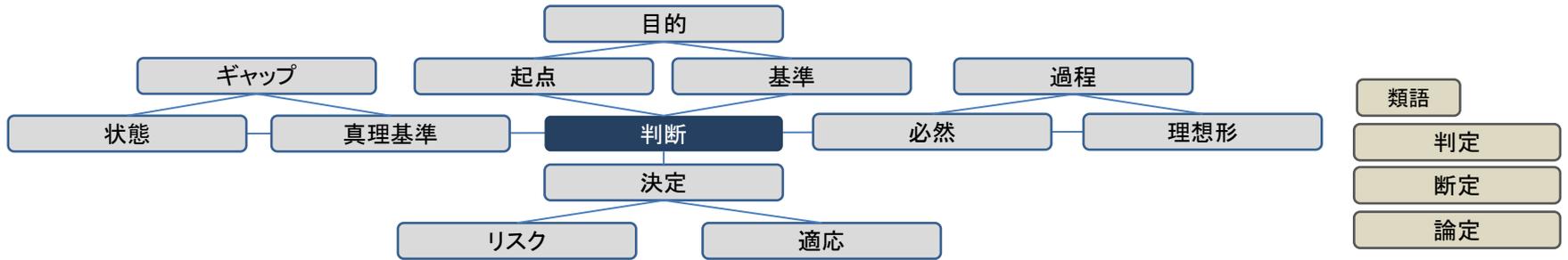
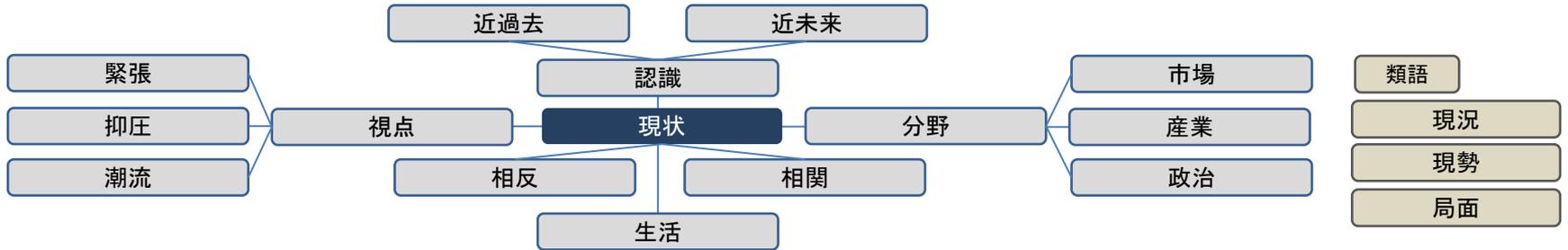
- 類語
- 析出
- 究明
- 解明



- 類語
- 解剖
- 解体
- オーバーホール

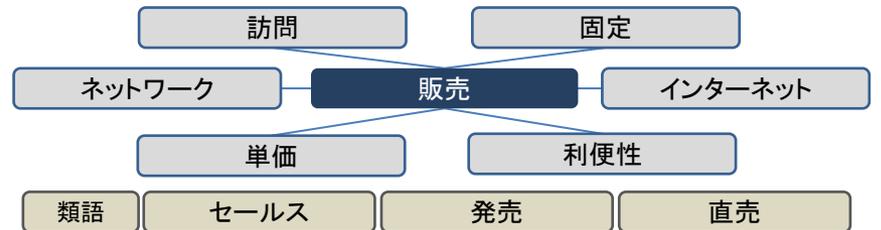
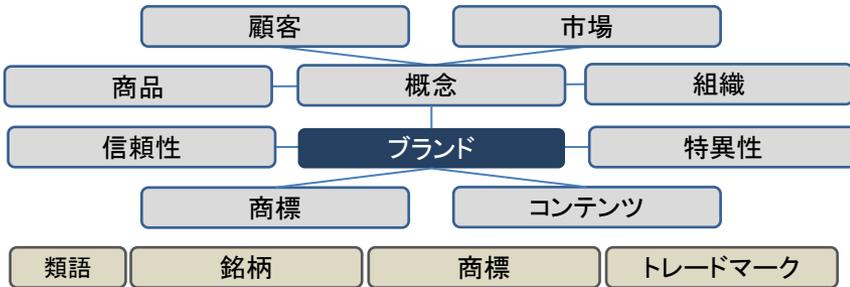
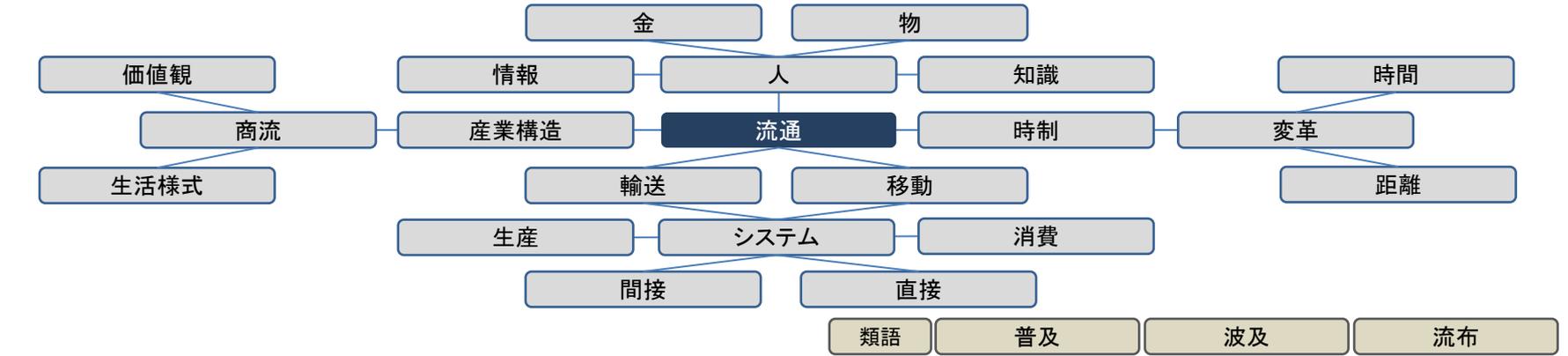
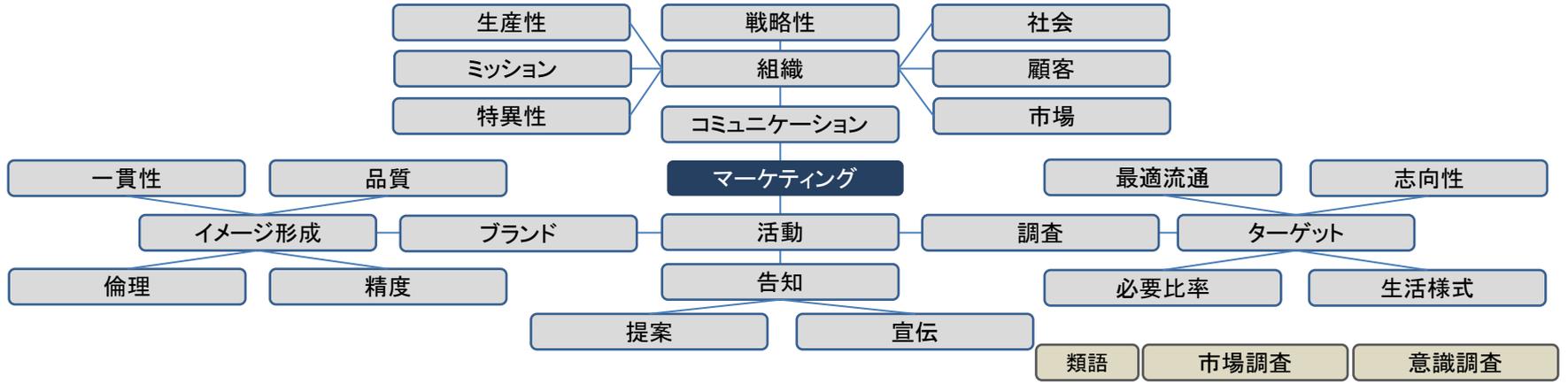


報連相

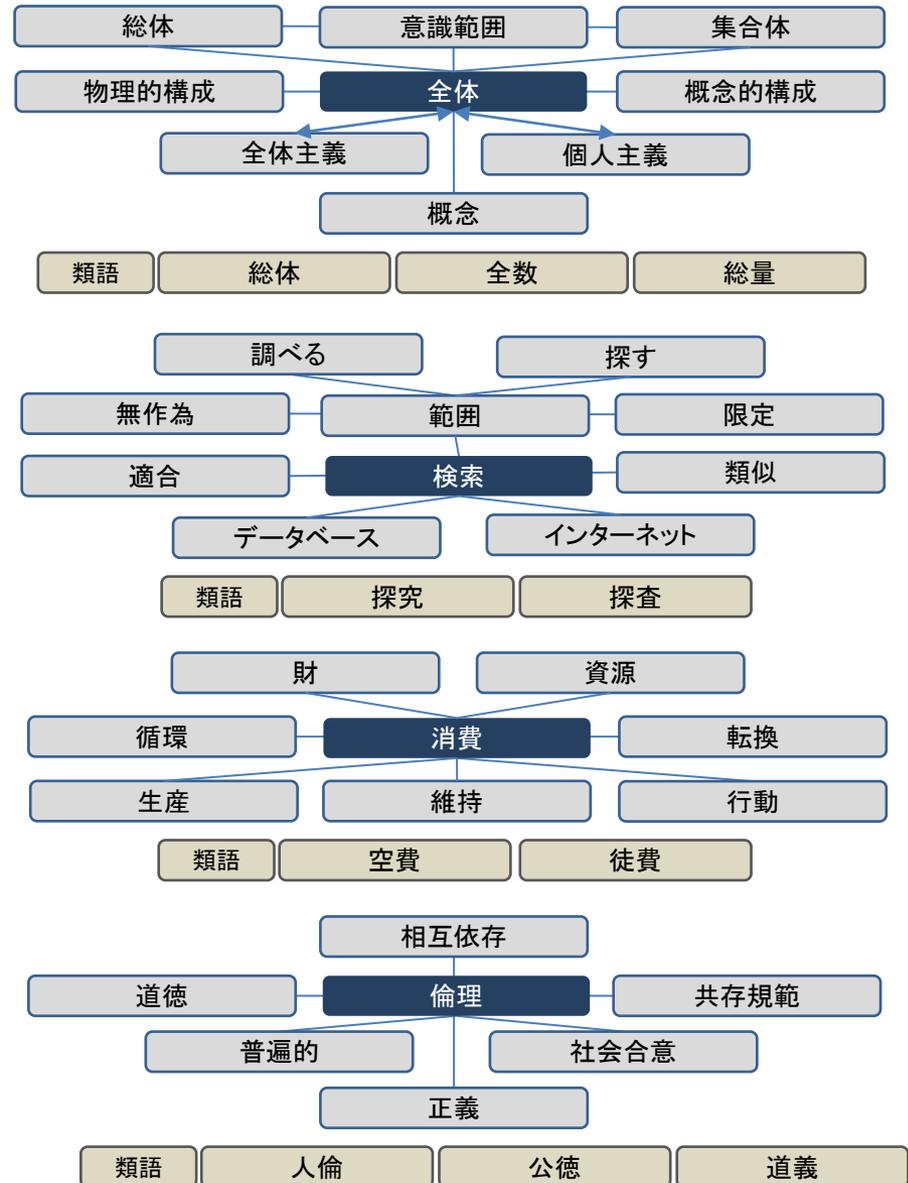
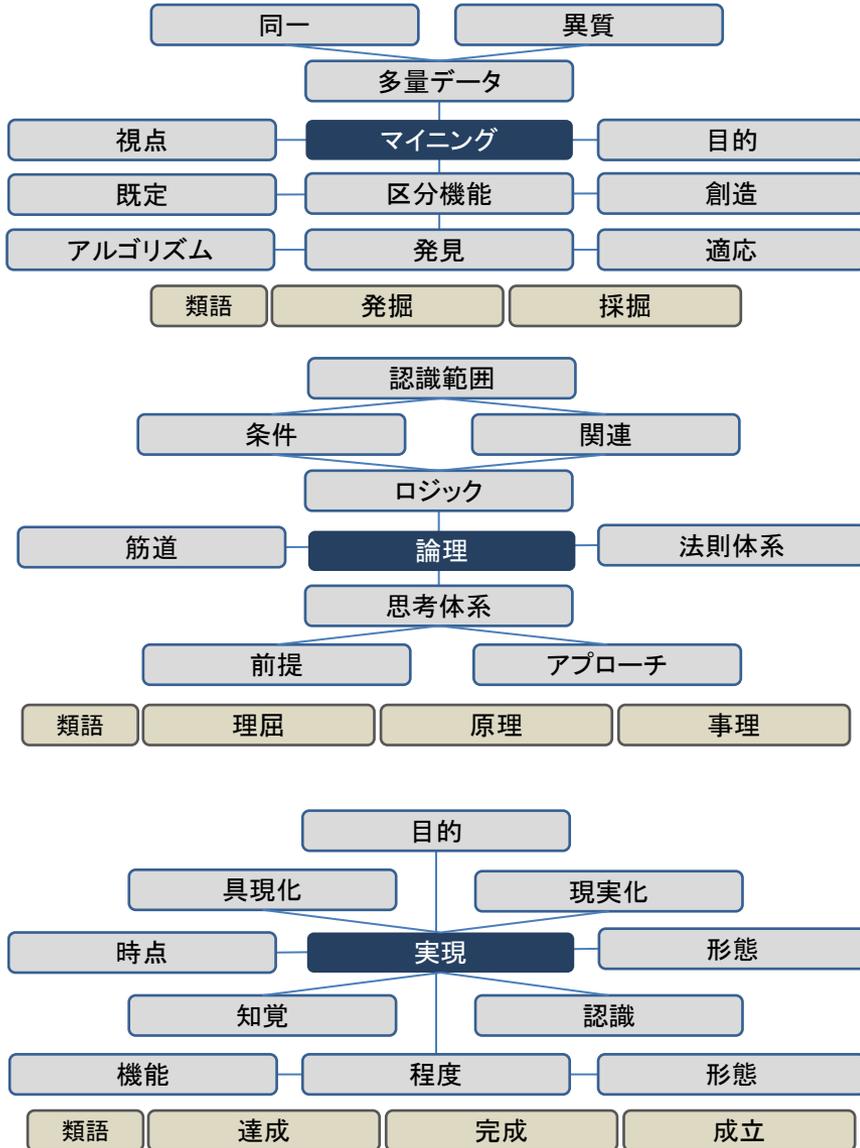


報連相は、管理のためではない。組織内に情報流を起こすためであり、育成のためである。

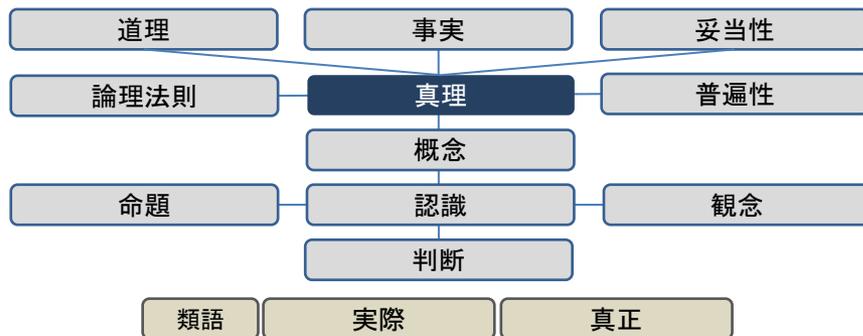
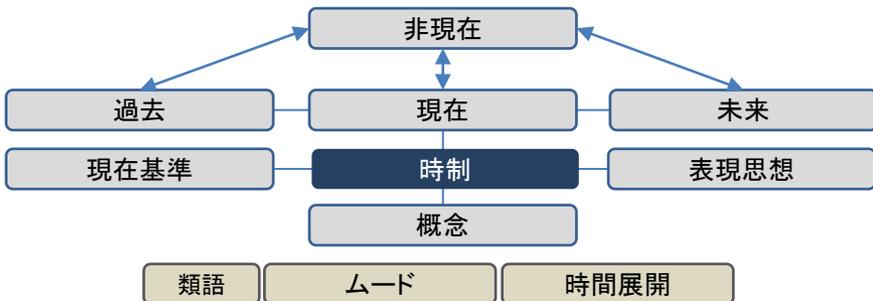
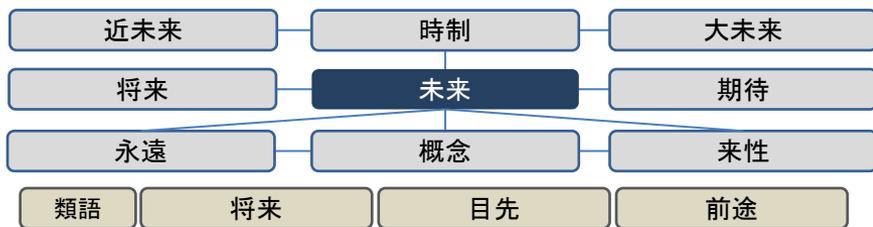
マーケティング



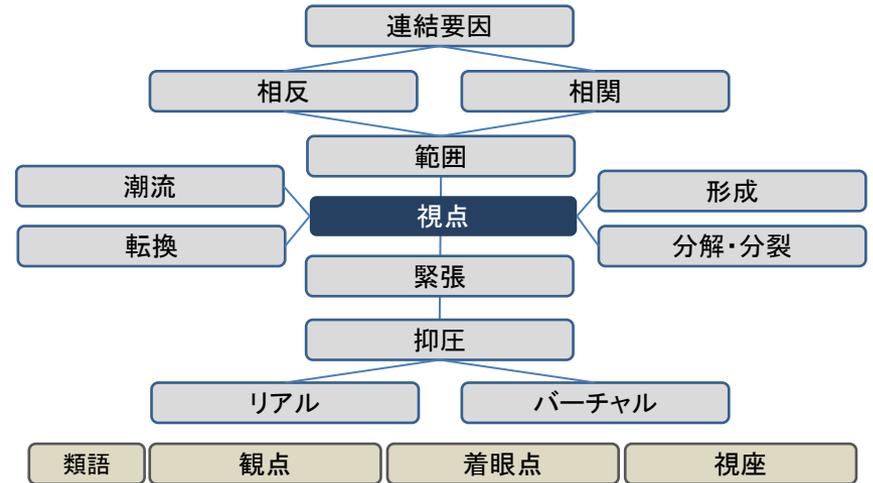
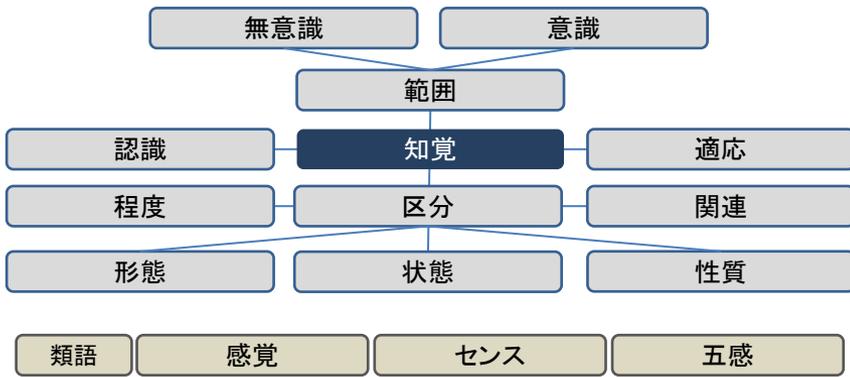
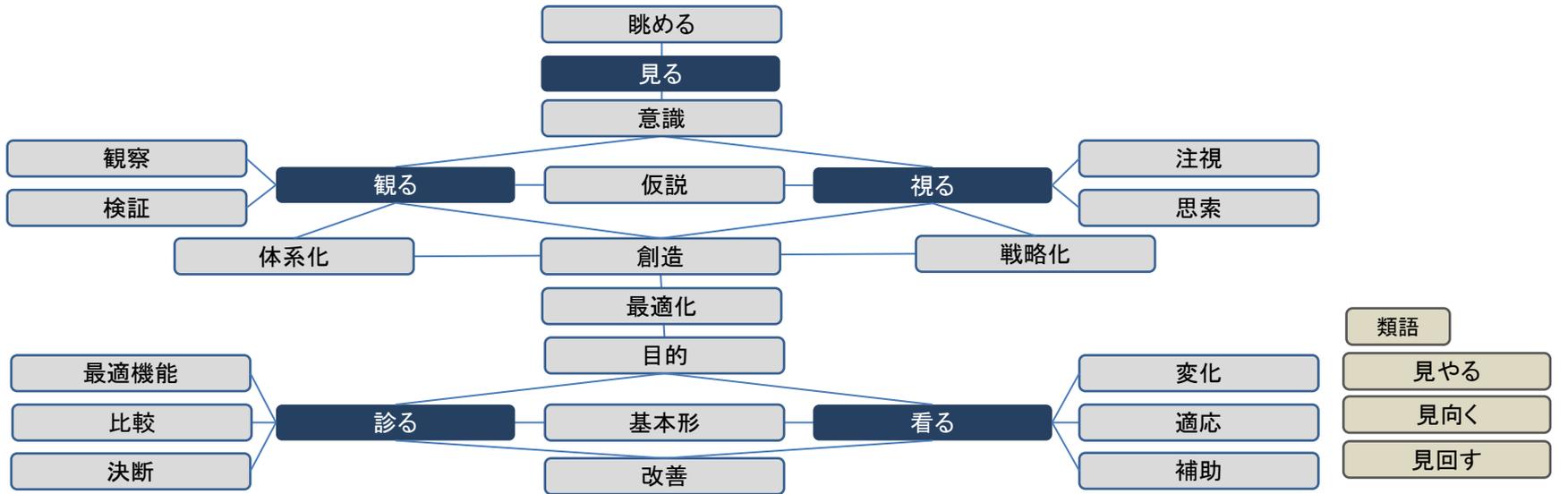
マイニング



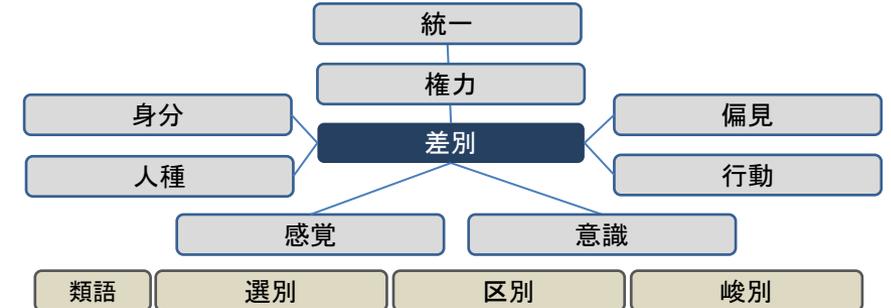
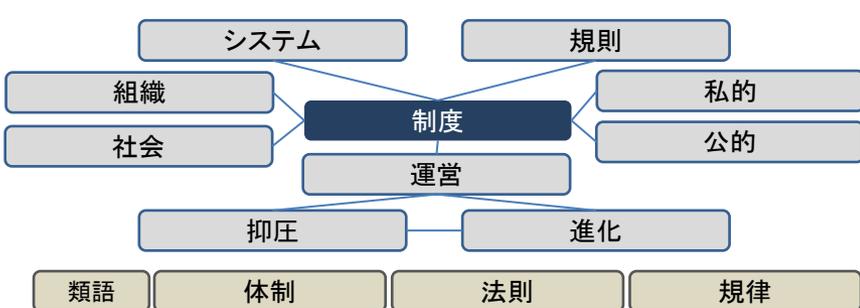
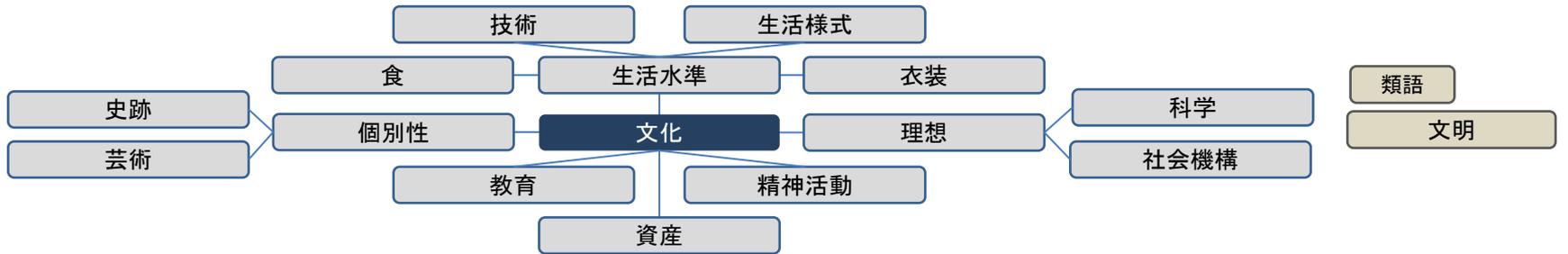
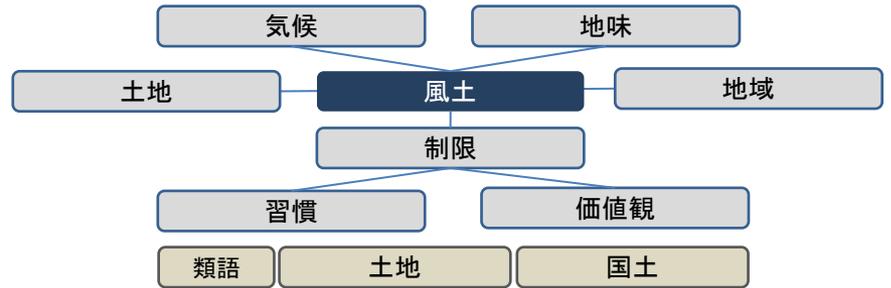
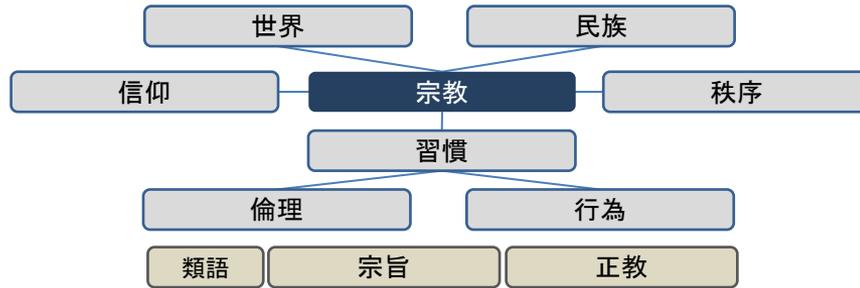
未来



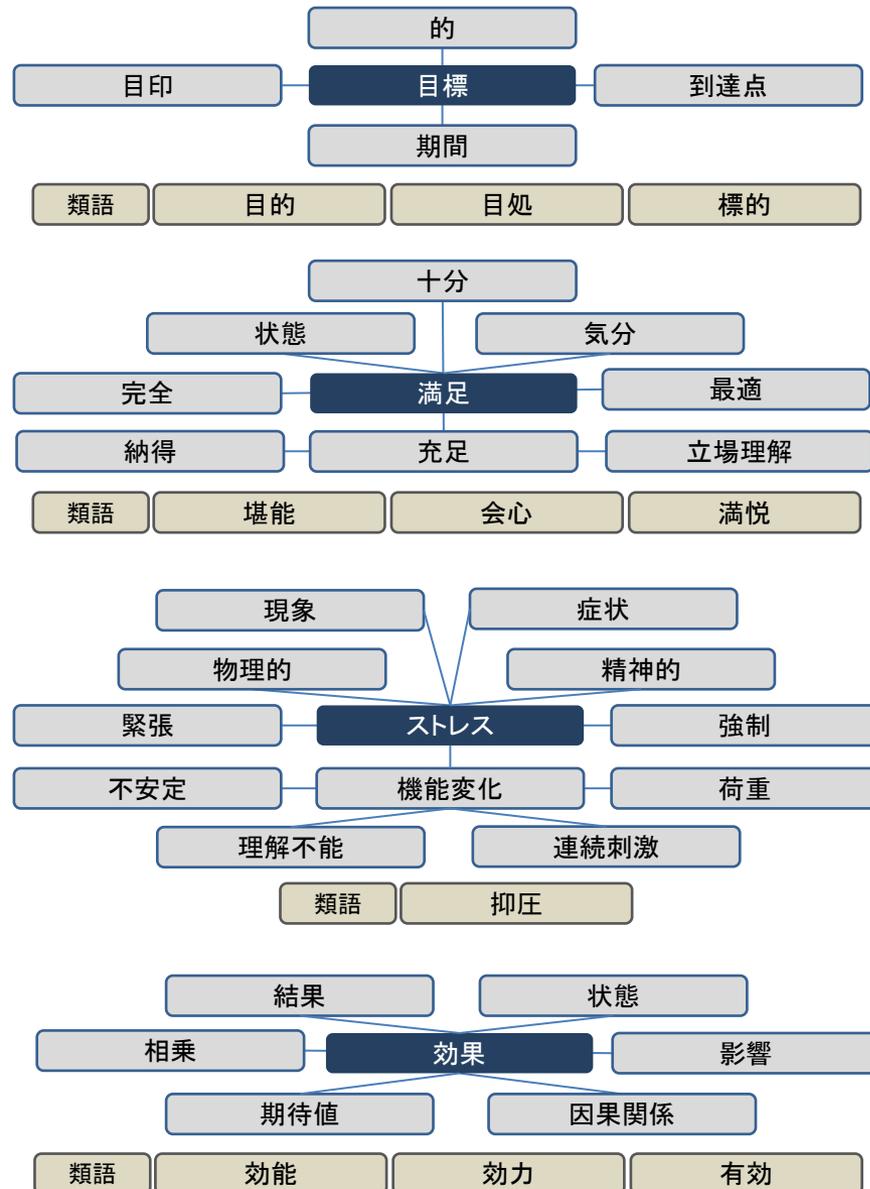
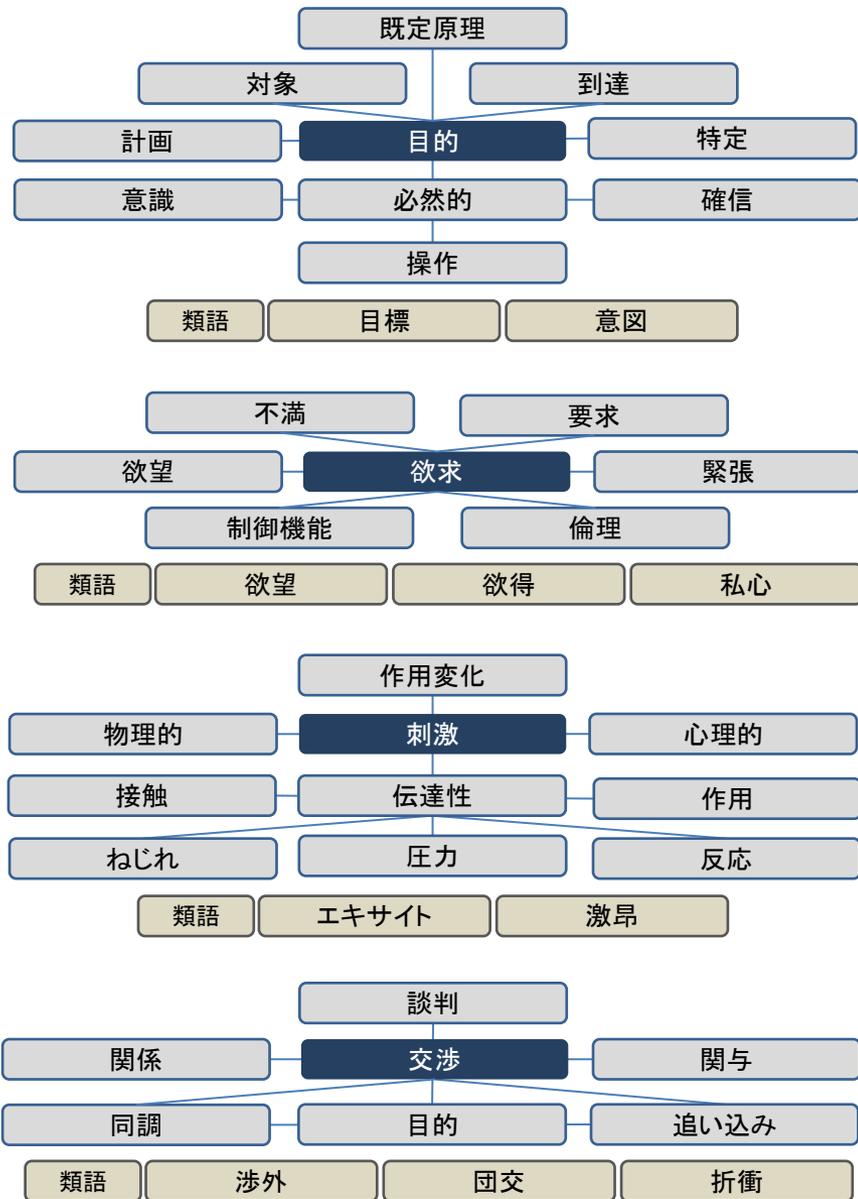
みる



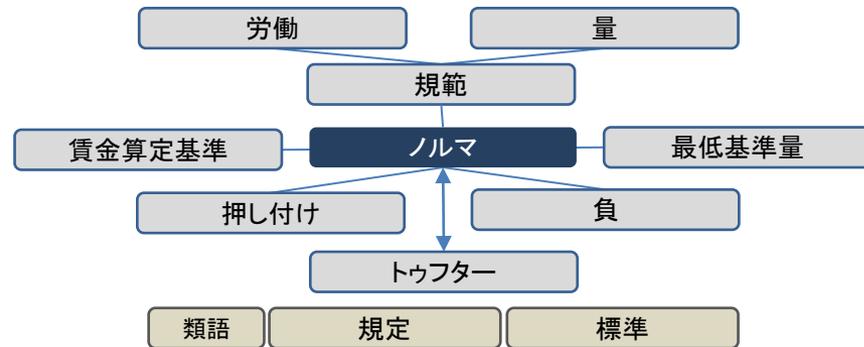
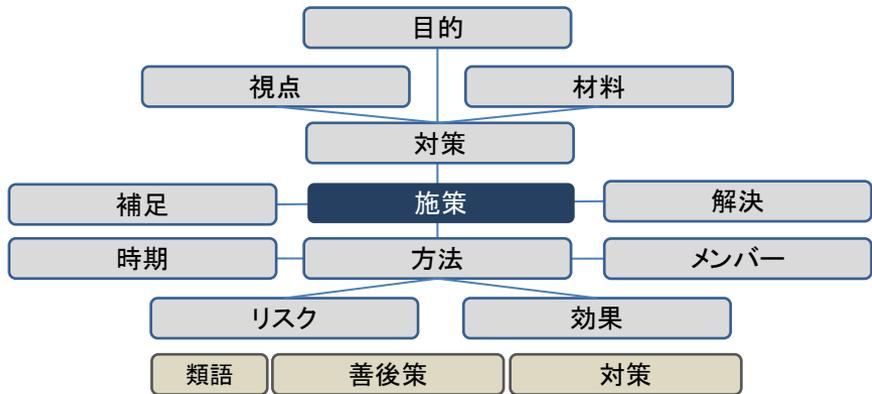
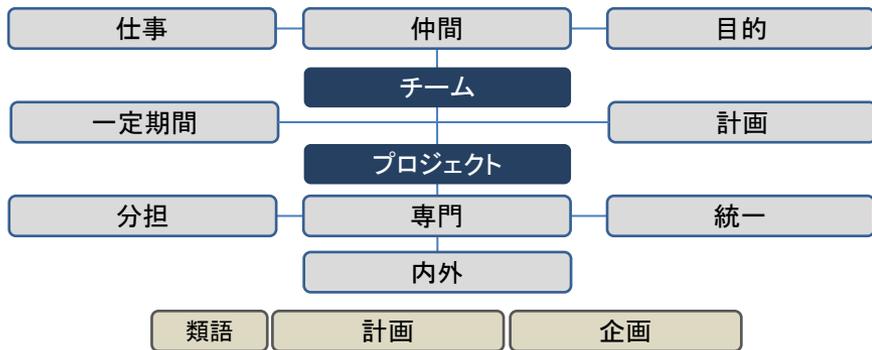
民族



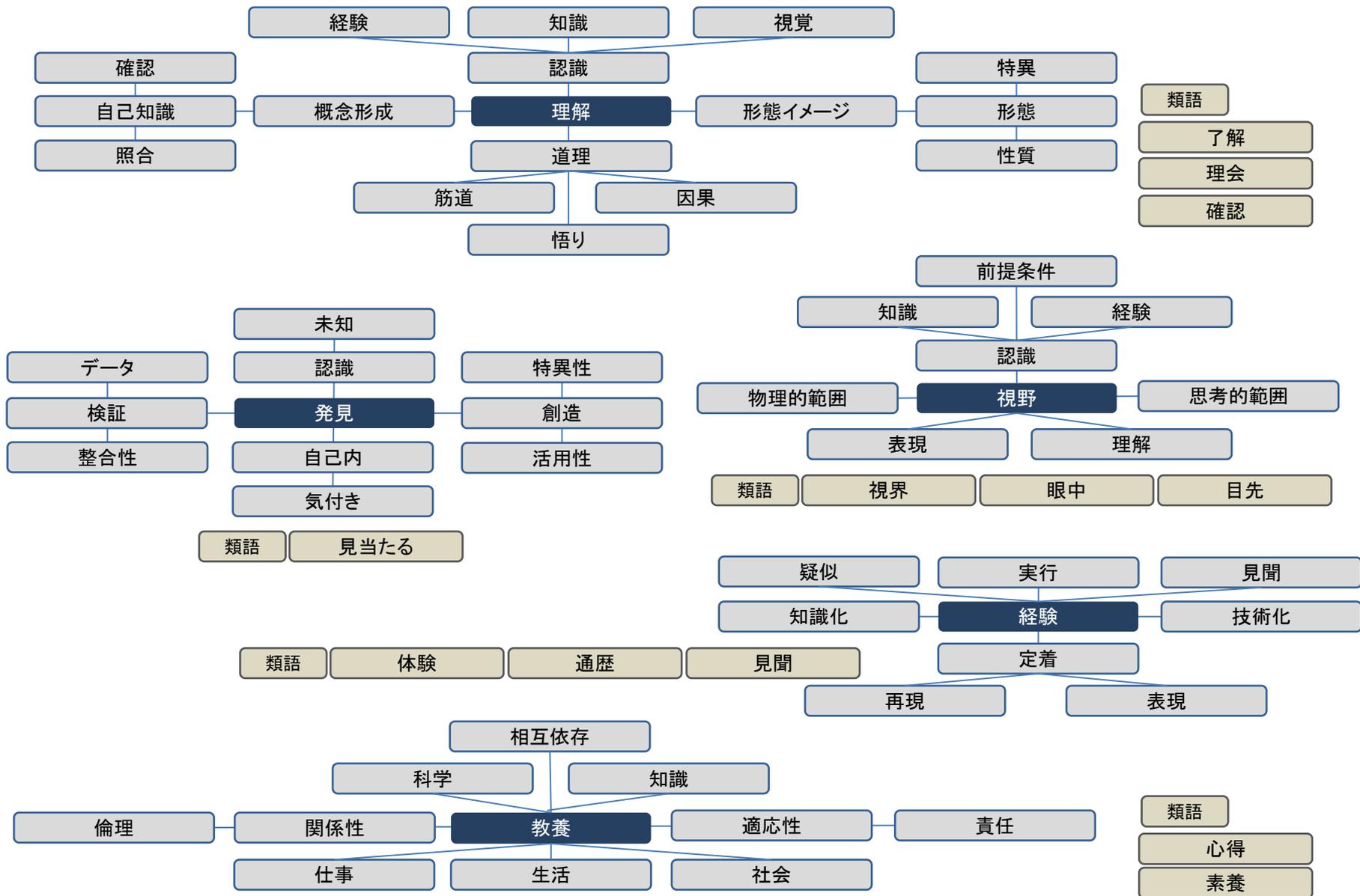
目的



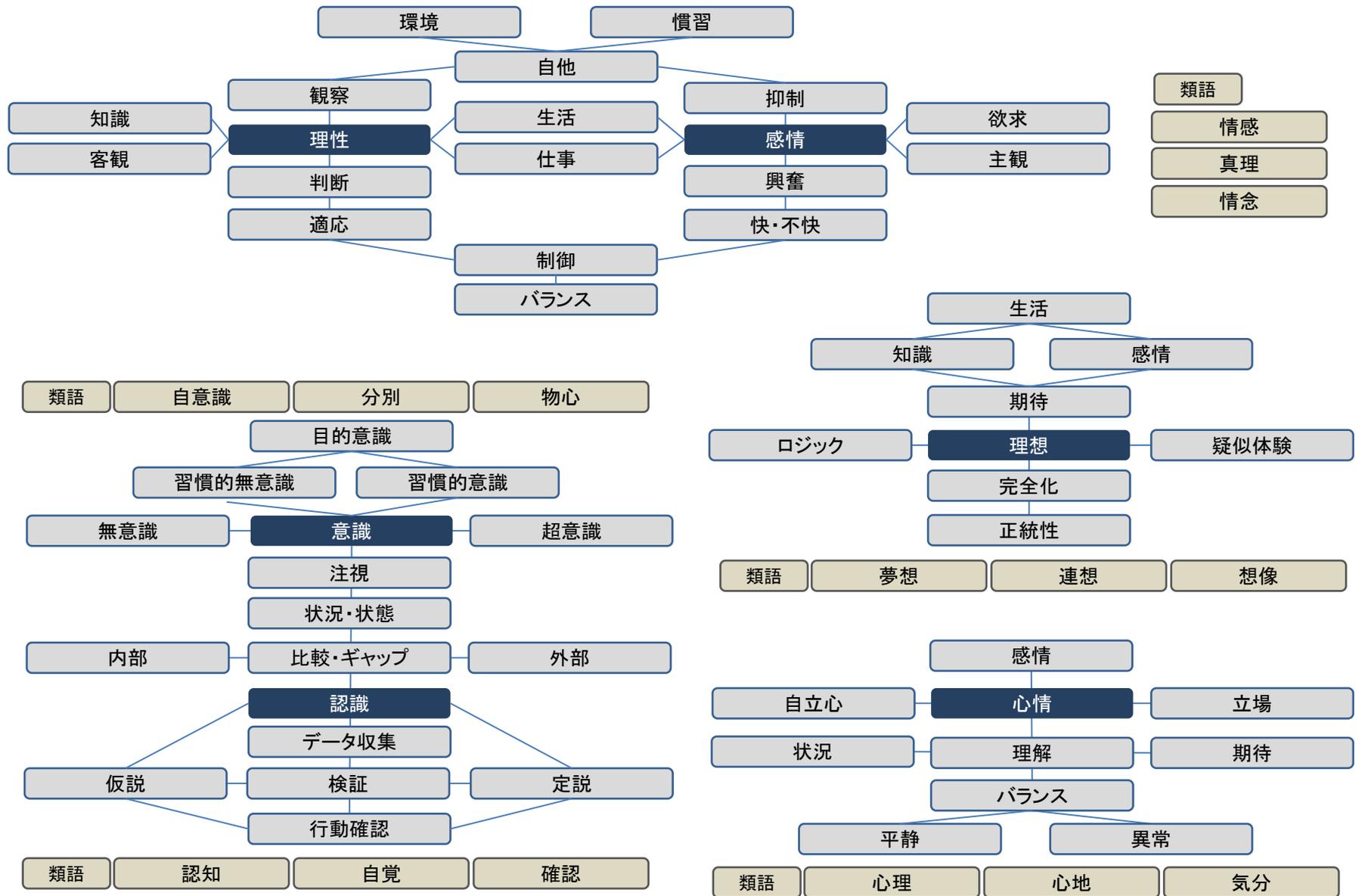
リーダー



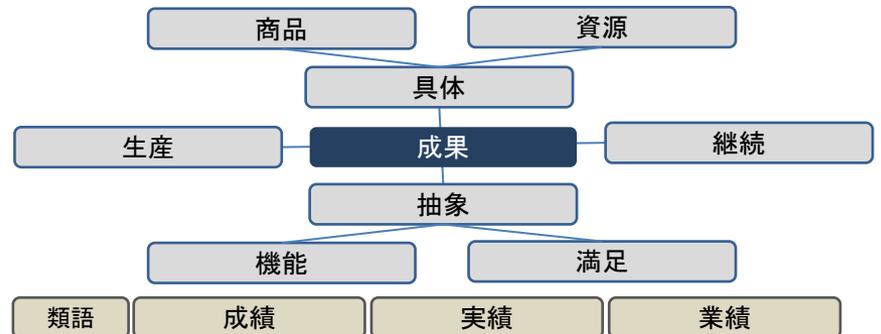
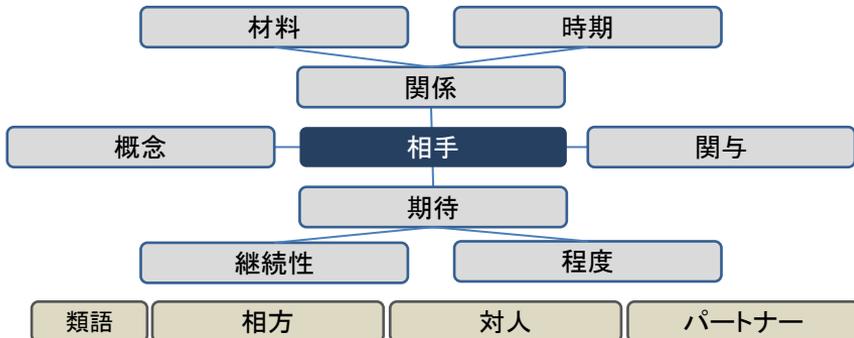
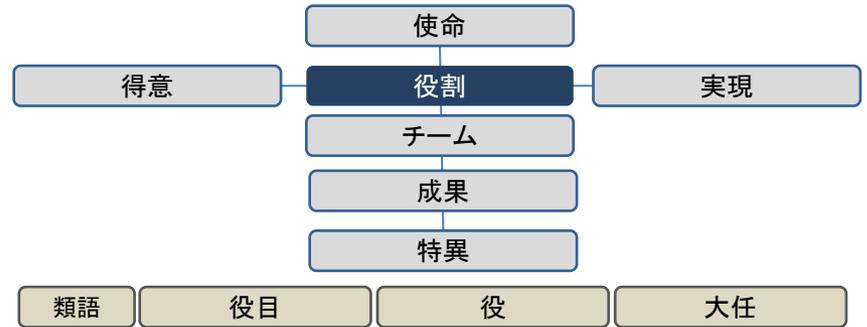
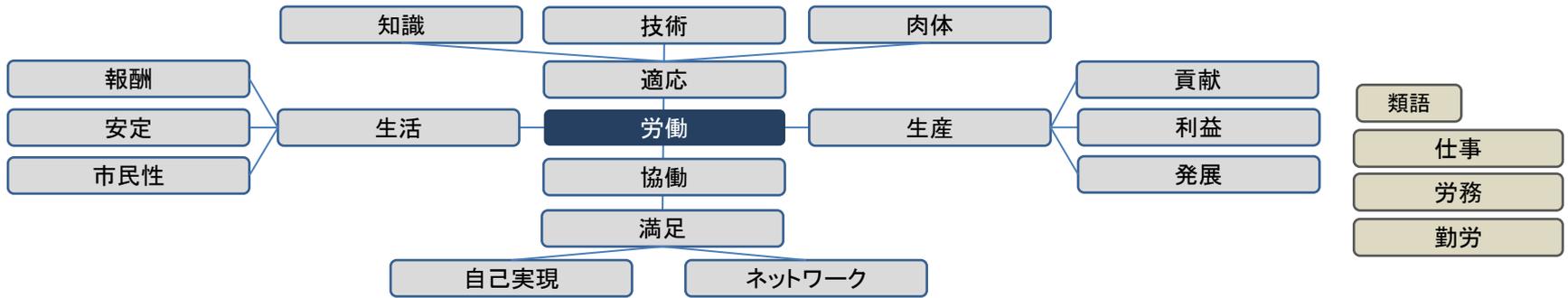
理解



理性・感情



労働



単語への視点

定義をしようとした300単語について考える方向などを表した。単語の説明ではなく、単語への視点、姿勢を表した。比喩的に表現している箇所がある。どこまで深く、丁寧にとらえているかで、単語と単語のつながりが変わってくる。関連図と合わせて活用して戴きたい。

【あ】

相手 相手には二つの方向の意味がある。一つは仲間で、他の一つは、働きかける相手、自身の成果を評価する外部の者である。

アイデア アイデアは単なるひらめきではない。積み重ねられた知識と経験があって現れる。常に考えていて辿り着く。

アプローチ アプローチをするには前段階がある。目的、材料、方法、そして、対象への認識がなければならない。

安全 安全に絶対はない。比較すべきものがある。基準と対象がなければならない。「安全」としても、背景に「～と比べて安全」である。

安定 安定が生み出すモノを考える。安定であるための条件を考える。安定に向かって私たちは活動をしている。

【い】

育成 育成行動以前に目標とするところの意識が必要である。育成機能が発生する精神的、物理的環境が必要である。

意見 知識と経験、推論と発想があって意見は現れる。裏打ちされた前提が必要である。

意向 伝聞的習慣と立場を考慮した使い方している場合が多い。単なる単語としてとらえる方が伝達の正確さができるかもしれない。

維持 維持する努力があって、進歩がある。維持することで慣れと矛盾が現れると危険が増す。

意識 意識を意識する時などほとんどない。どのような状態が意識しているのかを考えてみるのも良いかもしれない。意識すれば、気づきが増えてくる。

意思決定 決断である。あらゆる条件、方向、持ってるモノを含めて最善の選択、判断をする。意思決定にはリスクが伴うことを忘れてはならない。

依存 他の物に対して、他の人に対して、精神的に、自分の拠り所となっている。実質として寄りかかっている場合もある。基準、習慣、制度に依存している場合、是非の判断を見失う時がある。

一般 基準になっているモノ、所属しているコミュニティや組織によって一般は変わる。一般を使うとき、その全体は何であるかを確認する。

異動 習慣的異動は弊害になる場合がある。組織の状態、責務を把握して行わなければならない。

移動 位置、状態、考えの移動がある。主体になっているものは変わらない。時間と速さ、精度が重要になる。

イノベーション 変革、革新と類似し、多くの分野で使われている。日本では技術、知識に対して使われることが多いが、革新と同様、あらゆる分野に関わる。

意味 立場、環境、時期によって意味が変化する。視ているモノが同じであっても視る条件、価値観が異なるからだ。

意欲 意欲を意識的に作り出せればよいが困難である。機会と可能性を見出す方が効果がある。

インターネット インターネットが何かではない。インターネットが何をするかではない。インターネットが何を起こし、何を变えるかを考える。

インターフェイス 人と人、物と人、人と組織、人と施策、人と機会、様々な接続がある。それらはすべて発展へのチャンスである。

インフラ インフラは、物理的な面でもとらえられる場合が多い。だが、意識と思想があって、期待があって、インフラが整えられる。物のインフラ以前に思想、意識のインフラがある。

【う】

運動 動けば何かが起こる。変化が生じる。物理的なものと精神的なものが連動する。

【え】

影響 静止している所では何も起こらない。新たな物が入って、動きがあって、あらゆるところに影響する。気付かないところまで影響する時もある。バタフライ効果も立証されている。

エネルギー 類語に「動力源」がある。エネルギーが関わることを意識している必要があるのではないか。「意欲の素」もエネルギーと解釈できる。

【お】

応用 既存にあるモノを大切にしなければならない。分かっていることは出来るだけ取り入れる。すべてがどこに、いつ、関わるか分からない。

お金 個人の価値、多くの人の共通の価値、これらを表す手段の一つである。意識の等価交換の道具である。

オペレーション 常に、相違工夫が必要であるが、安定したオペレーションが要求される。安定しているところ、次のステップが見出される。

【か】

改革 改善よりも大きな力を必要とする。考える、行動する基盤を変えてしまう可能性がある。

解析 解析と分析は類語である。物の解析と意味や状態の解析は視点が違っている。解析、分析のために、解析対象の前提を明確にしなければならない。

改善 状態をよりよくするが、現状の延長線上で行われる。改革、変革には至らない。考える基準が現状と同じである。

開拓 眼の前にあるものを使いやすい状態に置き換える。主に自然に対して使われる。

概念 概念は、個人、一つのコミュニティ、社会全体に属するものに分類できる。自らが持っている概念の元はどこであるかを確認しておく。

開発 開発は「創り出す」意味で使われることが多い。

科学 科学は静止しない。常に発見があって、進歩していく。

確信 確信は絶対ではない。その時の納得の程度である。こだわりが強くなれば信仰になってしまう。

革新 能動的に変化を起こす。基盤を変える、価値観を変えるまでに至る。

拡大 拡大に対して縮小がある。拡大は常に適切であるとは限らない。他とのバランスが要求される。拡大と縮小は対で意識しておく必要がある。

確認 確認する対象、範囲、目的を誤ってはならない。確認しようとする前提と目的を「確認」しておく。

革命 動乱と革命は異なる。基盤、価値観、生活スタイルに大きく影響する。

確率 母数を決定するところが問題である。一つの場面、条件のみでは計算を誤る。物理的確率ではなく、概念的から発生する確率には注意が必要である。

確立 基準と目的に対しての確立である。状態が変われば、確立は未完となる。状態は常に前進している。確立は一時的である。

仮説 より客観的に、出来るだけ広い範囲でデータを収集する。仮説は仮説であり、期待ではない。自らの思考、行動に期待があると認識して、仮説に間違えてはならない。

価値 人によって価値が違ふ。習慣、文化、知識、立場で価値が決まる。絶対的な価値、個人的な価値、流動的な価値がある。

可能性 確実な可能性はない。自らが持っている材料と知識と視点範囲によって方法が決まる。可能性は自身の意志にある。

環境 いろんな場面で使われている語である。今の環境の意味だけでなく、他への視点、今と未来への視点が要求される。

観察 持っている目的で観察の方法、深度が変わる。発見を目的としたとき、観察は全体を均等にしなければならない。

慣習 慣習はグループ、コミュニティ、社会などの多くの人の共通習慣である。共通の価値観、制度に影響される。

感情 誰もが感情を持つ。他の人の感情を理解できる。自らの感情をコントロールしている。そこに、文化と秩序が生まれる。

完全 完全は、理想としているもの、基準があって存在する。常に進化しているから完全になったと思った時点で不完全になる。

管理 分かっている事柄は管理できる。分からないもの、把握できないものは管理できない。管理しようとする対象は、自らの能力範囲である。

【き】

記憶 知識体系として、イメージとして、保持され、自在に引き出せる。外部条件と引き出すメカニズムは個々に異なる。

機会 目的があって機会がある。機会は至るところに、いつでもあるが、自身と結びつくかは、知識と意識を保持できている構造に関わってくる。

企画 目的、周囲の条件、企画実行者の実働性、企画完了後の効果、コストなどが整って企画が成立する。もちろん、創造の条件が必要である。

起業 起業することが目的ではない。目的を成し遂げるためのステージを創るスタート地点である。

技術 目的に対して活用できて技術になる。適切に適応できて技術である。活用できない技術は飾りである。技術は常に進歩している。

基準 基準は、その時代、社会、グループに存在する。一つの基準がすべてに当てはまるとは限らない。

既成 区分した範囲での既成になる。範囲を広げれば、不確実なところが出てくる。不確実な既成の範囲から外れる。前提として、対象としている範囲を限定しておく必要がある。

期待 他人任せの期待なのか、十分な用意があつての期待なのか。期待行為にもレベルと真実味がある。

機能 役割、働きであるが、対するものが存在する。抽象的な機能も存在する。抽象的機能が物を変えてしまうことがある。

基盤 誰もが共通に認識できる基盤と、個々によって基盤を構成するものがある。考え方、見方で、基盤のとらえ方が異なる場合が多く存在する。

基本 精神、科学、社会、行動等々、あらゆる分野で基本が使われる。基本が指しているものを見極めていなければ混乱が起こる。

客観 客観は、あたかも、皆が納得できる正統に見える。皆としている皆に区切りがある。集団が変わると客観も変わる。同じ集団でも時が変われば、意味が変化する。

ギャップ ギャップの発見は、改善の機会となる。問題発見、適応の機会である。

教育 目的のない教育と明瞭な目的を持った教育がある。体系的なものや分散的なものがある。

共生 地球規模での共生、グローバル経済としての競争と共生を構築する。

競争 相対的に見る場合のみ有効である。絶対的な価値観であるときは無用の感覚である。

協働 共通の目的を持ち、互いが個々の能力や役割を認識しているとき、最も有効になる。

教養 社会で、仕事で最適に適應するための倫理、価値観に関わる基礎的知識である。教養が深まれば、理解できる範囲が広がる。

緊張 抑圧された状態に起こる。緊張から抜け出す、跳ね返す力が常に働く。その力の制御が大切である。

金利 金利は貸借に関わるが、意思決定の要因になる場合がある。流通規模の要にもなる。

【く】

偶像 ここでは実態のあるものではなく、イメージしているモノである。慣習的行動、意志を作り出すモノである。

区別 区別できるためには、対象とその周辺、類似する事柄の適切な知識が必要である。慣習などにとらわれてはならない。

グローバル化 限りなく全体的。意識を限りなく広げ、認識し、行動、思考の範囲とする。地球全体、今後、もっと広い範囲を示すかもしれない。国境があり、地域別に文化があった。それらを統合して過不足のない理解が必要である。

【け】

経営 経営は維持だけではない。社会に適應し社会を進化させる働きをさせなければならない。そのために組織機能を最大限に発揮させる知識及び行動である。

経験 時を過ごせば、誰もが経験を積む。初めてのこと、何度も繰り返していることを含めて、自分の中に貯まっていく。これらを認識し、体系化できれば、経験がさらに有効に働く。

経済 社会基盤の一つ。現在では社会発展の要になっている。経済効果は、様々な分野での目標となる。

計算 数字の計算から、作業や行動を進めて行く過程での効果などに対して使う。

継続 時間が継続しているから、全てが継続している。ある事柄を中心に、限定して使う言葉である。知覚の方法、解釈によって、継続の意味が異なる。

結論 様々なレベルの結論がある。勝手な結論もある。結論の状態を確認する必要がある。

原因 問題、現象があつて、原因がある。あらゆる事柄、何でもない事柄が原因となる。

研究 分解し、分解したそれぞれの意味を見極め、組み立てなおし、体系をつくり、構造化し、機能化する。その一部分でも突き進めることを言う。結果は何等かの形に表現しなければならない。

言語 言語には文化があり、価値観が潜んでいる。情報流が活発になると言語変化の期間が短くなる。言語は絶えず変化していく。

検索 検索する道具は発展を続けている。検索する手段も増え続けている。だが、検索する意図が適切でなければ、道具が有効に機能しない。

検証 適切な検証はあらゆる角度、条件、環境でおこななければならない。仮説を証明しようとする姿勢を排除しなければならない。

現状 自身が、所属する組織が、市場が置かれている現状がある。すべてがつながっていて、同じところにあるが、範囲の認識で、現象が違って見える。

原則 刹那的の原則、規則があるが普遍的なものとする。

検討 様々な場面で検討が使われる。どの場面も、対象を検討しているのではなく、自身の意識と意志を検討しているのだ。

原理 基本、根幹となる機能である。原則を外さなければ、大きな間違いを犯さず、正鵠を得やすい。

【こ】

行為 無意識、意識の行為がある。習慣化された無意識があり、十分に検討された行為がある。視る範囲、考える範囲によって、行為が変化し、稚拙が生まれる。

効果 偶然に効果が上がるはずはない。必ず原因がある。効果は、検討し、計画して上がる。

貢献 特定の対象に対して貢献する場合と、提供行為によって他と連動して貢献する場合がある。貢献は、貢献を提供する側が意識するのではなく、受ける側が感じるものである。

交渉 相反する利益のバランスを取る。秩序を生み出すのを目的とする。一方的な利が取れることはない。

向上 成果、精度等々を上昇させられて向上すると言える。自らがあるレベルに達する場合にも使えるが、そのレベルは何らかの可能性を示していなければならない。相対的な言葉である。

構造 構造を意識する機会は少ない。機能しているものには、具体、抽象に関わらず、すべて構造がある。構造を認識すれば、より有効に活用ができる。

交通 円滑な交通は、文化を発展させる。産業、知識を進歩させる。人物、情報の移動が盛んになる。

公平 如何なる状態が公平であるかを考えねばならない。公平を、全ての者を満足させる条件と基準を整えなければならない。

公理 ある原則によって成り立つ規則性である。公理が成り立てば、そのモノが特定できる。

合理性 最適な組み合わせ、状態、構造と考え方が組み合わせたとき、合理性が賄えられる。

効率 改善の範囲で考えられる。現在の延長線上である。

顧客 生産物、サービスを適正に評価し得る人である。商品に対しての代価を賄える人である。

個人 社会の最小単位。個人の自由がなくて、社会の自由と発展は存在しない。

コスト 利益への視点と類似する。コストと利益は相反する。互いに同時に存在する。但し、コストと利益のバランスの問題ではない。

言葉 言葉は知識、心情等を伝える道具である。過去も未来も伝えられる。言葉は感情を運ぶ。

コミュニケーション コミュニケーションの原理・原則を理解した方がよい。決してテクニックに傾いてはいけない。

コミュニティ 一昔前までは、地域、組織で区切られていた。Webの利用で、コミュニティ形成の制限がなくなった。

コラボレーション 仕事、生産、研究、創造、何かを成そうとしたとき、必ず必要になって来る。社会機能を作り出すための必然である。同時に社会機能、秩序が維持されていなければ、自由なコラボレーションが形成されにくい。

根源 背景を追い続けると必ず行き着く所がある。時として、噂もありえる。信仰もある。

混合 単一で対象を考えやすいが、常に他の多数のモノと混合状態にある。意識的に混合状態をイメージすると新たな刺激が生まれる。

【さ】

サービス 現代では、サービスの享受に対して代価を支払う。サービスの代価は、文化、価値観と密接な関係を持っている。

最適 適正を常に追い求める。適正の最大化が最適であるとするが、最適のハードルは常に高くなる。

材料 材料は常に進化する。材料から創造されるモノが多いが、創造願望から材料が創られる場合もある。

策定 計画し、実行できるように準備するが、実行プロセスのチェックリストでもある。綿密な分析を必要とする。

差別 負の概念から起こる。根源を探れば、差別の条件は消えるはずである。残っているのは人の心の中だけである。

産業 社会の多くの機能を企業が果たしている。企業が経済を動かし、産業が社会で形成される。社会変化に敏感に企業が動き、産業が変化する。

【し】

時間 一塊の時間を取れば、集中しやすくなる。自らの力を時間の塊りに集中させる。能力をエネルギーに変換させる。

事業 資源を機能に変え、さらに新たな資源に変える。その変換作業で富を社会に生み出すことを目的とする。

軸 考えるための軸、行動軸、軸を中心にして、展開が始まる。軸にモノを集められる。集散の柱となる。

刺激 適切な刺激が必要である。対象の許容範囲を認識しておく。

資源 物から、知識・技術への変換、または交代が必要である。物にこだわると、物の生産の範囲が先細りする。

思考 誰もが、いつでも、どこでも考える作業をしている。無意識に考える作業をする。考えるには、ロジックが必要である。柔軟で、多様な分野の混合の中で機能的に考えねばならない。

自己実現 社会にあって、自他ともに認める実践力である。続けている向こう側に現れる。

仕事 常に前を向く。未来を考える。後始末の仕事であっても次のステップのために行動をする。

施策 適切な、材料、視点を持ち、目的が明確でなければ施策は立てられない。実行するための、施策を理解する仲間が必要である。

資産 一昔前までの資産は目に見えるものであった。現在では、知識・技術、思索までもが含まれている。

市場 一つの商品で一つの市場を形成していない。複数の商品、異なる商品群が集まって、互いに影響しながら市場が成立する。

時制 ものを考える時、進める時、大きな要因である。構造、機能を理解するとき、不可欠な要素である。時制の上で、常に変化が付きまとう。

自然 森羅万象、状態の両方で使われる。バランス、調和として表される。

思想 社会には潮流がある。潮流を構成する社会背景があり、文化がある。未来へのより良い状態を求めて、思想が生まれてくる。

実現 視点によって、期待によって、目的によって、実現状態が変わる。実現は一つであるはずだが複数発生する。

視点 2つのポイントがある。視る前提、視る場所と視る対象である。さらに、視る目的を持っている。

指導 変化しにくい固定された特定の分野で使うのは良いかもしれない。人間的なところで使うには適正を検討しなければならない。

使命 自らが持ち合わせているもの、習得しようとしているものを持って、社会と未来の課題を解決し続けていく行動と思考である。

視野 前提条件によって視野が決定する。時系列意識、目的意識が大きく影響する。期待への可能性認識が関わってくる。

社会 社会が進化してきたプロセスを考える。社会が今後向かおうとしている方向を認識する。向かう方向の障壁になるものはいずれ消え去る。

社会観察 社会観察は現在の状態からの変化を見出すのを目的とする。社会を構成の要素のバランスを計る。社会の改善方法を模索する。

社会基盤 物理的基盤と思想的基盤がある。両方をとらえなければ、社会発展に歪がいく。自由、平等、平和への思想は社会基盤となる。

尺度 公的基準と、私的基準がある。尺度は、基準を元にした相対関係を表現するためにある。

自由 自由の枠が問題となる。認識している枠が、他と共有できるかを確認する。自由には常に責任が伴う。

習慣 生活体験、生活の継続に習慣が現れる。個人特有の癖が含まれる。前提としている事柄が習慣によるものであれば、その改善は困難である。

宗教 宗教が規範と秩序を生み出す。地域社会によっては、宗教観が社会を構成している場合がある。

充実 個人、グループ、地域社会のそれぞれに、精神的、物質的の二種類の充実がある。そのための条件と効果を検討する。

集中 一ヶ所に集める、一時期に集めるがある。目的によって集中すべき機会を見出す。

主観 個人に関わる感覚で、より客観的であろうとする。客観と区別して使用する。

主張 言葉などの表現方法による主張と行動による主張がある。主張は一時的に現れるのではなく、積み上げられた結果である。

順位 順位は一つの基準になる。順位設定の条件によって評価が変化する。誰もが分かる順位でなければならない。

仕様 決められている定義、機能、構造などである。仕様は行動、協働を統一する道具でもある。仕様が決められた段階で結果が決定される。

条件 相関と相反する条件、全体となる条件、選び出し方によって、方向が変化してしまう。

常識 常識は共通認識である。だが、確かめられたものではない。常識は長年に渡って積み上げられた結果である。社会が違えば常識も変わる。集団の暗黙知になる。

状態 視点と目的によって見えて来る状態が変わる。認識できる状態が変わる。できるだけ適正把握できる条件を整える。

焦点 焦点の合わせる対象によって、結果が変わる。焦点を合わせる手段、例えば、技術、知識、思想によって期待値が確定する。

情熱 嗜好性と可能性に影響される。使命などの意識によっても程度が決められる。

消費 生存のため、発展のため、進化のために資源と資源に関わるものが使われる。消費は次へのステップにならなければ浪費となる。

障壁 事実として存在する障壁と、思い込む障壁がある。障壁は、いずれ超えられるべきものである。継続し続ける障壁はない。

情報 情報を多用して使うべきではない。情報は一時的であり、有効に活用できるものである。意識の程度と種類によって、情報は異なる。

情報流 情報流が構築されていると発展率が上がる。閉塞すると停滞する。伝達システムとコミュニケーションシステムが一体化する必要がある。

自立 自らの意識で見て、意思決定ができ、行動を完遂できて自立と言う。誰もが自身のステージを持っているはずである。

進化 進歩とは異なる。変革が起こり、より良い状態、より最適に向かった状態を示す。

人格 「～らしさ」程度にとらえた方が良いかもしれない。基準がなく、区分する方法がない。社会の主観的感性の産物かもしれない。

人工 人が作り出したもの。自然物からの加工だけではなく、思想からまったく新しいものを創り出し始めている。

人材 人を社会、組織から見た単語である。観念的用語である。人材が持つ意味が進化し始めているかもしれない。

真実 真実は一つとは限らない。見方、立場によって真実が変わる。全体をとらえて真実を表現することが少なく、常に部分的であることに注意すべきである。

心情 意識を持った感情と解釈するのが良いかもしれない。立場による状態、目的に向かう状態から起こる感情。

人生 成し得た事柄、成し得ようとする事柄を軸にして、大きな時制の中でとらえた生き様を表す。客観、主観のそれぞれでとらえると見方が変わる場合がある。

診断 科学的基準、思想を元にした基準からのあるべき姿があって、そのギャップを計測し、対応を導き出す。基準を常に確認しなければ、診断が犯す危険性がある。

信頼 信頼は常に条件がついている。考え方で信頼のレベルが決まる。過去の実績による信頼は、過去ではなく、未来に対してしなければならない。過去の実績は、過ぎたことであり、未来が同じであるとは限らない。信頼する者自身の信仰でもある。

真理 意識、認識に関わる用語である。事実、現実とは異なる。解釈された論理的道理。この語に関する理論は多数存在する。

【す】

水準 設定の仕方で平均値が変わり、目標が変わる。一時的な状態であり、普遍的ではない。

推理 推理はロジックを持つ。前提は原則でなければならない。精度を上げるためには体系化された知識を必要とする。

数 基準があり、相対するものに対して用いられる。習慣的な基準を元にする場合もある。

ストレス 抑圧が加えられ、緊張が続く状態を示す。但し、原因の考え方、対処の仕方では避けられるものが多い。

【せ】

成果 成果を自身に対して表現する場合は、自己満足になる。外部の評価が成果となるとした方が、真実に近づく。

生活 体系としてとらえるか、個人の一時としてとらえるかによって、生活のテーマが違ってくる。受け継いでいく基本となるもの、社会を機能させる要素である。

制御 目指している目的を完成させるプロセスに対して使われる。目指す状態がなければ制御はない。望むべきものが何かを確認する。

生産 物、サービス、知識を作り出す行為である。経済社会で使われる。資源と資産を活用し、より大きな異なる価値を生み出しているはずである。生産で使用された資源、資産の総計よりも生産されたものの価値が大きくならなければならない。

生産性 生産されたものが、社会で活用される状態を示す。資源から生産、市場へと流れ、それが機能する一貫した有効性を示す。

政治 地域、コミュニティ、国、世界の秩序と平和と自由のバランスを創出する手段のほずである。

性質 個々の性質は、科学的なロジックで説明すべきである。相対的に述べる場合は、基準を定めて説明する。

成長 一人だけの成長は閉塞する。Win-Winの意味を拡大解釈する必要があるかもしれない。

精度 求めるべき理想値に向かって精度を表現する場合と、過去の状態からの比較がある。技術が進歩するに従って、精度の基準が上がって行く。

制度 運営するため、自由であるため、便利であるための制度でなければならない。抑圧、制限をするものであってはならない。

正当 真理を基準とした普遍的なものを示す。

正統 慣習、歴史的制度、文化を基準にした適切である。正当と一致する率は少ない。正統が適切であるかは、常にチェックする必要がある。

整備 元の状態に対して、現状で可能な最適に対して、定めている基準に対して、整える。基準が何かを問い、基準の適切さを検討する必要がある。

正負 同一、同類の分野に対して逆の意味を持つ。正と負は常に一対となって存在する。

制約 制約の存在意味を確認する。安定、バランス、成長を欠くものであってはならない。

責任 責任は役務を果たして責任の意味がある。一般に責任を取る表現があるが、これほど無意味な語はない。

世代 年代、文化を基準にして区分される。世代が変わっても同じ意味を持つ場合(小学生の心理は世代が変わっても同じ)と、世代毎に常識、習慣が異なる場合がある。

設計 構成、機能を一つにし、制作する内容を一体化する。作業効率を上げる手段になる。

全体 意識した全てが全体になる。完全な全体は不明である。区切りのある全体を全体とするかは思想に関わる。

選択 限りあるものの中から選択する。選択する母集団が多すぎると母集団を絞り込む。選択には母集団という制限がある。だが、全体から選択する方法を見出すのが最もよい。

前提 過不足のない適切な前提を持つのが良い。基本、原則が前提になるのが良い。目的に従って、都合の良い前提を持ち易い。

戦略 戦略を決めた段階では確定であるが、進行に従ってのチェックリストになり、戦略は随時更新される。そうでなければ、戦略は単なる飾りものになる。

【そ】

相関 相関する事柄を見逃しやすい。単に同じとしてしまう。相関していても異なっているから相関である。

創造 今までにないものを創り出す。物から物を創造している時代が長かった。思想から、真理から創造するものが増えてきている。真にないものが作り出されている。

想定 起こり得る可能性を探る。ロジカルに探るが、見落としは必ずある。限度とされていたものを習慣で決めている。想定外は必ずあるとする。

相反 関係性に於いて逆であるが、同一性質である。相関と相反は矛盾しない。

組織 組織は社会の機能の一部を果たしている。社会の問題を解決し、社会を進歩させる使命を負っている。これを認識して、組織人であると言える。

存在 意識すれば存在する。意識しなければ存在しない。存在は意識上の言葉かもしれない。

【た】

体系 性質の類似性、思考の連続性、理論の継続、一つの塊りで作られている。体系は、活動するために機能して意味を持つ。

卓越 一つだけの優れた存在である。卓越しているモノは常に成長を続ける。一度卓越化してしまうと、卓越状態が続きやすい。

達成 目的があって達成がある。意志があって、精度が満足できて達成がある。達成条件が整っていなければ言い訳が残る。

断絶 継続していたものが止まる。そして、荒廃が始まる。断絶の時、異なる新しいものが生まれている。断絶は存続のために必要である。

【ち】

チーム 同じ目的を持ち、協働して事を成す者たち。それぞれが得意とする役目を果たす。目的を果たして、チームの特異性が生まれる。

知覚 意識して認識をする。知覚したモノは区分され目的に対して連結される。思考、行動と結びついて意味を持つ。

知識 過去は飾り物だった。現在では活用できることが前提である。但し、倫理等を含めて全ての知識とするには広い定義が必要である。教育と必ず完全に重なるとは限らない。

秩序 前進するために秩序が必要である。自由と平等のための秩序がある。そのために制度がある。

中心 中心が必ずあるとする。形状、性質、思考、元々があり、始まりがある。複数の現象が集まった現象であっても、集まる原因があった。集中と拡散がある。

抽象 抽象はあらゆる所に浸み込んでいく。あらゆるものを統合する可能性を持っている。概念を構成する。

挑戦 可能にし得る方法が見つからずに挑戦するのは無謀である。現実性を期待しない者はいないが、確実でない動けない者は怠慢である。

潮流 全体のバランスの中で生まれて来る大きな力である。社会の動きを見る大切な要因である。

調和 物理的と概念的の2つがある。混合と融合の2つがある。衝突がない状態である。

【つ】

追求 行動姿勢に関連する単語には能動と受動がある。追求を受け身で解釈すると適切な追求が分かるかもしれない。

【て】

提案 改善、予防、変革への期待行為である。現状と未来を把握し、ギャップを埋める。また、創造への挑戦である。提案には必ずリスクが生じている。

定義 定義がなければ定理がない。定義がなければ比較根拠が不明になる。基準、前提を構築するツールである。

データ 最小に分解されたものから、現象の塊りまでがある。現れたものが記録され、比較、混合、分析ができる状態になってデータとなる。データの性質、または理解によって活用方法が変化する。

適応 対象と当てはめるものの組み合わせである。一時的ではなく、時系列でとらえなければならない。適応程度は、時間が過ぎてから分かる。

適正 適正は知識・技術のレベルによって変わる。適正とする基準によって変わる。求めようとする基準によって変わる。創造の一つである。

デザイン 設計と類似する。日本語としては匠を求めているかもしれない。

転換 状況、前提、活用、対象等々を転換する。元々を転換すると結果が変わる。転換することの長短所がある。

伝承 知識、経験が体系的、構造的になっていると伝承できる。機能しているものは伝承しやすい。習慣、文化などの生活環境は伝承が担う。

【と】

統一 それぞれの意志で統一されているのがベストである。それぞれの意志が統一される目的、利点、価値観を整える。

道具 道具は物だけではない。知識、技術、言葉、数なども道具である。道具には手入れが必要である。使い慣れているモノは道具として忘れられやすい。使っているモノの再検討が常に必要である。

統計 統計は数だけではない。言葉の統計もある。定性データ(音、画像、言葉)も統計の対象である。

闘争 自らの中だけで完結される闘争は害がなくて良い。独りよがりの闘争がある。互いの利害での闘争がある。問題を取り除くための闘争がある。

特異 一人の能力だけで特異化するのは困難である。複数の得意を集めて特異化することは難しくない。特異を活かしているのが社会の組織である。

都市 都市の規模と、リスク、問題の規模が比例する。科学技術の発展と思想によって、都市が規定される。

トレンドトレンドは変化の芽である。その前にトレンドとなる前提がある。価値醸成、価値変化、意味変化によってトレンドが生まれる。商品として作られるトレンドは衰退が速い。

【な】

仲間 相互信頼の上に成り立つ。相互依存している。人口が集中すると特定の目的のために成り立つ場合が多い。

【に】

ニーズ 既に持っているニーズ、生まれつつあるニーズ、まだ分からないニーズがある。市場創造は、ニーズ喚起である。

日常 日常は日々の活動であり、日々が類似している。だが、変化し、進歩させるのも日常である。

人間 人物、人柄を指すことが多い。生物としての区分で表現することもある。個人に対しては客観視して言う。

認識 意識と同じ状態である。物事に取りかかる前に、認識している範囲がどれほどかを確認してみる。認識は、どれだけの範囲を把握していると言えるのだろうか。

【ぬ】

【ね】

ネットワーク 情報が活性化すると知識、技術の進歩速度が上がりやすくなる。たくさん問題と解が現れる。抑制ではなく、まとめていく知識、技術が必要になってくる。

【の】

能力 社会に対して発揮できる内容を示す。社会の価値観、文化によって評価基準が変わる。

ノルマ 如何なる仕事も、如何なる状況でもノルマが設定されている。自ら設定したか、与えられているかによって受け止め方が変わる。社会主義では、強制的なイメージが蔓延した。

【は】

場 見える場所ではない。活動し、機能を発揮している分野、活動ステージである。

バーチャル 常に2つの世界がある。リアルとバーチャルである。今まではバーチャルは個人的であったが、共有世界が広がりがつつある。

パターン 知識、技術、思考、具体物を形式化する。モジュールにして組み合わせる。思考展開の核に成り得る。

発見 個人にとっての発見、社会にとっての発見がある。初めての事柄に接する時は大半が発見になる。発見が積み重なっていくと、社会にとっての発見になる可能性がある。だが、発見の対象は元々あったものである。「珍しい」の意味程度と類似する。

発展 一人で発展することはない。常に何らかの力が働いている。意志がある。発展の方向と条件を整える。

バランス 相関と相反があり、物理的と概念的の2つがある。秩序が生み出されている。

判断 目的、選択に対して判断がある。判断をしない判断もある。判断のための材料と条件を整え、それぞれの機能を検証する。

販売 売り込むことを販売とするのだろうか。物、サービスと代価を交換することを示すのだろうか。マーケティングの真の狙いは販売労力を最小にすることである。

【ひ】

比較 見えているもの同士を比較する場合も、自身の意識を基準にしている。基準との比較があって、モノ同士の比較がある。知覚も比較の結果である。

ビジネス 研究、奉仕等を含めて、日々の中心となっている活動を示す。何よりも継続し、育成し、伝承することが大切である。

ビジョン 使命と同じように活動の根底にある。ビジョンが明確になれば、伝達、協働、コミュニケーションが円滑になる。

ビッグデータ データとして記録できる全てのデータを言う。ビッグの範囲が技術進歩によって拡大していく。ビッグデータは区分しない方が良い。

人 自身をも含めて表現している場合が多い。個人を中心に表現する。

評価 評価があって順位がある。順位は範囲に限定があり、評価の基準は限りがない。基準と条件を明確にするのが評価より優先する。

標準 ある時代、あるグループによって標準が異なる。分かり得る知識、技術によっても異なってくる。

平等 自由と同じように、義務と責任を果たせて平等が得られる。平等にしようとすることで、秩序が保たれる。

【ふ】

ファッション ファッションは衣服だけではない。社会の潮流変化を顕す。時代、文化を反映する。

風土 自然の影響で形成される。生活、価値観に現れ、自然の風景を作る。

ブランド ブランドは一気に作られない。長年の積み重ねが必要である。特異性の表現ができなければならない。

プロフェッショナル プロには、プロとしての能力を発揮するだけではない。適切にその分野をリードし、伝承していかなければならない。

プロジェクト 特定の目的に対して、専門的に優れた人材が集まって成果を達成していく。目的が達成されれば解散される。

文化 生活、共同の必然から、地域に密着して積み上げられていく。慣習となり、受け継がれていく。精神的糧になり得る。

分解 知識、技術の範囲で可能な限りの分解をする。分解する度に、分解のために科学が進歩する。発見がある。知識、技術が進化するためにも、生産のためにも、精度をあげるためにも大切な工程である。

分析 分析は目的を持っているが、分析結果を予測すべきでない。常に新しい眼で見る。分類等で既成カテゴリーを意識してはならない。意識した途端に、分析結果は、分析の前に分かっているのと同じである。

【へ】

平均 平均は母集合によって変わる。異常値が多数あれば、平均が平均でなくなる。その時の平均の意味を検討しなければならない。

平和 一人だけの平和は存在しない。他から決められる平和は存在しない。

変化 意識がなければ変化はない。知覚、認識しなければ発見は出来ない。変化を能動的に使えると意味が発生しやすくなる。

変革 意識、社会、制度、知識、などにかかる。対象を固定してはならない。一つの変革が起こると影響するところがたくさん出てくる。

【ほ】

傍観 傍観するには、傍観の理由があるはずである。見える位置に居るのだから、位置に居る状況を認識する。

方向 近視眼的方向では意味がない。方向を定めるだけでも用をたさない。求めるべきものを見出さなければならない。

報連相 報連相は重要な語句である。新人からトップまで報連相が実行されていると、社内の情報流は活性化されている。創造が盛んになる。

【ま】

マーケティング 販売とマーケティングは異なる。マーケティングが完全であれば、販売は最小にできる。

マイニング 物を対象としたとき、マイニングは「掘り当てる」になる。知識、情報に関わるマイニングになると、発見からの認識になり、変革になる。

マネジメント 人に関わることであり、資源を集中させることである。現在から未来を眺め、目的を明確にする。成果を最大限にする方向へと向かう。

満足 人によって満足の状態が違う。満足を理解している者としていない者とは認識が違ってくる。

【み】

未来 未来は概念である。明日がある、遠い未来があるのを前提にして人は活動をしている。

見る、観る、見る、視る、診る ミル目的によって文字が違っている。ミルは理解する始まりの一つで、思考・行動を集中させもするし、分散もさせる。ミルために知識と時間が必要である。

民族 文化、習慣を区分する一つの手段となる。科学、思想が進化すると、人類学的意味だけが残る。

【む】

矛盾 相反は一つの場合で考えられるが、矛盾を生み出してはならない。矛盾は、思考が体系化されていないとき発生しやすい。

無駄 生産、効率を考えれば、無駄を排除しなければならない。創造を対象にしたとき、無駄はほとんどなくなる。知識は、行動終了後に、無駄を有益に変えられる。無知が無駄を作る。

【も】

目的 目的がなければ探すしかない。確信が持て、自らにとって必然であるものを探す。現在の立場と持っているものを合わせて、成すべきことを探す。

目標 その時々達成すべき事柄。目的へのプロセスに多数存在する。

モチベーション 期待が現実の延長線上にあるとき、モチベーションが上がる。強制的作業のとき、個人の可能性が見出せるようにしなければならない。

問題 現状と自身にギャップがあり、そのギャップが障壁になり得るとき問題となる。ギャップを認識しなければ問題は存在しない。

【や】

役割 自身が見出した役割、与えられた役割、必然的な役割がある。役割を如何に受け取るかで結果が可能性を変えてしまう。

【ゆ】

有効 有効の基準を決めてしまう場合と、基本となる有効性がある。決められた有効性が真であるかを確認する必要がある。

【よ】

抑圧 常に何らかの力が働いて制御しようとする。働く力のバランスが大切になる。

欲求 不足に対してと、期待に対しての欲求がある。自ら課す欲求と、求める欲求がある。使い方とバランスで欲求をプラスに変えられる。

世論 社会の緊張と抑圧から起こる潮流の一つである。世論が正鵠を得ている場合もあるが、その根拠を確かめなければならない。世論をそのまま受け止めるのは甚だしく危険である。多数の人々の共通した考えは、丁寧に検討されているはずもない。

【ら】

【り】

リーダー 元々、リーダー的素質を持っている人が多い。過半数以上の人はリーダー要素を持っている。学び、経験を重ねて、リーダーの責が果たせるようになる。

利益 コストへの視点と類似する。利益とコストは相反する。互いに同時に存在する。但し、利益とコストのバランスの問題ではない。

理解 同じ対象でも、人によって、理解の範囲と程度が異なる。見方が異なれば想定外の理解が出てくることがある。自身が知覚している事柄と他の比較検証が常に必要である。

リスク 事を成そうとすれば、事の大小に関わらずリスクが生じている。常にリスクがあるとする。但し、リスクの性質や内容を予想する必要はない。

理性 知識と経験を持って、ロジカルに知覚し、判断する。間違いをも思考範囲に含めている。

理想 個人の中に、組織として、個々の状態で理想が生まれる。知識、推理と発想で構成されていく。

流通 時と場所、モノの移動程度と円滑さを計る。時代が進むごとに流通速度が速くなり、流通の意味が広く深くなる。限りなく時間はゼロに近づく。

倫理 相互依存が前提にあれば、倫理を挙げる必要がない。相互間の尊重から始まっている。秩序と安定を求めている。

【る】

【れ】

歴史 歴史は前へ進むためにある。これからをより適切に進めるためにある。

【ろ】

労働 労働の意味が文化、習慣によって違っている。期待することと社会秩序によって影響される。

論理 知識が体系化されており、構造を持っていると、対象に対して理解と創造が進む。確かな論理は普遍へとつながる。

【わ】

和 努力し、共に創りだすものである。人々の「和」の合計だけで「和」は維持できない。

一つの単語に、正と負の意味があるとするのは間違いではないはずだ。立場によって意味が変わる。うれしい時と悲しい時とでは、同じ風景でも明るさ、華やかさが違って見える。

話す時、書く時、単語を使うときに、その時の心情が単語に乗ってしまう。だからこそ、一つの単語に対して、時間軸と相関と相反を意識しなければ、適切に相手に伝えられないのではないかと思う。

説得をしようとした時、相手の心情を理解せずして説得は出来ない。一つの単語の正と負を理解して、単語つなぎ合わせていけば、互いに心を開けるのではないだろうか。

ここで表した単語への視点は、一つの見方である。たたき台して戴き、ご自身の意味を見出して戴ければと思う。

使用単語一覧

300単語を理解するために、一単語ずつを単語群で図式にした。単語の意味をイメージし、自分なりの意味を仕事や活動に合わせていくためである。

p.6～p.57で使った単語の総数は3676単語になった。重複した単語を削除すると使用単語数は1883単語になった。

如何なる仕事にも共通している単語数としては、十分ではないかと思う。様々なレポートを読んでも、専門分野を除く単語群として当てはまるはずだ。逆の言い方をすれば、これだけの単語群を把握すれば、社会現象や組織、マーケティング、マネジメントについてまとめられるはずである。

使用単語一覧は、50音図順で表した。単語の直ぐ右に表されている数は、使われた頻度で、その右の数は、最初に出てきたページ数である。

一番多く使われた単語は「目的」で44回であった。次が「機能」と「社会」で27回、次が「知識」の25回であった。

仕事をするとき、「目的」を持っていなければならない。「機能」がなければならない。「社会」を見ている必要があり、「知識」を持って視なければならない。仕事をすることで、創造のために、「目的」「機能」「社会」「知識」は重要単語となった。

このページに表された単語群から、p.6～p.57を引いても参考にして戴けるのではないだろうか。

1つ	1 22	育成意識	1 22	移動自由	1 41
ASP	1 9	意見	2 26	移動平均	1 42
NPO	1 24	意向	1 31	移動率	1 42
SNS	1 9	意志	1 29	イノベーション	1 8
あ		維持	7 10	異物	3 43
相方	1 57	意識	14 9	意味	6 11
相手	4 29	意識上	1 31	意味データ	1 37
アイデア	1 15	意識障壁	1 41	意味的	1 20
アカウントティング	1 23	意識調査	1 48	イメージ化	1 9
諦め	1 39	意識的構成	1 49	イメージ形成	1 48
アタック	1 28	意識統一	1 54	イメージ統合	1 9
圧状	1 14	意識範囲	1 49	意欲	1 28
圧倒	1 14	意識ブロック	1 50	依頼	1 30
集める	1 28	意識流通	1 15	因果	2 12
圧力	2 41	意思決定	5 10	因果関係	1 53
当てはめ	2 38	異質	1 49	因子	3 25
アナウンス効果	1 26	イジメ	1 14	因習	1 34
アナログ	1 42	意匠	4 40	インターネット	4 9
アニミズム	1 12	以上	1 42	インターフェイス	2 41
アプローチ	6 13	異常	2 32	イントラネット	2 9
争い	2 18	衣食住	1 25	インパクト	1 43
あるがまま	1 12	位相	1 37	インフラ	1 26
アルゴリズム	2 40	依存	1 30	インフラ機能	1 42
安易	1 41	位置	3 36	う	
安心	5 7	一期	1 44	ウェブ	1 9
安全	6 20	一時的	1 25	受け継ぐ	1 39
安泰	1 25	一商品多ユーザ	1 24	動き	1 42
安定	12 6	位置変動	1 33	運営	2 15
安定性	2 11	一貫性	1 48	運賃	1 32
安寧	1 25	一世	1 44	運転	1 26
アンバランス	1 10	一定期間	1 54	運動	1 33
暗黙知	2 34	一般	1 30	運輸	1 42
い		一般人	1 26	え	
意義	1 29	イデオロギー	1 26	永遠	1 50
行き来	1 42	意図	2 31	影響	6 10
異業種	1 54	異動	1 15	影響性	1 17
育成	6 7	移動	9 6	影響度	1 11

使用単語一覧

エキサイト	1 53	改造	1 8	可視化	1 9	関係性	7 11	企画	4 38
エクストラネット	1 9	解体	1 46	荷重	1 53	慣行	1 34	規格	1 16
エネルギー	6 12	開拓	1 8	過信	1 7	勧告	1 15	基幹	1 16
お		回答	1 29	仮説	6 10	観察	11 8	期間	4 33
追い込み	1 53	概念	16 8	仮想	1 38	観察基準	1 37	機関	1 23
応用	5 13	概念化	1 9	仮想化	1 9	慣習	6 15	起業	1 20
往来	2 42	概念形成	2 23	家族	2 34	勘定	1 20	器具	1 33
大方	1 30	蓋然性	1 32	課題	3 10	感情	4 28	危険	1 18
オーバーホール	1 46	概念的	2 39	課題解決	1 23	関心	1 22	機構	2 23
大まか	1 30	概念変化	1 8	価値	4 11	完遂	1 44	技巧	1 17
お金	1 25	開発	2 8	価値観	10 8	完成	3 11	疑似	1 55
置き換え	1 45	外発的	1 22	価値変化	1 25	間接	4 24	儀式	1 34
遅れ	1 42	回避	1 18	合体	1 41	完全	3 34	機軸	1 36
行い	1 31	外部	2 29	活動	4 22	完全化	1 56	疑似体験	4 7
押さえつける	1 14	外部設定	1 41	活動利用	1 21	観測	1 46	気質	1 17
押し付け	1 54	改変	1 17	活躍	2 13	含蓄	1 29	疑似的環境	1 9
遅い	1 43	解放	1 43	活用	4 13	眼中	1 55	技術化	1 55
オペレーション	2 23	解剖	1 46	活用性	1 55	鑑定	1 50	技術進化	1 24
思いつき	1 15	解明	1 46	活用成果	2 13	観点	1 51	技術流	1 41
思惑	2 27	海流	1 14	活力	1 26	観念	3 9	基準	24 7
音韻	1 19	科学	8 8	仮定	1 38	観念的	2 43	規準	4 8
オンリーワン	1 22	科学技術	1 13	過程	1 47	完璧	1 34	基準化	1 41
か		架空	2 9	カテゴリー	3 35	願望	2 7	基準時期	1 37
甲斐	1 33	学識	1 13	適う	1 38	関与	4 10	基準単位	1 46
快・不快	1 56	学習	2 11	金	2 42	管理	1 26	基準値	1 39
外界	2 12	革新	7 8	可能性	5 28	元利	1 15	基準変化	1 27
改革	1 8	拡大	1 42	可能範囲	1 32	貫流	1 14	基数	1 32
回帰	1 42	拡張	1 42	過不足	1 38	慣例	3 11	既成	1 38
会計用語	1 20	確定	2 16	我慢	1 14	慣例定義	1 46	規制	2 16
解決	1 54	確度	3 31	渴き	1 14	関連	3 10	既成物	1 17
外見	1 50	確認	5 29	考え	2 31	き		基礎	2 16
外需	1 24	隔壁	1 20	感覚	2 51	キーマン	1 40	規則	2 32
解除	1 41	格別	1 22	感覚的	1 22	起因	1 10	規則性	1 9
会心	1 53	革命	1 8	喚起	1 24	記憶	1 33	既存	4 24
解析	1 46	確率	3 27	環境	10 8	機会	7 7	既存カテゴリ	1 10
解析ツール	1 46	過去	4 10	関係	2 53	機械	1 35	既存定義	1 46
改善	10 8	加工	1 17	関係条件	1 39	機会均等	1 26	期待	15 7

使用単語一覧

期待値	2 42	寄与	2 24	切り捨て	1 36	グローバル化	1 9	結果	4 18
気付き	1 55	教育	8 7	規律	2 34	グローバル経済	1 15	激昂	1 53
基底	1 16	教育行為	1 15	機略	1 18	群	1 12	結実	1 27
既定	5 19	教学	2 7	気力	1 26	け		傑出	1 22
規定	2 10	共感	1 29	記録	1 37	経営	1 23	決断	1 51
既定原理	1 53	競技	1 33	議論	1 19	経過	1 33	決定	2 44
既定正解	1 27	競合	1 28	均一	2 32	計画	7 21	結論	2 10
起点	1 47	業際	1 24	近過去	2 37	計画基準	1 25	牽引	1 10
軌道	1 36	教示	1 15	均衡	2 39	景気	1 15	原因	2 10
機能	27 6	凝集	1 28	均整	1 39	経験	8 13	見解	1 29
技能	1 17	狂信	1 7	緊張	9 14	経験成果	1 11	原価主義	1 20
機能化	2 7	共生	1 6	緊迫感	1 14	傾向	1 43	原義	1 19
機能性	2 12	強制	1 53	吟味	1 35	経済	7 9	研究	5 11
機能体	1 42	業績	1 57	近未来	4 28	経済性	1 11	研究心	1 28
機能提供	2 23	競争	3 20	勤務地変更	1 15	経済的	2 21	現況	1 47
機能データ	1 37	共存	1 38	金融	3 15	経済力	1 20	原形	1 41
機能変化	2 33	共存規範	1 49	金利	1 15	計算	1 32	言語	4 19
機能補完	1 6	境地	1 8	勤労	1 57	形式	1 9	健康	2 6
規範	3 26	共通	3 26	<		形而上学	1 12	現在	3 12
基盤	4 6	共通意識	1 30	偶像	2 34	芸術	1 52	現在基準	1 50
気分	2 53	共通化	1 41	空費	1 49	芸術性	1 11	現在の	1 20
規模	2 21	共通認識	1 19	空論	1 26	形状	4 17	検索	1 49
技法	1 17	共通部分	1 30	区切り	1 22	形成	1 51	言辞	1 19
基本	2 16	共通要素	1 9	具現化	1 49	計測	2 32	堅実	1 54
基本仮定	1 16	共同	3 31	具体	1 57	継続	9 7	現実	5 17
基本形	1 51	協働	7 6	具体性	1 28	継続性	2 57	現実化	3 8
基本前提	1 16	教導	1 15	具体物	2 9	継続的	1 20	検証	8 7
基本能力	1 45	共同作業	1 54	国	1 26	形態	9 16	現象	12 9
義務	2 27	強迫	1 14	工夫	1 22	形態イメージ	1 55	現状	1 47
疑問	1 10	業務	2 23	区分	3 7	形態確定	1 24	現象データ	1 37
客体	1 30	教養	1 55	区分機能	1 49	形態変革	1 8	現勢	1 47
客観	3 27	協力	1 57	区別	2 50	形態流動	1 24	健全	1 30
客観性	1 26	局面	2 22	組合	1 31	経理	1 15	源泉	1 16
ギャップ	10 8	挙証	1 10	組み合わせ	2 17	計略	1 18	原則	4 7
急激	1 8	許容	1 6	比べる	1 33	激情	1 28	原則化	1 36
究明	1 46	許容耐性	1 16	グローバルゼーション	2 9	ゲスト	1 24	現存	2 36
糾問	1 11	距離	3 24	グローバル	1 9	血縁	1 25	現代社会	1 30

使用単語一覧

限定	1 49	構築	1 22	個人主義	1 49	再現	1 55	産業進化	1 20
限定範囲	1 42	交通	1 42	コスト	4 8	最高	1 42	算出	1 32
限度	2 15	公的	1 52	個性	1 17	財産	1 20	残存	1 39
検討	2 18	行動	11 8	古代経済	1 12	最小化	4 10	算定	1 32
見当	1 50	行動因子	1 25	骨格	1 17	最小概念	1 46	参入時期	1 43
原動力	1 22	行動確認	1 56	後手	1 43	最小単位	2 46	参入障壁	1 20
見聞	2 55	行動環境	1 14	固定	2 6	最小適量	1 21	三無ダラリ	1 39
憲法	1 26	行動主体	1 44	固定化	1 9	再生	2 21	残明細	1 39
原理	5 16	行動範囲	1 34	固定値	1 7	財生産	1 15	残留	2 33
原理構成	1 16	公德	1 49	小手体	1 48	最大	1 39	し	
権力	1 52	高度知識	1 6	言葉	4 19	最大化	3 10	思案	1 38
こ		効能	1 53	言葉データ	1 37	在宅	1 24	思惟	1 45
行為	2 31	広範囲	1 30	個別	1 9	再定義	1 46	自意識	1 56
効果	8 17	興奮	1 56	個別性	1 52	最低基準量	1 54	自意識確認	1 46
公開	3 9	公平	2 27	コミュニケーション	5 19	最適	3 29	ジェネレーション	1 50
効果性	1 39	公理	3 16	コミュニティ	6 25	最適化	10 6	支援	1 11
交換	1 41	合理性	1 39	誤訳	1 19	最適機能	1 51	自我	2 30
好奇心	1 28	効率	7 8	コラボレーション	1 54	最適流通	1 48	視界	1 55
興業	1 20	効率化	1 42	根拠	1 10	最頻値	1 32	自我隔離	1 30
貢献	3 24	効率性	1 39	根源	2 16	財分割	1 15	視覚	1 55
考察	1 15	効力	2 33	混合	2 39	材料	7 17	自覚	3 29
公算	1 31	高論	1 26	混合刺激	1 41	探す	1 49	時価主義	1 20
公式	1 16	五感	1 51	混成	1 42	作業	1 35	仕方	1 29
交渉	1 53	顧客	3 24	コンセプト	1 40	削除	1 11	時間	8 7
口承	1 13	顧客対象	1 21	コンセンサス	1 30	策定	1 38	時間軸	4 11
考証	1 10	刻	1 25	混濁	1 42	座視	1 43	時間展開	1 50
向上	2 8	語句	1 19	根底	1 16	査定	1 38	時期	4 18
向上心	1 28	国際的	1 9	コンテンツ	1 48	悟り	1 55	指揮官	1 54
交信	1 41	国土	1 52	コントロール	2 35	差別	1 52	時期比較	1 7
公人	1 30	告白	1 13	根本	1 16	差別化	1 20	識別	1 50
公正	3 27	心地	1 56	根本命題	1 16	サポート	1 24	事業	2 21
構成	4 17	心得	1 55	さ		作用	3 36	資金	1 21
合成	1 19	誤差	2 32	サービス	2 24	作用変化	2 53	軸	2 36
構成根本	1 16	故障	1 43	差異	2 30	産業	7 8	刺激	4 28
構想	2 40	個人	5 30	財	1 49	産業構造	2 37	資源	13 18
構造	12 6	護身	1 38	採掘	1 49	産業構造変革	1 9	資源提供	1 24
構造化	2 10	個人基準	1 11	サイクル	1 21	産業細分化	1 20	自己意志	1 27

使用単語一覧

志向	3 31	時制	10 7	指定基準	1 16	社内観察	1 54	縮小	2 18
思考	3 13	史跡	1 52	私的	1 52	邪魔	1 20	熟練	1 35
嗜好	1 24	自然	5 7	始点	5 36	自由	7 6	熟練技巧	1 22
思考構造	1 19	自然公物	1 12	視点	11 6	収益	2 18	主権	1 26
志向性	1 48	自然界	1 12	時点	2 25	縦横	1 50	趣向	1 15
思考体系	1 49	自然科学	2 12	至当	1 34	習慣	15 7	趣旨	1 40
志向の範囲	1 55	自然学	1 12	指導者	2 54	習慣の意識	1 56	主唱	1 29
自己実現	2 22	自然哲学	1 26	指南	1 15	習慣の無意識	1 56	種族	1 52
自己知識	1 55	自然法則	2 12	思念	1 45	周期性	1 50	主体	1 30
仕事	10 6	思想	12 12	支配	2 39	宗教	4 27	手段	4 28
自己内	1 55	思想的	1 26	慈悲	1 27	宗教性	1 11	主張	2 19
自己欲求	1 22	持続	2 28	資本変化	1 20	集計	1 32	主潮	1 27
視座	1 51	自他	1 56	地味	1 52	集権	1 23	術	1 29
資材	1 21	事態	1 7	シミュレーション	1 7	集合	1 28	出現	1 36
自在	1 27	時代錯誤	1 42	市民性	1 57	集合体	1 49	熟考	1 41
思索	3 29	思潮	2 27	使命	8 18	宗旨	1 52	出発点	1 16
施策	1 54	質	1 17	視野	1 55	充実	2 6	主賓	1 24
視察	1 46	疾患	2 31	社会	27 6	収集	2 36	寿命	1 32
資産	2 20	実業	2 21	社会影響	1 26	収縮	1 14	主務	1 23
資産化	1 18	実験	2 10	社会関係権	1 27	習熟	1 13	需要	2 24
資質	1 45	実現	3 7	社会観察	2 37	重心	1 36	種類	1 50
事実	2 37	実現場所	1 40	社会機構	1 52	修正	1 18	順位	1 7
史上	1 12	実現余地	1 31	社会機能	4 15	集積	1 28	循環	1 49
市場	9 18	実効	1 33	社会機能変化	1 20	十全	1 34	順序	1 7
市場観察	1 54	実行	2 27	社会基盤	3 6	習俗	1 34	順当	1 34
事象基礎	1 16	実際	1 50	社会基本機能	1 26	充足	3 6	順応	1 38
市場経済	1 15	実在	1 36	社会偶像	2 12	集団	1 50	準備	2 7
市場効率	1 21	実証	1 10	社会合意	1 49	集中	4 18	峻別	1 52
市場状況	1 47	実証済み	1 38	社会事業家	1 20	終点	2 42	準用	1 45
市場性	1 21	執政	1 26	社会集団	1 42	十分	1 53	仕様	3 29
市場調査	1 48	実績	1 57	社会性	2 11	周辺関係	1 28	照応	1 38
私心	1 53	実践	1 7	社会通念	1 30	充滿	1 6	障害	1 20
私人	1 30	実践場	1 22	社会的	1 22	集約	1 36	生涯	1 53
自身	4 8	実態	5 6	社会適応	1 22	主観	2 30	生涯目的	1 22
システム	10 2	失敗恐怖	1 22	社会法則	1 27	主観性	1 28	情感	1 56
姿勢	4 13	実用	1 45	社会問題	1 14	主義	2 25	状況	5 7
施政	1 26	実力	1 45	尺度	2 19	需給	1 15	状況確認	1 38

使用単語一覧

状況再現	1 37	調べる	1 49	診断	1 38	推論	1 37	成功期待	1 22
状況変化	1 14	事理	2 16	伸張	1 42	推論規則	1 16	整合性	5 33
証券	1 24	自立	3 44	進捗状況	1 47	数	2 32	正鵠	1 33
条件	15 6	自立心	1 56	新定義	1 46	数学	1 32	精査	1 35
照合	2 33	思慮	1 31	人的	2 20	数値	1 37	制作	1 15
常識	2 30	資料	2 17	進展	2 8	数値意味区分	1 37	精察	1 46
照準	1 28	資力	1 20	進度	2 25	数値データ	1 37	清算	1 17
症状	1 53	至論	1 26	人徳	1 44	スキーム	1 41	生産	10 18
上昇	1 42	人為	1 31	心服	1 31	すきま	1 40	生産化	1 20
上昇思考	1 7	進化	9 8	人物	2 44	スケジュール	1 57	生産期間	1 21
状態	15 7	人格	2 19	新分野	1 8	筋道	2 49	生産性	2 21
状態認識	1 26	新カテゴリー	1 10	進歩	5 6	スタイル	1 9	生産物	1 31
上達	1 42	進化論	1 12	信奉	1 31	スタンダード	1 16	政治	7 8
象徴	1 34	新規	1 39	シンボル	1 16	ステージ	1 22	政治障壁	1 41
焦点	1 28	新規性	4 40	人文	1 13	ストレス	1 53	性質	11 17
情熱	1 28	新規立ち上げ	1 20	信用	2 31	スポーツ	1 33	精神	3 28
情念	1 56	新機能	1 20	信頼	4 6	棲み分け	1 6	精神活動	1 52
消費	3 21	進境	1 11	信頼性	1 48	世		精神的	2 6
商標	2 48	進言	1 29	森羅万象	1 12	正	3 42	生成	1 12
商品	5 8	人権	1 27	審理	1 35	成育	1 6	成績	1 57
障壁	2 20	信仰	4 7	心理	2 14	成果	16 11	正則	1 34
障壁比較	1 31	人工	2 31	真理	8 12	正解	2 29	整地	1 8
情報	8 6	人口規模	1 42	真理基準	1 47	生活	18 6	成長	3 11
情報流	5 14	人口集中	1 42	心理的	1 53	生活課題	1 42	正調	2 6
証明理論	1 10	人材	5 18	尽力	1 24	生活基盤	1 15	成長性	1 17
消滅	1 36	人材能力	1 15	新理論	1 10	生活主体	1 44	静的能力	1 45
常用	1 45	真実	1 50	人倫	1 49	生活水準	1 52	制度	19 6
将来	2 50	人種	3 52	親和	1 19	生活様式	6 14	精度	9 8
条理	1 16	心情	2 19	親和性	1 45	静観	1 43	正当	2 6
商流	1 48	寝食	1 25	す		正義	2 26	正統	3 34
食	1 52	信じる	1 31	図案	3 40	正規分布	1 32	正当化	1 26
職場	1 25	心神喪失	1 14	推計	1 32	制御	8 10	正当性	1 19
所見	1 29	真正	1 50	推進	1 22	正教	1 52	正統性	3 11
所属	1 42	人生	1 44	水準	1 7	制御機能	1 53	制度障壁	1 41
所有権	1 25	真相	1 50	推測	1 12	制御指数	1 32	制度的	1 27
処理	1 32	新素材	1 17	推定	1 46	制限	5 10	整備	1 35
序列	1 7	身体的	1 30	推理	4 13	性向	1 17	製品	1 24

使用単語一覧

正負	3 29	ゼロ	1 39	創業	1 20	続行	1 39	対比	2 29
生物	1 17	線	1 36	総計	1 32	素養	1 55	タイプ	1 9
成分	1 33	遷移	1 6	造詣	1 13	素粒子	1 17	太平	2 6
性別	1 43	先駆者	1 54	増減産	1 21	損益	1 18	大未来	1 50
精密さ	1 33	線形	1 45	相互	2 43	尊厳	1 44	タイミング	1 18
制約	2 31	選考	1 41	相互依存	8 6	存在	3 16	対話	1 7
生来	1 44	善後策	1 54	操作	4 35	存在意義	1 40	絶える	1 39
成立	4 11	潜在	1 24	創作	1 46	存続	1 39	互いに	1 23
成立条件	1 16	潜在化	1 20	創始	1 20	存立	1 27	卓越	2 22
生理的	1 22	センス	1 51	相乗	2 42	た		卓抜	1 22
精力	1 26	全数	1 49	増殖	1 41	ターゲット	3 7	匠	1 17
セールス	1 48	全体	2 29	創生	1 39	対応	3 14	他国籍企業	1 9
世界	1 52	全体意志	1 34	創造	20 6	代替え	2 18	多産	1 21
世界情勢	1 14	全体主義	1 49	想像	1 56	大過去	1 37	他者意志	1 27
世界秩序	1 44	選択	3 11	相対	5 28	耐久性	1 17	多重性	1 9
析出	1 46	先端	2 17	増大	1 27	大局	1 18	多数	1 7
責任	6 11	選定	1 41	相対比較	1 17	体系	12 9	正しい	1 39
責務	1 11	前提	11 10	相談	1 47	体系化	4 10	他地域	1 30
責務荷重	1 15	前提化	1 19	装置	2 33	体験	1 55	立場	7 10
セキュリティ	1 9	前提条件	2 27	想定	6 7	題材	1 17	立場理解	1 53
世代	2 43	前提手順	1 29	想定未来	1 8	対策	7 18	達成	4 11
積極性	1 28	宣伝	1 48	争闘	1 52	第三次産業	1 24	達成意欲	1 22
積極的	2 31	前途	1 50	相反	13 10	対自然	1 8	達成感	1 22
設計	2 12	扇動	1 26	相反条件	1 43	対処	1 29	達成度	1 13
折衝	1 53	選別	1 52	創立	1 20	対照	2 33	達成動機づけ	1 22
接触	1 53	専門	1 54	総量	1 49	対象	14 11	妥当	1 34
接触面	1 41	専門性	1 45	総論	1 10	対象群	1 33	妥当性	1 50
接続	2 39	専門的	1 22	測定	3 10	対称性	1 10	多品種	1 21
接続因子	1 25	戦略	3 18	素材	5 7	対象設定	1 46	多変量	1 32
絶対	1 32	戦略因子	1 25	組織	13 10	対人	1 57	他要素	1 12
絶対基準	1 7	戦略化	2 38	組織外	2 23	体制	1 12	多要素	1 36
絶対真理	1 50	戦略性	1 48	組織性	1 12	体性	2 16	頼る	1 31
絶対比較	1 17	浅慮	1 41	組織全体	1 18	体制変化	1 9	他力	1 7
設定	1 32	そ		組織体	2 36	大多数	1 30	多量データ	1 49
接点	4 17	相違	2 33	組織内	2 23	対等	1 38	単位	3 32
説得	1 29	相関	11 10	組織力	1 22	対特別	1 30	単価	1 48
刹那的	1 20	相関条件	1 43	組成	1 17	大任	1 57	段階	1 7

使用単語一覧

短観	1 37	知能	1 44	通念	1 27	適応性	1 55	天然	1 12
短期	1 21	着眼点	1 51	ツール	1 41	適応方法	1 18	天分	1 45
探究	2 17	着想	1 15	通歴	1 55	適応率	1 8	転用	1 20
単語	1 37	チャレンジ	1 28	通論	1 10	適合	2 33	と	
団交	1 53	注意	1 15	突き詰める	1 11	適合性	1 35	問い	1 17
探査	1 49	中央値	2 32	辻褄	1 38	適材	1 44	同一性	1 29
単数	1 29	中核	2 16	積み上げ	4 6	適性	1 17	統一	5 29
断絶	1 39	中間面	1 41	つり合い	1 39	適正	3 39	同一	1 49
断定	1 47	忠告	1 29	て		適正基準	1 15	同一関係性	1 10
堪能	1 53	中止	2 18	提案	2 40	適正人口	1 42	同一志向社会	1 42
談判	1 53	注視	1 56	定義	8 13	適正度	1 34	統一する	1 28
断面	1 7	抽象	7 9	定義化	1 46	適正方法	1 10	統一的	1 30
ち		抽象思考	1 16	定義視点	1 17	適正量	1 10	統一的収束	1 16
地位	1 15	中心	3 16	提供	1 21	適正量検証	1 10	動因	1 10
地域	4 19	中枢	1 36	提供システム	1 40	適切	2 39	等価交換	1 25
地域課題	1 42	超意識	1 56	提携	2 54	手口	1 29	道義	1 49
地域社会	1 42	長期	1 21	提言	1 40	デザイン	2 40	動機づけ	1 22
地位変更	1 15	調査	3 11	定性解析データ	1 37	デザインパターン	1 9	道具	5 17
チーム	3 54	調整	1 14	定説	1 56	手順	1 32	統計	2 32
チーム性	1 22	挑戦	5 18	定置	1 6	適格	1 39	統合	1 34
チェック機能	1 18	頂点	1 28	定着	2 6	哲学	4 12	統合一般化	1 9
知覚	6 6	調度	1 33	定点	1 46	撤退	1 43	統合化	1 26
知覚性	1 22	潮流	7 11	程度	5 29	手続き	1 39	動作	1 31
地下資源	1 12	調和	6 6	定番	1 43	手本	1 16	同志	1 31
地球	1 24	直接	4 24	定理	2 16	テラ・データ	1 32	等式	1 16
地球環境	1 9	直売	1 48	定立	1 10	テリトリー	1 36	闘争	2 44
知財	1 20	知力	1 22	データ	8 7	点	1 36	統率者	1 54
知識	25 11	賃金算定基準	1 54	データ化	2 37	展開	3 12	統率力	1 54
知識化	2 33	賃借	1 15	データ確認	1 10	転換	8 11	淘汰	1 28
知識産業	1 20	つ		データ収集	1 56	転向	1 41	到達	1 53
知識前提	1 13	追加	1 41	データ体系化	1 46	伝承	8 13	到達点	2 22
知識体系	1 11	追求	1 11	データ抽出	1 10	伝達	4 11	統治	1 26
知識知覚	1 50	通行	1 42	データベース	2 37	伝達性	1 53	同調	1 53
知識分野	1 19	通史	1 12	テーマ	2 17	伝達率	1 50	動的能力	1 45
知識流	2 23	通常	1 30	手遅れ	1 43	転置	2 15	道徳	1 49
知識労働	1 22	通信	2 24	適応	22 7	伝統	1 34	逃避	1 14
秩序	7 10	通達	1 23	適応状況	2 14	伝統経済	1 15	トウフター	1 54

使用単語一覧

等分	1 27	内需	1 24	年齢	1 15	速さ	1 8	非矛盾	1 31
透明性	1 7	内発的	1 22	年齢層	1 50	ばらつき	2 7	飛躍	2 6
道理	4 16	内部	2 29	の		バランス	13 8	費用	1 15
動力	1 42	内容	2 6	農地	1 8	範囲	9 22	評価	3 24
動力源	1 26	仲間	3 31	能動	1 28	反響	1 43	表現	6 11
同類	1 50	眺める	1 51	能率	1 8	万全	1 34	表現思想	1 50
同類複数対象	1 30	流れ	2 14	能力	4 11	反対	1 10	表現ツール	1 32
都会	1 42	納得	3 27	ノルマ	2 22	判断	10 17	表現ブロック	1 37
得意	4 22	縄張り	1 6	は		判定	1 47	表出	1 41
特異	4 22	難易度	1 24	場	3 22	反動	1 43	表出化	1 19
特異化	4 21	に		把握	1 47	反応	3 43	標準	5 7
特異技術	1 20	ニーズ	3 21	バーチャル	6 9	販売	1 48	評定	1 38
得意集合化	1 22	肉体	1 57	バーチャルモール	1 9	反復性	1 12	標的	1 53
特異性	7 18	肉体労働	1 22	パートナー	2 20	万物	1 12	平等	7 6
得意複合化	1 22	二者択一	1 41	背景	4 10	判別	1 50	広げる	1 42
特殊	2 22	日常	2 6	背景構成	1 16	汎用	1 16	品質	2 42
特徴	4 17	日常経験	1 30	破壊	1 12	ひ		ピント	1 28
特徴抽出	1 9	人間	1 44	計り事	1 18	裨益	1 24	ふ	
特定	2 29	人間関係	3 15	波及	1 48	比較	5 25	負	4 42
特定対象区分	1 46	認識	17 9	始まり	1 31	非現実	1 50	ファジー	1 42
独立	4 20	認識産業	1 50	場所特定	1 24	日頃	1 6	ファシリテーション	1 19
都市	1 42	認識範囲	2 49	パターン	1 9	ビジネス	2 21	ファクション	1 43
土台	2 16	認知	2 29	働きかけ	1 29	ビジョン	1 40	不安定	1 53
土地	2 52	任務	1 54	発案	1 40	歪	1 39	風習	1 34
ドッキング	1 41	ぬ		発育	1 6	非線形	1 45	風俗	1 52
徒費	1 49	ね		発汗	1 14	被対象	1 38	風土	4 30
輩	1 31	値打ち	1 11	発掘	1 49	ビッグデータ	1 37	ブーム	1 43
トランスナショナル	1 15	ねじれ	1 53	抜群	1 22	必然	1 47	フォーマット	1 9
取引	1 22	熱愛	1 28	発見	2 49	必然的	1 53	不可分	1 24
努力	1 6	熱血	1 28	発散	1 10	必然度	1 11	不完全	1 27
トレードマーク	1 48	熱情	1 28	発生条件	1 20	必要条件	1 36	武器	1 33
トレーニング	1 7	ネット	1 9	発想	1 45	必要比率	1 48	普及	1 48
トレンド	1 43	ネットサービス	1 24	発達	2 6	人	6 13	不具合	1 43
徒労	1 31	ネットバンキング	1 9	発展	8 6	人柄	1 44	複合問題	1 38
な		ネットワーク	6 9	発売	1 48	独り	2 30	複数	2 29
内外	1 54	ネットワーク拠点	1 16	場面	1 29	独りで	1 12	ふさわしい	1 38
内在可能性	1 22	狙い	1 43	波紋	1 43	避難	1 14	無事	1 25

使用単語一覧

不成立	1 38	分担	1 54	奉仕	2 24	埋没費用	1 20	視る	1 51
不足	1 24	分別	2 30	報酬	1 57	マクロ経済	1 15	診る	1 51
部族	1 52	文明	1 52	方針	1 41	まこと	1 50	民族	6 11
普段	1 6	分野	1 47	法則	3 32	摩擦	2 10	む	
不調和	1 36	分立	1 44	ハウソク	1 16	混ざる	1 42	無意識	4 31
普通	3 7	分類	1 46	法則作成	1 16	マスメディア	1 26	無意識化	1 14
物質	3 21	分裂	1 51	法則体系	1 49	待ち	1 7	ムード	1 50
物質的	2 6	へ		法則適応	1 39	的	1 53	無益	2 31
物理学	1 16	平均	4 7	法的規定	1 20	まとめる	1 41	向き	1 50
物理的	5 9	平準化	2 7	防壁	1 20	学び	1 13	無気力	1 43
物理的構成	1 49	平成	2 6	方法	12 8	マネジメント	2 18	無作為	1 49
物理的仕事量	1 26	平静	1 56	方法検証	1 10	満悦	1 53	無手段	1 43
物理的範囲	1 55	並列	1 36	方面	1 50	満足	6 11	矛盾	3 36
不適	1 18	平和	6 6	訪問	1 48	満足感	1 6	無人化	1 21
不特定	1 29	平和的	1 30	方略	1 18	満タン	1 6	夢想	1 56
部分	2 11	壁面	1 20	報連相	2 23	み		無駄	1 31
普遍	2 16	ベクトル	1 50	ポードーレス	3 9	見当たる	1 55	無目的	2 31
普遍性	2 12	ベスト	1 39	補完	1 28	見える化	1 41	無理	1 52
普遍的	1 49	変移	1 15	保持	1 33	未確認	1 14	無理解	1 31
不満	1 53	変化	11 7	募集号	1 11	見方	1 50	め	
不毛	1 31	変革	5 8	補助	1 51	味方	2 31	明確	1 30
プライド	1 22	変化点	1 39	母数区分	1 32	ミクロ経済	1 15	銘柄	1 48
ブランド	2 48	変換	4 14	保全	1 42	見込み	1 31	銘記	1 33
フレーム	1 41	偏見	1 52	補足	2 45	道	1 8	命題	1 50
プレミアム	1 11	変更	1 38	保存	1 42	未知	2 38	メール	1 9
プロジェクト	1 54	変事	1 23	哺乳類	1 44	ミッション	1 48	メカニズム	1 17
プロセス	3 7	変遷	1 15	本位	2 16	未発見	1 31	目先	2 50
プロフッショナル	1 22	ベンチャー企業	1 20	本義	1 19	身分	1 52	目印	1 53
文化	13 9	変転	1 41	本源	1 16	見回す	1 51	メディア	1 41
分解	3 46	変動	3 32	本式	1 34	見向く	1 51	目処	1 53
分解定義	1 46	変動的	1 24	本質	1 12	都	1 42	メンバー	1 54
文化的	1 27	ほ		本性	1 17	見やる	1 51	も	
文教	1 13	方角	1 50	本分	1 23	未来	11 10	盲信	1 7
分権	1 23	傍観	1 43	本論	1 10	未来的	1 20	黙視	1 43
分散	2 32	放棄	2 40	ま		看る	1 51	目的	44 7
分析	6 13	方向	6 10	マーケティング	4 21	観る	1 51	目的意識	1 56
紛争	2 14	報告	1 47	マイニング	1 49	見る	1 51	目的設定	1 54

使用単語一覧

目的対象	1 18	養成	1 7	理財	1 15	流転	1 41
目標	3 7	要素	5 17	利子	1 15	流布	1 48
文字	1 19	様相	1 7	リスク	10 18	れ	
モジュール	1 17	様態	1 7	リスク回避	1 15	例外データ	1 10
モチベーション	1 22	用途	1 33	理性	3 14	歴史	2 12
者	1 44	容認	1 45	理想	4 34	レベル	2 10
物	6 7	用品	1 33	理想形	1 47	レベル変動	1 7
物覚え	1 33	要務	1 11	理想値	1 7	連携	5 18
物心	1 56	欲	1 52	理想的	1 16	連結	1 17
物差し	1 32	抑圧	11 14	利息	1 15	連結要因	1 51
文句	1 19	抑止	1 39	立案	1 38	連想	2 45
文言	2 19	抑制	1 56	立論	2 29	連続	1 45
問責	1 11	欲得	1 53	利点	1 41	連続刺激	1 53
問題	5 10	欲望	3 34	利得	1 18	連続性	4 11
問題解決	2 21	予行	1 35	利便性	1 48	連動分散	1 36
問題回避	1 40	予想	1 38	流行	1 43	連絡	1 47
や		予測外	1 12	流通	9 12	ろ	
役	1 57	欲求	5 14	流通量変化	1 25	労働	4 14
躍動	1 33	予定	2 27	流動	1 25	労働形態	1 37
役務	1 24	予備	1 35	流動性	1 7	労務	1 57
役目	3 11	世論	1 26	量	1 54	ロジック	13 7
役割	3 47	ら		領域	1 38	論旨	1 29
ゆ		来性	1 50	了解	1 55	論定	1 47
友愛	1 27	ランダム	1 37	了見	1 29	論理	2 12
勇氣	1 54	り		量産	1 21	論理学	1 12
有効	2 33	リアル	4 22	良識	1 30	論理的	1 22
融合	2 39	リーダー	1 54	領土	1 26	論理法則	1 50
ユーティリティ	1 41	リーダー性	1 45	理論	8 6	わ	
輸送	2 42	リード	2 6	理論化	1 9	ワールドワイド	1 9
豊か	1 6	利益	4 11	理論上	1 31	訳	1 29
ユビキタス	1 24	理会	3 29	理論物	1 17	分ける	1 50
よ		理解	3 55	倫理	7 31	和平	2 6
要因	1 27	利害	1 52	倫理学	1 12	割合	1 15
要求	1 53	利害共通	1 42	倫理的	1 27		
用具	1 33	理解不能	1 53	る			
要件	2 10	力点	1 36	類似	4 10		
様式	2 8	理屈	2 16	ルール	1 36		

まとめ終えて

この書が良いとは言わない。

だが、

私にとって、私自身が日々活用できるものだ。考えるとき、単語図をつなぎ合わせて、思考の過不足を計る。視点のミスを防ぐ。

一つの単語図(p.6～p.57)を取り出し、その図に使われている単語を他の単語図とつなぎ合わせていく。たくさんの単語図がつながってくる。つながった単語図を眺めると自身の思考の一部を表していると分かる。

よくよく眺めて、不適なところを修正して、ロジックを組み立てる。または意思決定の資料にする。考えるための道具または過不足のための尺度になっている。

当社は、言語分析をしている。最小単語に分解して、作者の思考図を計る。または、現象を表したたくさんの文章を一括で分析して、キーワード群を引っ張り出す。その単語群を単語図と合わせる。現れた現象の結末が見えてきそう。

自らの思考を、意思決定を、企画の是非が伺える。
